

特別史跡 岩橋千塚古墳群

発掘調査・保存整備事業報告書 4

2021年3月

和歌山県教育委員会



前山A58号墳 墳丘復元整備完了状況



前山A58号墳出土丹筒埴輪(左)と市民参加により製作された同レプリカ

序 文

和歌山県の北部を西流する紀ノ川の下流域には、肥沃な和歌山平野が形成され、平野部やその周辺には、古くから人々が生活を営んできたことを示す数多くの遺跡が残されています。このうち、紀ノ川下流域南岸の岩橋山塊に位置する岩橋千塚古墳群は当地域の古墳時代を代表する遺跡であり、4世紀末頃から7世紀に至るまで、総数約900基の古墳が築造された全国有数の群集墳として知られています。

岩橋千塚古墳群の一部は、昭和6年に国史跡、昭和27年に特別史跡に指定され、昭和63年、平成12年及び平成28年の追加指定を経て、現在は約63万㎡の指定地の中に500基を越す古墳が保存されています。

和歌山県は、特別史跡指定地内の古墳の整備を計画的に進めるため、平成15年度に「特別史跡岩橋千塚古墳群整備計画」を策定しました。これに基づき平成15年度から平成26年度に実施した第1期整備事業については、すでに報告書として刊行してきたところです。

本報告書は、平成27年度から令和2年度までの第2期整備事業の成果をまとめたもので、これらの整備により、特別史跡岩橋千塚古墳群のより一層の保存と活用を図ることができるものと考えています。

結びに、報告書の刊行に至るまで御指導並びに御協力をいただきました関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。

令和3年3月31日

和歌山県教育委員会

教育長 宮 崎 泉

例 言

- 1 本書は和歌山県教育委員会（以下「県教育委員会」という。）が実施した和歌山市岩橋に所在する特別史跡岩橋千塚古墳群の整備報告書である。
- 2 事業期間は平成 27 年度から令和 2 年度であり、これは平成 15 年度策定の整備計画に基づく第 2 期整備にあたる。
平成 15 年度から平成 26 年度の第 1 期整備概要については、先に整備報告書 1・2・3 を刊行しており（和歌山県教育委員会 2010・2013・2015）、本書はこれに続く第 2 期整備概要をまとめ整備報告書 4 として刊行するものである。
- 3 事業は和歌山県立紀伊風土記の丘が実施した。
- 4 本書の執筆は、和歌山県立紀伊風土記の丘学芸課佐々木宏治、萩野谷正宏がおこなった。執筆分担は、目次に（ ）で示した。
- 6 遺物の実測・トレースについては会計年度任用職員立岡瑞穂、谷口敦子、玉井朱美が行い、遺物写真撮影は萩野谷が行った。
- 7 本書の編集は萩野谷が行った。
- 8 調査及び整理業務で作成した実測図・写真・台帳などの記録資料及び出土遺物は県立紀伊風土記の丘が保管している。
- 9 報告書刊行にあたり、下記の方々と機関からご指導・ご協力を賜った。
文化庁、公益財団法人和歌山県文化財センター、和歌山市教育委員会、赤坂宏、太田安明、河内一浩、高瀬要一、橋本博文、三村衛、脇谷草一郎

凡 例

- 1 本報告の図中の北方位は磁北（M.N.）を示す。
- 2 標高は東京湾平均海面（T.P.）の数値であり、単位はmを使用している。
- 3 出土遺物及び調査時の土層の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局ならびに財団法人日本色彩研究所監修の『新版標準土色帖』（平成 26 年版）に拠り記述を使用した。
- 4 本書掲載地図は、和歌山県教育委員会「和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図」に加筆して使用した。

調査組織

和歌山県教育委員会

- 教育長 宮下和己（平成27～30年度）宮崎 泉（令和元・2年度）
生涯学習局長 楠義隆（平成27・28年度）木皮享（平成29・30年度）
松本 泰幸（令和元・2年度）

生涯学習局文化遺産課

- 文化遺産課長 水上勇人（平成27・28年度）坂口真史（平成29年度）
栗生好人（平成30～令和2年度）
副課長 坂口真史（平成27・28年度）栗生好人（平成29年度）
土山寛人（平成30～令和2年度）
教育企画員 黒石哲夫（平成30～令和2年度／主幹 平成28・29年度／課長補佐兼調査班長 27年度）
主査 藤井幸司（平成27年度）丹野拓（平成27～29年度）
高橋智也（平成27年度～令和2年度）仲原知之（平成27年度～令和2年度）
田中元浩（令和2年度／平成27年度～令和元年度 副主査）
副主査 仲辻慧大（平成29～令和2年度／平成28年度 技師）
技師 石丸 彩（令和元・2年度）

紀伊風土記の丘

- 館長 水田義一（平成27・28年度）中村浩道（平成29～令和2年度）
副館長 市川浩之（平成27年度）米田良博（平成28・29年度）
南正人（平成30・令和元年度）中村拓司（令和2年度）
専門員 迫間素啓（令和元・2年度）
総務課長 山本康博（平成27年度）嶋田功伺（平成28・29年度）
味村泰幸（平成30・令和元年度）畑崎伸仁（令和元年度）
主任 井上佳典（平成28～30年度）前田昌孝（令和元・2年度）
主査 川崎康弘（平成28～令和2年度）竹内宏治（令和元・2年度）
副主査 小路有利子（平成27・28年度）額田誠規（平成27・28年度）望月光一（平成27年度）
主事 沖直弥（平成29～令和2年度）
学芸課長 佐々木宏治（平成27～令和2年度）
主査学芸員 萩野谷正宏（平成27～令和2年度）
瀬谷今日子（平成29～令和2年度／平成27・28年度 学芸員）
藤森寛志（平成30年度／平成27～29年度 学芸員）蘇原剛志（令和元・2年度）
学芸員 仲辻慧大（平成27年度）山本光俊（平成28～30年度）金沢舞（令和元・2年度）
副主査 富加見泰彦（平成27～29年度）

本文目次

巻頭カラー写真

第1章 整備事業の経緯と経過	(萩野谷)
第1節 整備事業の経緯	1
第2節 整備検討会議	1
第3節 整備事業の経過	2
第2章 遺跡の位置と環境	(萩野谷)
第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	5
第3章 前山A58号墳の墳丘復元整備	(萩野谷)
第1節 事業に至る経緯	12
第2節 墳丘整備工事	(佐々木) 13
第3節 埴輪レプリカ等の製作及び設置	21
第4節 説明板製作・設置	25
第4章 古墳修景工事及び石室実測調査	(萩野谷)
第1節 事業に至る経緯	27
第2節 石室実測対象古墳の概要	28
第3節 石室実測対象古墳の出土遺物	34
第4節 第1期整備事業の石室実測対象古墳・同周辺の出土遺物	36
第5章 危険木伐採	(萩野谷)
第1節 事業の概要	46
第6章 便益施設及び県指定文化財展示・収蔵施設の設置等工事	(佐々木)
第1節 便益施設設置工事	47
第2節 県指定文化財「日高地域の地引網漁用具」展示・収蔵施設設置工事	47
第7章 排水路改修工事	(萩野谷)
第1節 事業に至る経緯	52
第2節 事業の概要	52
第8章 特別史跡岩橋千塚古墳群のモニタリング	(佐々木)
第1節 事業の概要	80
第2節 モニタリングの種別と内容	80
第3節 横穴式石室のモニタリング	81
第4節 石室滞水古墳のモニタリング	82
第5節 埴輪復元古墳のモニタリング	83
第9章 総括	
第1節 岩橋千塚古墳群における小規模古墳の特色について	(萩野谷) 99
第2節 第2期整備事業の成果と課題	(佐々木) 100

挿 図 目 次

- 第1図 特別史跡岩橋千塚古墳群 第2期整備事業
全体平面図(平成27年度～令和2年度)
- 第2図 遺跡分布図
- 第3図 特別史跡岩橋千塚古墳群分布図
- 第4図 前山A58号墳 墳丘整備工事設計図(1)
- 第5図 前山A58号墳 墳丘整備工事設計図(2)
- 第6図 前山A58号墳 墳丘整備工事設計図(3)
- 第7図 前山A58号墳 墳丘整備工事設計図(4)
- 第8図 前山A58号墳 墳丘整備工事設計図(5)
- 第9図 前山A58号墳 墳丘整備工事設計図(6)
- 第10図 前山A58号墳 工事立会土層断面図(S=1/40)
- 第11図 前山A58号墳 埴輪樹立状況復元図(S=1/200)
- 第12図 前山A58号墳 埴輪レプリカ設計図(1)
(S=1/10)
- 第13図 前山A58号墳 埴輪レプリカ設計図(2)
(S=1/10)
- 第14図 前山A58号墳周辺 陶板説明板仕様図及び
板面
- 第15図 前山A58号墳周辺 地区説明板仕様図及び
板面
- 第16図 古墳保存修景工事対象古墳位置図(平成27
～令和2年度)
- 第17図 前山B153号墳 石室実測図(S=1/40)
- 第18図 前山B162号墳 石室実測図(S=1/40)
- 第19図 前山B152号墳 石室実測図(S=1/40)
- 第20図 前山B150号墳 石室実測図(S=1/40)
- 第21図 前山B156号墳 石室実測図(S=1/40)
- 第22図 前山B42号墳 石室実測図(S=1/40)
- 第23図 前山B42号墳 墳丘測量図(S=1/400)
- 第24図 石室実測対象古墳出土遺物(前山B162号墳)
- 第25図 石室実測対象古墳出土遺物(前山B150・42
号墳及び前山B156号墳周辺)
- 第26図 石室実測対象古墳(第1期整備)出土遺物
(前山A130号墳、前山B147・167・174・176・240・
249・250号墳、大日山82号墳)
- 第27図 石室実測対象古墳(第1期整備)出土遺物(前
山B164号墳)
- 第28図 石室実測対象古墳(第1期整備)出土遺物(前
山B170・172号墳)
- 第29図 石室実測対象古墳(第1期整備)出土遺物(大
日山12・14・68・81号墳及び大日山14・15号墳周辺)
- 第30図 危険木伐採対象古墳位置図(平成27年度・
令和元年度)
- 第31図 便益施設及び県指定文化財展示・収蔵施設
設置工事 位置図
- 第32図 トイレ・休憩施設建替え工事 工事立会図
及び写真
- 第33図 県指定文化財展示・収蔵施設 工事立会図
及び写真
- 第34図 前山A地区 トイレ及び休憩施設設置図面
- 第35図 大日山地区 トイレ及び休憩施設設置図面
- 第36図 県指定文化財展示・収蔵施設設置図面
- 第37図 排水路改修工事全体図
- 第38図 1号排水路 平面図
- 第39図 1号排水路 標準断面図・展開図他
- 第40図 3号a排水路 平面図
- 第41図 3号a排水路 標準断面図・展開図他
- 第42図 3号b排水路・3-2号排水路 面図
- 第43図 3号b排水路 標準断面図
- 第44図 3号b排水路 展開図他
- 第45図 3-2号排水路 展開図他
- 第46図 6号排水路 平面図
- 第47図 6号排水路 縦断面図他
- 第48図 6号排水路 標準断面図・各構造物平面図・
断面図
- 第49図 7A横断管・8A横断管 平面図・断面図
- 第50図 10号排水路 平面図・断面図
- 第51図 13号排水路 平面図・断面図/各水路改修
会所断面図
- 第52図 15号排水路 平面図・断面図/10・13・15
号排水路標準断面図
- 第53図 特別史跡岩橋千塚古墳群 古墳分布図(詳
細図)

表 目 次

第1表	前山 A58 号墳墳丘復元整備に伴う事業一覧
第2表	石室実測対象古墳出土遺物 観察表
第3表	石室実測対象古墳（第1期整備）出土遺物 観察表
第4表	特別史跡岩橋千塚古墳群 排水路改修工事事業一覧
第5表	特別史跡岩橋千塚古墳群 古墳一覧
第6表	第2期整備計画

写 真 目 次

巻頭写真	前山 A58 号墳 墳丘復元整備完了状況
	前山 A58 号墳出土円筒埴輪と市民参加により制作されたレプリカ

図 版 目 次

写真図版 1	前山 A58 号墳 墳丘整備工事状況	写真図版 12	前山 B162 号墳・150 号墳 石室
写真図版 2	前山 A58 号墳 工事立会状況	写真図版 13	前山 B150 号墳 石室
写真図版 3	前山 A58 号墳 埴輪レプリカ製作状況(1)	写真図版 14	前山 B150 号墳 石室
写真図版 4	前山 A58 号墳 埴輪レプリカ製作状況(2)	写真図版 15	前山 B152 号墳 石室
写真図版 5	前山 A58 号墳 埴輪レプリカ設置工事状況	写真図版 16	前山 B152 号墳・156 号墳 石室
写真図版 6	前山 A58 号墳 市民参加による埴輪レプリカ設置状況(1)	写真図版 17	前山 B156 号墳・42 号墳 石室
写真図版 7	前山 A58 号墳 市民参加による埴輪レプリカ設置状況(2)	写真図版 18	前山 B42 号墳 石室
写真図版 8	古墳修景工事 工事実施状況(1)	写真図版 19	石室実測対象古墳出土遺物(前山 B162 号墳)
写真図版 9	古墳修景工事 工事実施状況(2)	写真図版 20	石室実測対象古墳出土遺物(前山 B150 号墳・前山 B42 号墳)
写真図版 10	前山 B153 号墳 石室	写真図版 21	石室実測対象古墳出土遺物(前山 B156 号墳周辺)
写真図版 11	前山 B162 号墳 石室		石室実測対象古墳(第1期整備)出土遺物(前山 A130 号墳・前山 B147 号墳)
			石室実測対象古墳(第1期整備)出土遺物(前山

B167号墳)

石室実測対象古墳(第1期整備)出土遺物(前山
B174・176・240・249・250号墳、大日山82号墳)

写真図版 22

石室実測対象古墳(第1期整備)出土遺物(前山
B164号墳)

石室実測対象古墳(第1期整備)出土遺物(前山
B164号墳)

写真図版 23

石室実測対象古墳(第1期整備)出土遺物(前山
B164号墳)

石室実測対象古墳(第1期整備)出土遺物(前山
B170号墳)

写真図版 24

石室実測対象古墳(第1期整備)出土遺物(前山
B170号墳)

石室実測対象古墳(第1期整備)出土遺物(前山

B172号墳)

写真図版 25

石室実測対象古墳(第1期整備)出土遺物(大日山
12・14号墳)

石室実測対象古墳(第1期整備)出土遺物(大日山
68・81号墳及び大日山14・15号墳周辺)

写真図版 26

排水路改修工事 完成状況(1)

写真図版 27

排水路改修工事 完成状況(2)

写真図版 28

排水路改修工事 完成状況(3)

写真図版 29

排水路改修工事 完成状況(4)

写真図版 30

排水路改修工事 完成状況(5)

第1章 整備事業の経緯と経過

第1節 整備事業の経緯

特別史跡岩橋千塚古墳群は、開館当初の整備（昭和46年度）以降、約30年余り計画的な整備事業は行われてこなかったが、和歌山県は平成15年度に「特別史跡岩橋千塚古墳群整備計画」を策定し、その後は計画的に整備事業を実施している。概要は以下のとおりである。

初期整備（昭和44年から昭和46年） 紀伊風土記の丘開園時に、古墳の整備、文化財建造物の移築、松下記念資料館の建設、万葉植物園、花木園、駐車場、園路等の整備を行った。

古墳は、前山A23号墳、24号墳、99号墳、46号墳、56号墳、前山B53号墳（將軍塚古墳）の6基の横穴式石室、前山A47号墳、65号墳、111号墳の3基の竪穴式石室と前山A100号墳の1基の箱式石棺及び前山B112号墳（郡長塚古墳）の墳丘整備を行い公開した。

第1期整備（平成15年度から平成26年度） 大日山35号墳、前山A2号墳、前山B41号墳、前山A67号墳、前山A13号墳、前山A17号墳、前山A9号墳の発掘調査及び整備を実施した。また、崩落が激しい石室の埋め戻しと修景を行う古墳修景工事、危険木の伐採、説明板製作・設置による統一したサインの整備、石室照明の設置を行った。このほか、第2期整備に継続する事業として前山A58号墳の発掘調査、排水路改修の実施設計及び工事の一部を行っている。大日山35号墳は墳丘を公開し、東造り出では埴輪と須恵器のレプリカを専門業者への委託のほか市民参加により製作し設置した。前山A2号墳は、T字形の横穴式石室であるが天井部が欠失していたため、石室上部にガラス製の覆屋を設置し、外部から見学できるよう整備した。また、前山A67号墳は、屍床をもつ岩橋型横穴式石室であるが、羨道部の石積みが大きく孕んでいたため内部への進入は安全上困難と判断されたため、羨道前面を擁壁で固め、入口に柵をして外部から見学できるよう整備した。このほか前山A13号墳、前山A46号墳、前山A67号墳、前山B53号墳（將軍塚古墳）の石室内に太陽光発電による照明設備を整備した。

第2期整備（平成27年度から令和2年度） 前山A58号墳の墳丘復元整備とこれに伴う埴輪・須恵器レプリカ製作・設置及び説明板製作・設置を行った。また古墳修景工事と危険木の伐採、排水路の改修を第1期整備に引き続いて実施したほか、便益施設（トイレ・休憩施設）の改修を行った。

さらに、平成28年度に特別史跡に追加指定された天王塚古墳の発掘調査を実施して報告書を刊行したほか（和歌山県教育委員会2020）、第3期整備までの継続事業として同古墳に至る連絡道路設置工事の一部や天王塚古墳整備基本計画策定及び基本設計を行った。また前山A13号墳、大日山35号墳石室の排水機能整備のための基礎資料を得る目的で、石室排水溝の発掘調査を実施した。以上の継続事業は第3期整備完了時に報告することとし、本書ではその概要を述べるにとどめる。

第2節 整備検討会議

当整備事業は、整備検討会議の指導のもとで実施している。整備委員会の開催日と委員の構成は以下のとおりである。

<整備検討会議開催日>

平成27年度特別史跡岩橋千塚古墳群整備検討会議

第1回 平成27年8月31日、9月4日、10月1日 第2回 平成28年3月9日、3月23日
平成28年度特別史跡岩橋千塚古墳群整備検討会議

第1回 平成28年12月15日、12月19日、12月20日 第2回 平成29年2月17日
平成29年度特別史跡岩橋千塚古墳群整備検討会議

第1回 平成30年1月31日、2月9日
平成30年度特別史跡岩橋千塚古墳群整備検討会議

第1回 平成30年6月29日、7月3日 第2回 平成31年2月4日
令和元年度（平成31年度）特別史跡岩橋千塚古墳群保存整備委員会

第1回 令和元年8月22日 第2回 令和2年2月28日
令和2年度特別史跡岩橋千塚古墳群保存整備委員会

第1回 令和2年7月10日、7月16日 第2回 令和2年12月1日、12月3日
第3回 令和3年3月9日、11日

＜整備検討会議委員＞

和田晴吾 兵庫県立考古博物館館長（平成27～29年度は立命館大学特任教授を兼務）
増渕 徹 京都橋大学教授
小野健吉 和歌山大学観光学部教授（平成27・28年度（独）奈良文化財研究所副所長）
松木武彦 国立歴史民俗博物館教授
菅谷文則（令和元年5月まで） 奈良県立橿原考古学研究所所長
襦宜田佳男（令和元年6月から） 大阪府立弥生文化博物館館長

第3節 整備事業の経過

（1）平成27年度

前山A 58号墳の墳丘整備のための実施設計を委託により実施した。また同古墳の整備に伴い墳丘上に設置するための埴輪レプリカを市民参加により陶芸用粘土を使用して製作した。平成27年度は円筒埴輪20基、石見型埴輪8基を製作した。

古墳保存修景工事として、前山B 153・162号墳の石室の埋戻し及び墳丘の修景を行い、事前に石室の清掃・実測・写真撮影を行った。樹木の成長による墳丘及び石室の損壊を防ぐため、前山A・B地区の古墳上に生えた危険木34本の伐採を委託により実施した。

（2）平成28年度

前山A 58号墳の埴輪等のレプリカについて、円筒埴輪10基、石見型埴輪7基を市民参加により製作した。また、須臾器大甕のレプリカを専門業者への委託により製作した。古墳修景工事として、前山A 58号墳の墳丘整備にともなう石室の埋戻しを行ったほか、前山B 150・152号墳の石室の埋戻し及び墳丘の修景を行った。後者は石室の清掃・実測・写真撮影を行った。また、前山A 13号墳の石室への雨水の流入を防ぐため、羨道部の盛土の切土を行った。排水路改修工事として、特別史跡地内の排水路（3-2号排水路）の改修工事を行った。

このほか、特別史跡の追加指定に伴い、既指定地と新規の指定地である天王塚古墳を繋ぐ連絡道路を設置するための測量設計を委託により実施した。

（3）平成29年度

前山A 58号墳の墳丘整備工事を行い、墳丘は真砂土で盛土し成形した後、植物分解性の種子

ネットを設置した。また同工事の設計監理業務を委託により実施した。同古墳の埴輪レプリカについて、円筒埴輪 17 基、石見型埴輪 4 基を市民参加により製作した。排水路改修工事として、特別史跡地内の排水路（10 号排水路・13 号排水路・15 号排水路及び、横断管接続柵 7 A・8 A 等）の改修を実施した。さらに古墳群の見学者の利便性向上及び安全面の確保を目的に、従来の便益施設（トイレ・休憩施設）を解体し、新たに設置するにあたり設計業務を委託し、撤去・設置工事を実施した。また天王塚古墳の発掘調査を実施した。

（4）平成 30 年度

前山 A 58 号墳埴丘整備工事として、埴輪設置にかかる基礎工事及び周辺園路の舗装工事を実施した。また、埴輪等のレプリカについて、円筒埴輪 10 基、石見型埴輪 4 基を市民参加により製作したほか、平成 27 年度以降製作したレプリカの埴丘への設置について一部を委託により、一部を市民参加により実施した。また、陶板製の説明板の製作・設置を委託により実施した。

天王塚古墳の公開活用のために必要な管理用道路の設置工事について、総延長 800m のうち既存園路から東へ 100 m（No.5）地点まで実施した。また同古墳の追加発掘調査を実施するとともに、天王塚古墳覆屋設置等整備委託業務として、古墳の石室周辺部保護を目的とする覆屋の設置並びに法面及び石積み部への崩落防止施設の設置を委託により実施した。

（5）令和元年度（平成 31 年度）

古墳修景工事について、前山 B156 号墳の石室埋め戻し及び墳丘の修景を行い、事前に石室の清掃・実測・写真撮影を行った。危険木伐採委託業務として、前山 B 地区の古墳上に生えた危険木 38 本の伐採を委託により実施した。また、天王塚古墳連絡道路設置工事について、No.5 地点から SP7 地点までの 173.5m を対象に実施した。さらに天王塚古墳出土遺物の整理作業を実施した。また、同古墳の整備基本計画を策定した。

（6）令和 2 年度

前山 A 58 号墳説明板設置業務として、同古墳と周辺古墳の概要を明示した地区説明板の製作及び設置を委託により実施した。古墳修景工事について、前山 B 42 号墳の石室埋め戻し及び墳丘の修景を行い、事前に石室の清掃・実測・写真撮影を行った。

天王塚古墳連絡道路設置工事について、SP7 地点から BC10 地点までの約 136 m を対象に実施した。また天王塚古墳整備基本設計業務を委託により実施した。

第 2 期整備完了に伴い、岩橋千塚古墳群整備報告書作成業務として、本報告書を刊行した。

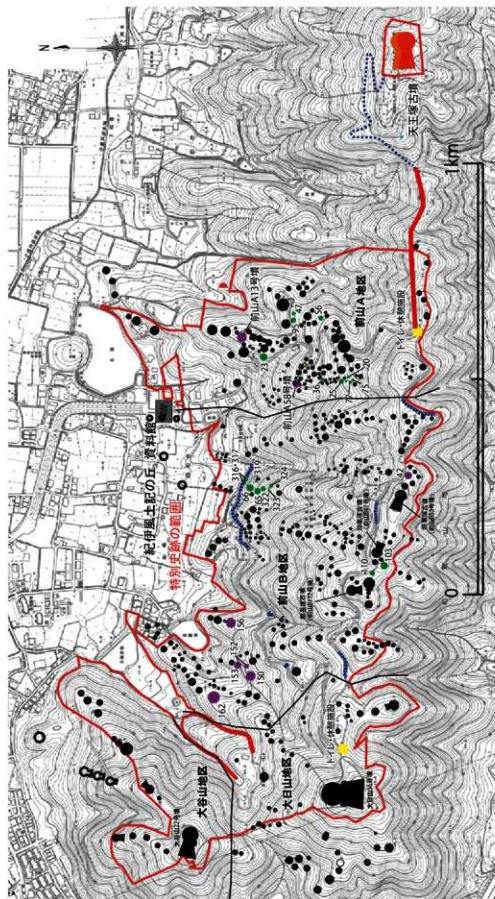
このほか、天王塚古墳発掘調査報告書作成及び前山 A13 号墳及び大日山 35 号墳排水溝発掘調査・報告書作成を実施している。



平成 28 年度第 1 回整備委員会開催状況



令和 2 年度第 3 回整備委員会開催状況



第2期整備事業（平成27年度～令和2年度）

- 危険木伐採
- 古墳保存修繕工事（石整理の原し）
- 新山A58号墳丘整備・復元埴輪製作設置
- 便益施設（トイレ・休憩施設）設置
- ◆ 説明板等製作・設置
- 排水施設整備 家施設設計・工事
- 天王塚遺跡埋没施設
- 天王塚古墳埋没施設・整備基本計画策定・基本設計
- 発掘調査・出土遺物整理・調査報告書

第1図 特別史跡岩橋千塚古墳群 第2期整備事業 全体平面図（平成27年度～令和2年度）

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

岩橋千塚古墳群周辺の地形は中央構造線が東西に横断し、これによって北側の西南日本内帯、南側の西南日本外帯に分けられ、この中央構造線の南に紀ノ川が西流する。内帯に属する和泉山脈は、領家変成帯の西南端にあたる。堆積岩である礫岩・砂岩・泥岩の互層をなす和泉群で構成される。外帯は、変成岩である結晶片岩を主体とする三波川変成帯（長湊変成帯）にあたる。この外帯に龍門山脈があり、結晶片岩中に貫入した蛇紋岩からなる龍門山（756 m）が主峰となる。龍門山脈は西側へ標高を減じながら、途中紀ノ川支流の貴志川に分断されるが、岩橋山塊まで続く。岩橋山塊は和歌山市市街地の東にある丘陵で、標高140～150 mの結晶片岩類で構成される山塊である。東から天王塚山（152 m）・大日山（142 m）と連なり、北端の花山（77 m）や西端の福飯ヶ峯（101 m）へと小山塊が続く。岩橋千塚古墳群はこの岩橋山塊に位置している。

第2節 歴史的環境

（1）周辺の歴史的環境

旧石器時代～弥生時代 岩橋山塊近辺では旧石器時代の遺跡は確認されていない。縄文時代には、岩橋山塊裾で鳴神貝塚、吉礼貝塚、襷貝塚、岡崎縄文遺跡などが形成され、鳴神貝塚や隣接する鳴神Ⅳ遺跡からは抜歯された人物を埋葬した土坑墓などが検出された。弥生時代には、紀ノ川下流域南岸に太田・黒田遺跡、紀ノ川下流域北岸に西田井、北田井、宇田森、川辺、吉田遺跡などの弥生集落が立地する。岩橋山塊南西側の菖蒲谷遺跡では中期の台状墓が検出されている。中期後葉から後期前半には太田・黒田遺跡など平野部の集落が激減し、岩橋山塊にある天王塚古墳周辺の遺跡や和歌山市南端の滝ヶ峰遺跡などで高地性集落が出現する。後期中葉以降、岩橋山塊南西部の井辺、神前遺跡の他、紀ノ川北岸の田屋、西田井、宇田森遺跡など平野部に集落が開き、その多くは古墳時代前期まで継続する。また紀ノ川下流域では銅鐸6口（有本銅鐸など）が発見されている。

古墳時代 古墳時代には、岩橋山塊西側には鳴神Ⅱ～Ⅵ、音浦、大日山Ⅰ遺跡など古墳時代の集落が発見される。これらの集落からは韓式系土器や滑石製模造品などの祭祀遺物が多く出土する。この他、友田町、秋月遺跡などで堅穴住居や掘立柱建物が発見されている。紀ノ川北岸では、古墳時代中期の大型倉庫群が発見された鳴滝遺跡や、初期須恵器が多数に出土した楠見遺跡が知られている。

次に岩橋千塚古墳群周辺の古墳について概観する。まず紀ノ川下流域南岸では、前期に県内最古の前方後円墳と考えられる秋月1号墳が造営され、中期～後期には秋月、鳴神地区遺跡などで円墳・方墳が造られる。岩橋山塊東側の明楽山（鳩羽山）では東国山、モント塚、明楽、小倉神社、小倉、宮山、奥山田、具東壺、七ツ塚、寺山古墳群など後期の古墳群が形成される。東国山1号墳では堅穴式石室が調査され、2体の人骨と多量の遺物が発見された。明楽古墳群は横穴式石室墳が主体で、2号墳は横穴式石室とともに堅穴式石室をもつ。小倉8号墳は石棚をもつ岩橋型横穴式石室である。具東壺1～3号墳や七ツ塚古墳群は主に7世紀代の横穴式石室墳から構成される。寺山古墳群は方墳3基を含む6世紀後半から7世紀代の古墳群で、蛇紋岩を用いた穹窿

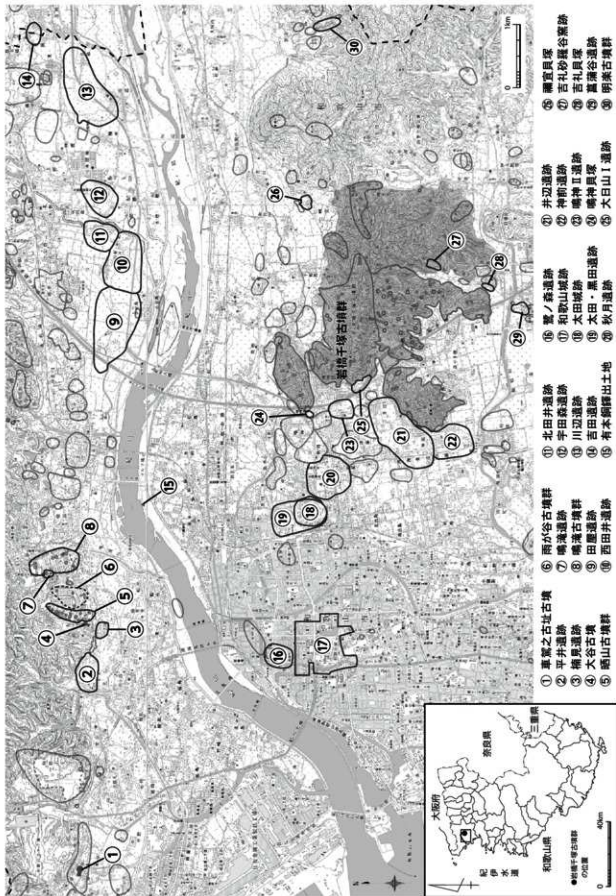
式の横穴式石室が構築されている。

岩橋山塊南東側の貴志川流域の平野部では、古墳時代中期～後期にかけて円墳（罐子塚古墳、丸山古墳、三味塚古墳）や前方後円墳（双子三味塚古墳、平池1号墳）が造営される。丸山古墳は箱式石棺から鉄銚・鉄鏡を含む鉄製品、玉類、琴柱形石製品などが発見された。平池1号墳は調査の結果、くびれ部に陸橋をもつ6世紀前半の前方後円墳（墳長31.5m）であることが判明した。紀ノ川と貴志川の合流地点には船戸山古墳群・船戸箱山古墳が形成される。船戸山1～3号墳は岩橋型横穴式石室で、うち2・3号墳は石棚を有する。船戸箱山古墳は6世紀前半から中頃に構築され、墳丘には埴輪列が樹立する。なお船戸山古墳群や船戸箱山古墳では、横穴式石室と堅穴式埋葬施設が1墳丘に構築されるなどの複数埋葬施設の特徴が認められる。

岩橋山塊南側から海南市にかけても数多くの古墳が造営されている。伊太祁曾神社1号墳は石棚・石梁をもつ岩橋型横穴式石室である。葉勝寺南山古墳群では1号墳が6世紀後半の箱式石棺、2号墳が横穴式石室である。室山古墳群は6世紀の岩橋型横穴式石室が主体の古墳群で、1・2号墳は石棚・石梁をもつ横穴式石室、4号墳は堅穴式石室、5号墳は片袖傾向の強い両袖式横穴式石室である。山崎山古墳群は調査の結果、5世紀代の礎床をもつ割竹形木棺（5号墳・前方後円墳）と箱式石棺（2号墳）、6世紀初頭の木棺直葬（15号墳）、6世紀代の堅穴式石室（3・11・13・14号墳）、6世紀末～7世紀初頭の石棚をもつ横穴式石室（1号墳）が確認された。

紀ノ川北岸では、釜山古墳群（木ノ本古墳群）にある車駕之古址古墳が調査され、段築、盾形周濠、造り出しを備えた5世紀中頃の前方後円墳（墳長86m）と判明し、金製勾玉などが出土した。高芝1号墳は7世紀の和泉砂岩を用いた横穴式石室、2号墳は全長約40mの前方後円墳である。晒山古墳群では、5世紀前半の晒山1号墳は主体部が粘土都で、直刀や玉類が出土した。6世紀前半の晒山4号墳・10号墳（背見山古墳、墳長35mの前方後円墳）は横穴式石室をもつ。5世紀後半に築かれた前方後円墳の大谷古墳（墳長67m）は組合式石棺が検出され、鉄製馬冑・馬甲などの豊富な遺物が出土した。雨ヶ谷古墳群は、5世紀後半～6世紀前半の木棺直葬（1号墳）、T字形横穴式石室（2号墳）が調査された。6～7世紀に築造された鳴滝古墳群では、石棚を有する岩橋型横穴式石室（1号墳）、和泉砂岩を用いた横穴式石室（2・10号墳）、木棺直葬（6号墳）が確認された。奥出古墳、園部円山古墳ともに和泉砂岩の巨石を用いた横穴式石室で、園部円山古墳からは金銅装大刀や馬具が出土した。六十谷1・2号墳とも5世紀代の埴輪が出土し、2号墳は全長27mの前方後円墳で、埴輪列・葺石が確認されている。八王子山古墳群は前方後円墳3基を含む約20基の古墳群で、木棺直葬（8号墳）、横穴式石室（16号墳）が確認されている。

奈良時代以降 奈良時代以降の遺跡は、紀伊国一宮の日前・国懸神社に隣接して、奈良～室町時代の官衙的な施設と考えられる掘立建物で確認された秋月遺跡が立地する。また太田・黒田遺跡では奈良時代の大型井戸から畜産や和同開珣が出土し、周辺には条里地割が残る。神前遺跡では、鎌倉時代の溝及び耕作痕が確認された他、宮井用水の水路や屋敷地の区画溝も確認されている。中世には、羽柴秀吉による太田城水攻めのための堤跡がわずかに確認されている。その後、羽柴秀長によって和歌山城が築造され、城を中心とした城下町が形成される。関ヶ原の戦いの後は、桑山一晴、浅野幸長と城主が変わり、徳川頼宣が入城して御三家である紀州徳川家を創設し、約250年にわたり紀州藩により統治が行われる。なお、江戸時代の岩橋千塚古墳群周辺は、紀州藩附家老安藤家の領地であり、初代田辺藩主である安藤帯刀次郎の業績をたたえる石碑が安藤塚に建てられている。



(2) 岩橋千塚古墳群

岩橋千塚古墳群の概要 岩橋千塚古墳群は和歌山平野の東側、紀ノ川下流南岸にある岩橋山塊一帯の東西約3km、南北約2.5kmの範囲に広がる4世紀末から7世紀後半にかけての総数約900基に及ぶ古墳群である。古墳群は便宜上、花山地区、大谷山地区、大日山地区、前山A地区、前山B地区、寺内地区、井辺地区、井辺前山地区、和佐地区、山東地区の10地区に分けられる。このうち、特別史跡に指定されているのは、前山A地区、前山B地区、大日山地区、大谷山地区の一部と和佐地区と山東地区の境界付近に位置する天王塚古墳周辺の約63万㎡で、約500基の古墳が分布する。

岩橋千塚古墳群における古墳の築造のはじまりは4世紀末である。最古の前方後円墳は、花山地区の丘陵頂上に築造された墳長52mの花山8号墳で、後円部の粘土槨と推定される埋葬施設からは鏡が出土したと伝わる。その後、花山地区では、5世紀前半の前方後円墳である花山10号墳、44号墳や円墳が築造された。花山地区以外では、大谷山地区と寺内地区で5世紀前半の中型の円墳である大谷山39号墳や寺内63号墳が造られた他、井辺前山地区では古墳時代前期から中期に井辺前山24号墳が築造されたとみられるが、造墓活動はあまり活発ではなく、地区も限定されていたようである。5世紀中葉以降は前山A地区で小型の方墳が築造されることを除いて、各地区における造墓活動は著しく停滞するとみられる。この時期の岩橋千塚古墳群における首長墓は、中型の前方後円墳の採用や副葬品の内容からヤマト政権との関係をもちえた紀ノ川流域の在地勢力の存在を示すが、必ずしも他地域に比して卓越した規模ではない。

6世紀に入ると、紀ノ川北岸で築造される前方後円墳の規模は縮小し、これと対照的に紀ノ川南岸の岩橋山塊で前方後円墳の築造数が増加する。6世紀初頭に花山6号墳が造られた後は、大谷山22号墳、大日山35号墳、井辺八幡山古墳と紀ノ川下流域の首長墓が築造される。首長墓は埋葬施設に岩橋型横穴式石室をもち、墳丘には造り出しや別区、基壇が付設され、埴輪が設置される。その立地は、和歌山平野を望む丘陵の主稜線上に位置するという共通した特徴をもつ。その後は、6世紀中葉に築かれた天王塚古墳をピークにして古墳の規模は縮小し、6世紀後半の首長墓とみられる寺内57号墳は大型の横穴式石室をもつが、直径40m前後の円墳である。

一方、大型の前方後円墳の周辺部には中・小型の前方後円墳、円墳、方墳が混在して群集する岩橋千塚古墳群の光景は、6世紀の首長墓の築造とともに急速に形成された。多数の小規模古墳は、地域首長の支配体制に組み込まれた有力家族層により築かれたものと考えられ、大日山70号墳のように陶質土器や鍛冶具を副葬し渡来系集団と密接に関わりをもつ被葬者も含まれる。

6世紀初頭には、従来の堅穴式石室、箱式石棺、粘土槨といった堅穴系埋葬施設に代わり、新たな埋葬施設として岩橋型横穴式石室が導入される。岩橋型横穴式石室は、結晶片岩を用い、玄室には石棚や石梁が架構され、玄室前道の入口を扉石で閉塞する。この石室の源流は不明な点が多いが、石棚をもつ石室が瀬戸内海から九州を中心に分布し、また、厩床などの九州系横穴式石室との共通点から、西日本との密接な交流が背景にあったとみられる。

6世紀末から7世紀初頭には、首長墓は方墳へと変化し、岩橋型横穴式石室を埋葬施設とする大型の方墳である井辺1号墳が築造される。岩橋千塚古墳群における最後の墓域は、井辺地区と寺内地区にその主体が移るとみられ、寺内地区では6世紀後半から7世紀代と推定される小型の円墳が複数築造される。この後、7世紀後半前後まで造墓が続けられたと考えられるが、遅くとも8世紀初頭には古墳群はその機能を停止したと推定される。

この古墳群を造営した集団については、記録に登場する豪族「紀氏」に比定する文献史学側の

説が有力である。

岩橋千塚古墳群の調査 江戸時代には紀州藩附家老安藤家の領地となっており、江戸時代後期に編纂された『紀伊続風土記』の岩橋村の項に「村の南山に古墳の跡多し誰の墳なるや詳ならず」と記載されている。明治時代になると、明治36年（1903）に村民が古墳から須恵器や鉄鍬、鉄刀などの鉄製品を発見し、和歌山県から宮内省へ提出された後に東京帝室博物館に寄贈された。明治39年（1906）に東京大学の坪井正五郎と交友のあった紀州徳川家の当主・徳川頼倫が古墳群の調査を行い、その翌年に明治40年（1907）には東京大学人類学教室の大野雲外が、岩橋千塚古墳群で出土した装飾付須恵器や天王塚古墳・將軍塚古墳・前山A17号墳の石室構造について報告した。前山A17号墳では発掘調査が実施され、箱式石棺の副室から衝角付冑が出土している。明治44年（1911）にはイギリス人のN.G.マンローが『Prehistoric Japan』で岩橋千塚古墳群の石室を海外に紹介した。またこの頃より、古墳群では盗掘も行われるようになっていったようである。

大正7年（1918）には、和歌山県が岩橋千塚第一期調査を行った。黒板勝美の指導のもと岩井武俊・田澤金吾らが前山A地区を調査し、大正10年（1921）に『和歌山県史蹟名勝天然記念物調査報告書』として報告した。この報告では前山A地区の古墳分布図のほか、古墳の図面と写真が多数掲載されている。報告された古墳は前山A46号墳や前山A67号墳など27基にのぼり、このうち11基の古墳は、紀伊風土記の丘の石室公開古墳として活用されている。

岩橋千塚古墳群は、昭和6年（1931）7月31日、文部省告示第275号をもって史跡指定を受けた。指定範囲は当時の西和佐村の共有林で、現在の前山A・B地区にあたる。昭和7年（1932）には、大日山35号墳石室に祀られた大日如来の参詣のための広場造成工事中に、付近より石室と遺物が発見されている。石室内から土器類、鏡などが出土したと報告されている。

第二次世界大戦の終わる昭和20年頃には防空壕の掘削などにより古墳の破壊が進行した。戦後間もない昭和23年頃には食糧難による岩橋千塚古墳群の開墾計画が持ち上がったが、田中敬忠・宮田啓二氏らの尽力により古墳群は保存された。古墳群の保存運動として全国でも初期の例として知られ、昭和27年（1952）の特別史跡指定に結実した。しかし、昭和30～40年代になると、岩橋千塚古墳群周辺で市街地化が進み、古墳群は存亡の危機に立たされた。市街地に近い花山・大谷山・井辺前山等の地区では、開発と文化財保護の折り合いが付かず、花山10号墳や花山44号墳、井辺前山6号墳など岩橋千塚古墳群の主要な前方後円墳までもが消滅していった。

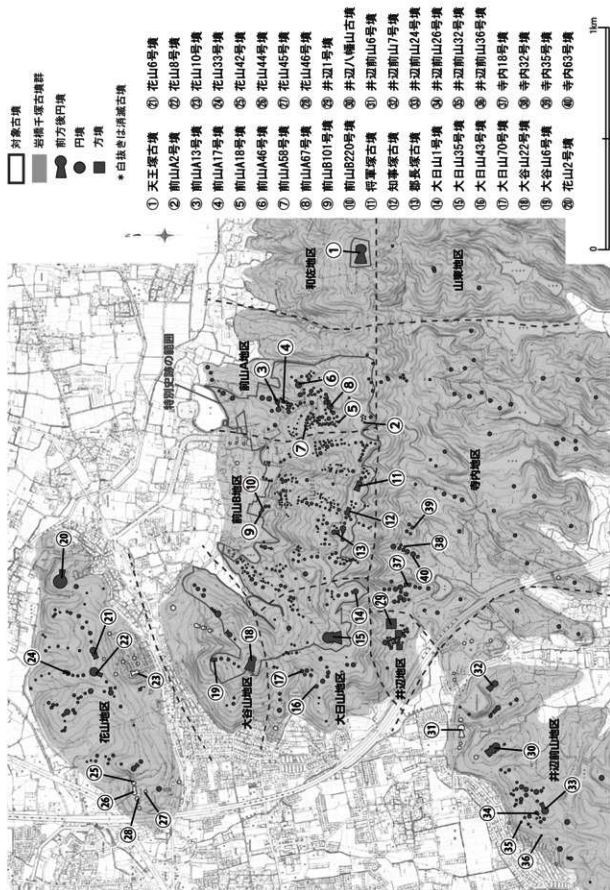
このような中で、和歌山市教育委員会は関西大学・同志社大学等の協力を得て、古墳群の実態の調査に乗り出した。調査成果は『岩橋千塚』、『井辺八幡山古墳』にまとめられ、古墳の分布や、主要な古墳の規模・形状や石室、出土遺物等が紹介された。また、和歌山県教育委員会では特別史跡指定地の県有地化を進め、昭和46年（1971）に県立紀伊風土記の丘が開園した。昭和47～48年には、和歌山県教育委員会によって隣接する大谷山地区において、粘土土と箱式石棺をもつ大谷山39号墳や初期の横穴式石室をもつ大谷山6号墳等の調査が行われた。昭和50年度には紀伊風土記の丘園内にて、花木園・花木園東地区の発掘調査が行われ、墳丘が復元された。昭和63年（1988）には、史跡の追加指定が行われ古墳の保存が図られた。平成7～10年度には、特別史跡岩橋千塚古墳群の周辺部において古墳の分布踏査と発掘調査が行われ、岩橋千塚古墳群全体の把握が進んだ。平成12年には大谷山12～17・38号墳の調査が行われ、周辺地域が特別史跡に追加指定された。

平成15年度からは、岩橋千塚古墳群の保存と活用をより充実させるために、和歌山県では特

別史跡岩橋千塚古墳群保存修理事業を開始した。長期計画とともに5年から10年程度の単位で短期計画を定め、整備事業を進めている。

【引用・参考文献】

- 金谷克巳 1955『紀伊の古墳1』紀伊考古学研究会
金谷克巳 1956『紀伊の古墳2』綜藝舎
金谷克巳 1960『紀伊の古墳3』日本考古学研究会
関西大学文学部考古学研究室 1967『岩橋千塚』
関西大学考古学研究室編 1967『花山西部地区古墳』
和歌山県文化財研究会 1967『和歌山市鳴滝古墳群の調査』『和歌山県文化財調査報告第二冊』
関西大学考古学研究室編 1972『和歌山市における古墳文化』
同志社大学考古学研究室編 1972『井辺八幡山古墳』
和歌山県教育委員会 1972『近畿自動車道と和歌山線埋蔵文化財調査報告』
同志社大学文学部文化学科考古学研究室 1973『和歌山市楠見雨が谷古墳群調査報告』
和歌山県教育委員会 1978『山崎山古墳群緊急発掘調査報告書』
和歌山県史編纂委員会 1983『和歌山県史』考古資料
和歌山県教育委員会 1984『鳴滝遺跡発掘調査報告書』
和歌山県教育委員会 1984『鳴神地区遺跡発掘調査報告書』
和歌山県教育委員会 1987『広域遺跡群詳細分布調査1 井辺前山古墳群とその関連遺跡』
園部円山古墳保存会 1989『和歌山市指定文化財(史跡) 園部円山古墳調査概報』
財団法人和歌山県文化財センター 1990『田屋遺跡』
和歌山市教育委員会 1991『六十谷古墳群発掘調査報告書』
和歌山市教育委員会 1993『車駕之古址古墳 発掘調査概報』
和歌山県教育委員会 2000『岩橋千塚周辺古墳緊急確認調査報告書』
大野嶺夫 2003『岩橋千塚とことろ・どころ』
和歌山県教育委員会 2005『緊急雇用対策特別基金事業に係る発掘調査資料整理概報』
和歌山県立紀伊風土記の丘 2008『特別展 岩橋千塚』
和歌山県教育委員会 2010『特別史跡岩橋千塚古墳群 発掘調査・保存整備事業報告書1』
和歌山県教育委員会 2013『大日山35号墳発掘調査報告書-特別史跡岩橋千塚古墳群発掘調査・保存整備事業報告書2-』
和歌山県教育委員会 2015『特別史跡岩橋千塚古墳群 発掘調査・保存整備事業報告書3-大日山35号墳・前山A13号墳・前山A58号墳発掘調査報告書-』
和歌山県教育委員会 2016『大谷山22号墳、天王塚古墳-特別史跡岩橋千塚古墳群追加指定に伴う発掘調査報告書-』
和歌山県教育委員会 2017『岩橋千塚古墳群-大谷山4・5・6・39号墳発掘調査報告書-』
和歌山県教育委員会 2018『岩橋千塚古墳群-大谷山27号墳・28号墳発掘調査報告書-』
和歌山県教育委員会 2019『特別史跡岩橋千塚古墳群保存活用計画書』
和歌山県教育委員会 2020『特別史跡岩橋千塚古墳群 天王塚古墳発掘調査報告書』



第3図 特別史跡岩橋千塚古墳群分布図

第3章 前山 A58 号墳の墳丘復元整備

第1節 事業に至る経緯

前山 A58 号墳は、前山 A 地区の北側に延びる丘陵尾根上に位置し、周囲には小型の円墳・方墳が密集して分布する。平成 21・22 年度の発掘調査の結果、6 世紀前半に築造された墳長 19.6 m の小型前方後円墳であることが明らかになった。埋葬施設は後円部西側に開口した岩橋型横穴式石室である。墳丘は、後円部 2 段、前方部 1 段の構造で、後円部テラスと前方部墳頂平坦面に円筒埴輪や石見型埴輪が樹立した状態で検出された。後円部は上部が削平を受けていたが、転落した埴輪片の出土から埴輪の樹立が想定された。前方部墳頂平坦面には馬、人物などの形象埴輪が樹立され、東側くびれ部には須恵器大甕が据えられていた（和歌山県教育委員会 2015）。

前山 A 58 号墳の発掘調査により、岩橋千塚古墳群における小型前方後円墳の様相が明らかとなり、古墳群の階層構成を理解するうえで不可欠であるとして復元整備を実施することとなった。復元整備の方法は、整備検討会の指導・助言を受けながら検討した。横穴式石室は壁体に土圧によるはらみが認められ崩落の危険性が高いことから埋め戻しによる保護をおこない、墳丘の復元を中心に実施する方針とした。また、墳丘の復元整備では樹立状況の判明した後円部テラス及び前方部墳頂平坦面に円筒埴輪及び石見型埴輪、馬形埴輪レプリカを、東側くびれ部に須恵器大甕レプリカを設置することとし、全体の形状や樹立状況の明らかでない埴輪レプリカの製作は実施しないこととしている。

事業は、平成 27 年度に実施設計、平成 28 年度に横穴式石室の埋め戻し工事、平成 29・30 年度に墳丘の復元整備工事を行い、平成 30 年度にレプリカ及び説明板の設置を実施した。レプリカのうち埴輪レプリカについては教育普及事業における体験学習を開催して市民参加により製作した。また令和 2 年度には地区説明板を設置している（第 1 表）。

第 1 表 前山 A58 号墳墳丘復元整備に伴う事業一覧

年度	内容	業務名	契約金額	受託業者
平成 27 年度	墳丘等整備実施設計	平成 27 年度特別史跡岩橋千塚古墳群保存整備事業に伴う前山 A58 号墳墳丘等整備実施設計委託事業	1,890,000	株式会社文化開発機構
	埴輪レプリカ製作 (円筒埴輪 20 基、石見型埴輪 8 基)	(和歌山県立紀伊風土記の丘の教育普及事業により製作)	73,260(材料費)	
平成 28 年度	須恵器大甕レプリカ製作	平成 28 年度特別史跡岩橋千塚古墳群前山 A58 号墳復元整備レプリカ製作委託業務	972,000	株式会社細器工業
	石室埋め戻し保護 (前山 B150・152 号墳石室埋め戻し・ 修復と同一業務で実施)	平成 28 年度紀風第 3 号古墳保存修景工事	1,848,960	㈱ユカワ開発
平成 29 年度	埴輪レプリカ製作 (円筒埴輪 30 基、石見型埴輪 7 基)	(和歌山県立紀伊風土記の丘の教育普及事業により製作)	23,120(材料費)	
	墳丘整備工事(墳丘復元・芝張り)	平成 29 年度紀風第 1 号前山 A58 号墳修景工事	3,866,000	㈱ユカワ開発
	墳丘整備工事施工監理	平成 29 年度前山 A58 号墳墳丘等整備事業施工監理業務委託	475,200	株式会社文化開発機構
平成 30 年度	埴輪レプリカ製作 (円筒埴輪 17 基、石見型埴輪 4 基)	(和歌山県立紀伊風土記の丘の教育普及事業により製作)	36,840(材料費)	
	墳丘整備工事 (レプリカ設置用基礎設置/テラス・園路土舗装)	平成 30 年度前山 A58 号墳墳丘等整備工事	1,985,040	㈱井谷産業
令和 2 年度	埴輪レプリカ運搬・設置/説明板(陶板)製作	平成 30 年度特別史跡岩橋千塚古墳群(前山 A58 号墳)説明板製作・設置等委託業務	1,895,400	株式会社細器工業
	復元埴輪製作 (円筒埴輪 30 基、石見型埴輪 4 基)	(和歌山県立紀伊風土記の丘の教育普及事業により製作)	0	
令和 2 年度	地区説明板製作	令和 2 年度特別史跡岩橋千塚古墳群説明板等製作設置委託業務	275,000	㈱和歌山ディスプレイ

第2節 墳丘整備工事

(1) 墳丘の復元

前山 A58 号墳は発掘調査の結果、全長約 20m の小型の前方後円墳であることが確認されているが、特に前方部が後円部に比べ低い点、1 段目テラスと前方部上面が連続せず前方部がテラスより後円部中心側に食い込む点、前方部上面が西側に傾斜する点などに特徴がある。墳形の遺存状況は比較的良好であったが、後円部上半が大きく削平され、横穴式石室も天井石および壁面石積みの一部が消失していた。このため、後円部高さは発掘調査で得られたデータに加え岩橋千塚古墳群の他の事例を参考に、石室高さを 2.0m、石室上の盛土を 1.5m に復元した。

また、墳丘の整備に際しては、遺構検出面上に 30cm 以上（埴輪樹立部分には 50cm 以上）の厚さの保護層を確保しながら上記の特徴を明示できるよう墳丘を成形した。

(2) 墳丘整備工事

①石室の埋め戻し（平成 28 年度）

遺構面保護及び掘削境界明示のため塩分を含まない砂により、石室内部及び西側トレンチを人力により埋め戻した。なお、砂は古墳近くの幹線園路まで 2t トラックで運搬し、副園路を経てクローラ運搬車で運搬した後、一輪車で石室まで人力運搬した。

②樹木伐採（平成 29 年度）

墳丘の復元に支障のある樹木 7 本を伐採した。

③墳丘の成形（平成 29 年度）

盛土 原則として真砂土による盛土を実施したが、墳丘東側の一部については切土を使って成形した。なお、真砂土は石室埋め戻し時と同様の方法で古墳まで運搬した後、小型のバックホーを使いながら一輪車等で人力運搬した。盛土は層状に行い、ランマを使って層ごとに締固めを行った。

張芝 1 段目斜面、2 段目斜面及び後円部墳頂にノシバを張り表面保護を行った。

前方部上面及び後円部テラス面の整備 埴輪レプリカの設置面となるため、盛土上に碎石を敷設しプレートコンパクタで表面を均した。なお、平成 30 年度のレプリカ設置時に真砂土及び土系舗装（スーパーガンコマサ）による仕上げを実施している。

④レプリカ設置用基礎設置（平成 30 年度）

石見型埴輪及び須恵器レプリカ設置用の基礎（施設配置図の基礎 B・C・D）をコンクリート打設により設置した。なお、馬形埴輪レプリカ、人物埴輪レプリカ用の基礎（施設配置図の基礎 A・基礎 E）は現地には設置しなかった。

(3) 周辺整備

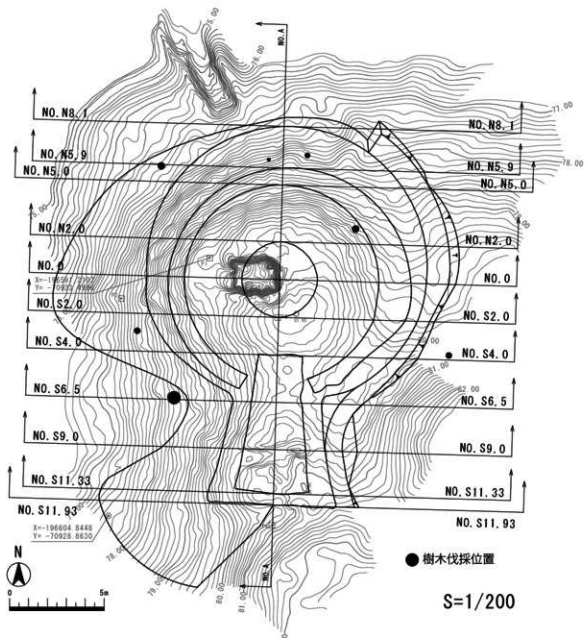
①墳丘外の植生整備（平成 29 年度）

墳丘西側の墳丘裾は傾斜変換点不明瞭であることから、植物分解性の種子ネットを設置して墳丘裾の明示をするとともに、墳丘外における植生の整備を行った。

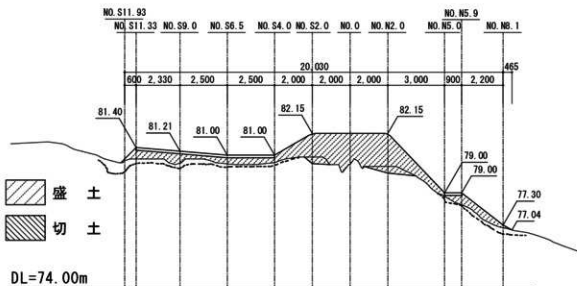
②副園路の整備（平成 29・30 年度）

実施設計の検討段階において、当初は墳丘の外周を巡る副園路を検討したが、墳丘西側が急傾斜で副園路設置には基礎工事が必要となる等の理由により、墳丘東側にのみ設置する設計とした。また、副園路は幅 1.5m の確保を目指したものの、旧地形の保護のためにやむを得ず一部を縮小し、前方部上面及び後円部テラス面と同様の土系舗装を行った。

③説明板の設置（平成 30 年度・第 4 節参照）

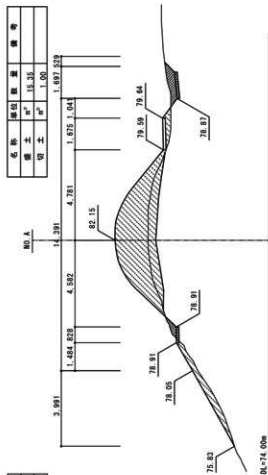
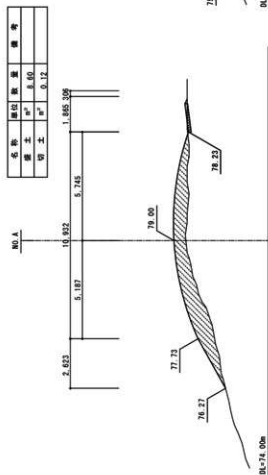
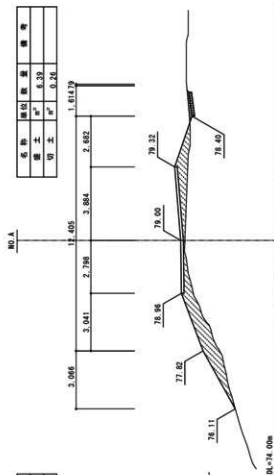
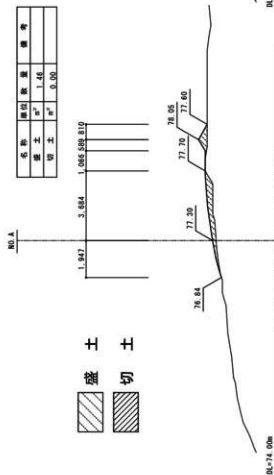


伐木位置図・造成平面図・断面位置図

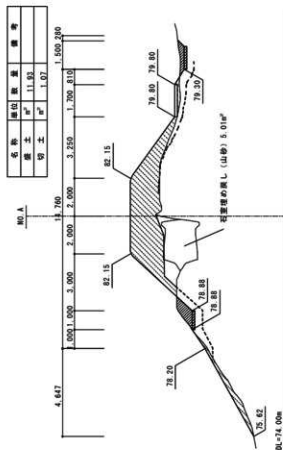


NO.A断面図 S=1/200

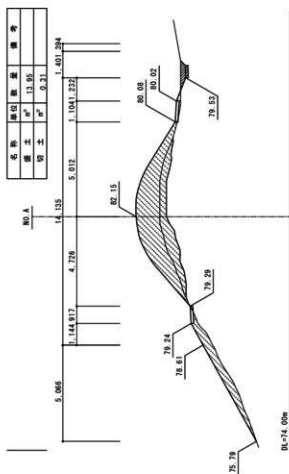
第4図 前山A58号墳 墳丘整備工事設計図(1)



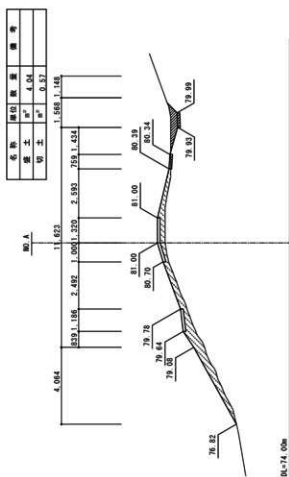
第5図 前山 A58号墳 墳丘整備工事設計図(2)



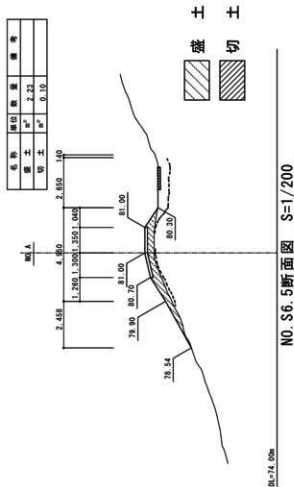
NO. 0断面図 S=1/200



NO. S2.0断面図 S=1/200



NO. S4.0断面図 S=1/200

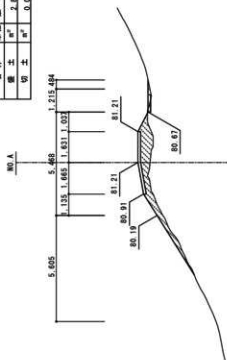


NO. S6.5断面図 S=1/200



第6図 前山 A58号墳 墳丘整備工事設計図 (3)

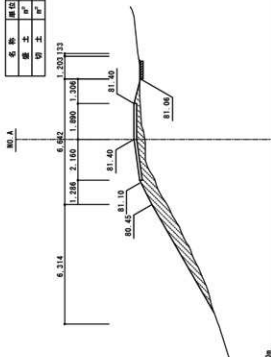
名称	单位	数量	備考
盛土	m ³	2.85	
切土	m ³	0.05	



BL-74.00m

NO. S9.0断面図 S=1/200

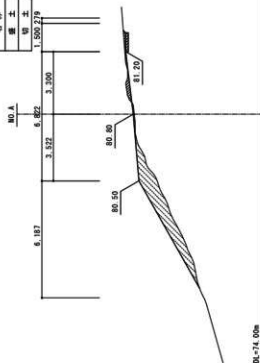
名称	单位	数量	備考
盛土	m ³	3.82	
切土	m ³	0.15	



BL-74.00m

NO. S11.33断面図 S=1/200

名称	单位	数量	備考
盛土	m ³	4.43	
切土	m ³	0.64	

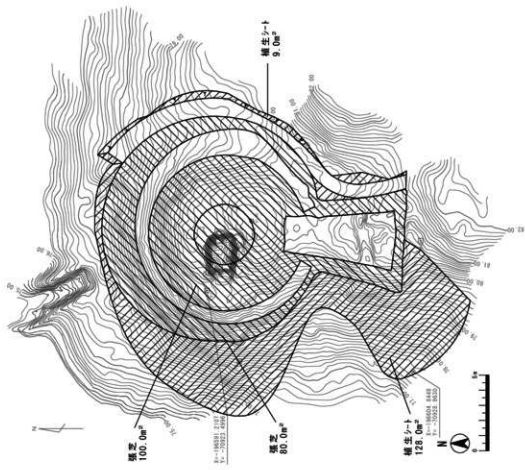


BL-74.00m

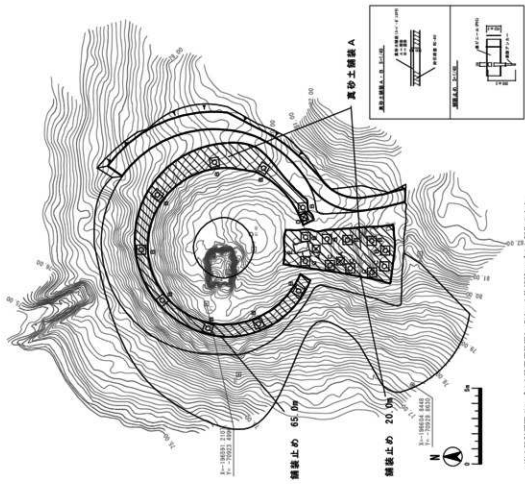
NO. S11.93断面図 S=1/200



第7図 前山 A58号墳 墳丘整備工事設計図 (4)



植生平面図 S=1/160

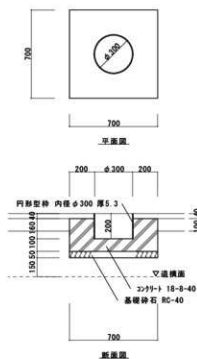


施設配置図 S=1/160

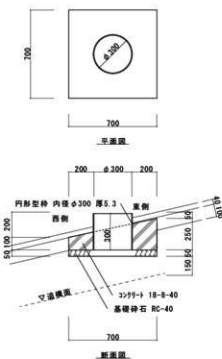
※本設計図面のレプリカ図製作者は、人物複製レプリカ制作の中止
及び鳥居形構築物の高麗り穴埋め込み部への変更により設置しなかった

第8図 前山 A58号墳 墳丘整備工事設計図(5)

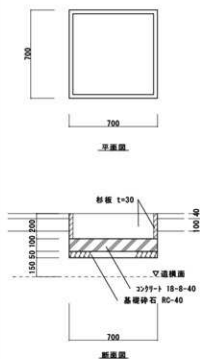
基礎B (石見型埴輪 前方部東側・後円部)



基礎C (石見型埴輪 前方部西側)



基礎D (須恵器大夏)



S=1/30

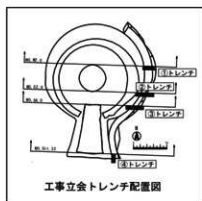
図9図 前山A58号墳 墳丘整備工事設計図(6)

(4) 整備工事に伴う工事立会

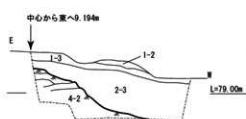
本整備工事では、発掘調査で得られた前山A58号墳の墳丘面レベルから30cm以上(埴輪樹立位置については50cm)の保護層を確保して設計したが、副園路を設置する墳丘の東及び南側については未確認で、隣接する前山A104・A153・A156号墳への干渉の可能性も考えられたため、施工業者の協力を得て墳丘等の内容確認調査を行った。

調査の結果、墳丘東側に設定した①・②・③トレンチでは、岩盤上に後世の土が堆積していることを確認した。岩盤は東に向かい高くなるが、これが自然地形か墳丘の一部であるのかは判断できなかった。④トレンチでは、南に向かい高くなる岩盤と前山A153号墳の墳丘盛土の可能性が考えられる層を確認した。

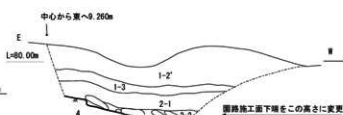
この結果、②③トレンチ付近は旧地形もしくは墳丘の岩盤に干渉するため、副園路の幅を狭く底面を高く設計変更して施工した。また、前方部前端的④トレンチ付近については、副園路の設置幅を確保することが困難であったため、南側への設置は断念し東側のみの設置に設計変更して整備工事を実施した。



- 1層：表土
 1-1：灰黄褐色 [10YR5/1] シルト (近年の盛土)
 1-2：明黄褐色 [10YR6/6] シルト (近年の盛土)
 1-2：黄褐色 [2.5Y5/3] 細砂 (近年の盛土)
 1-3：褐色～灰黄褐色 [10YR4/1～4/1] 細砂 (表土)
 2層：後世の埋戻土
 2-1：にぶい黄色 [2.5YR6/3] シルト、～30cm 次の片岩含む
 2-2：にぶい黄色 [2.5YR6/4] シルト、細砂含む
 3層：後世盛土か
 3-1：にぶい黄色 [2.5Y6/4] シルト、地山土少量含む
 4層：ベース土
 4-1：にぶい黄～明黄褐色 [2.5Y6/4～6/6] シルト、細砂含む
 4-2：明黄褐色 [10YR6/6～6/8] 粘質



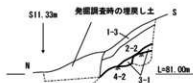
①トレンチ 南壁土層断面図
(N2ラインから南へ0.5m)



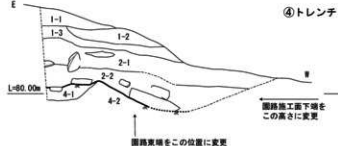
②トレンチ 南壁土層断面図 (S2ラインから南へ0.5m)



中心から7.674mの杭



④トレンチ 東壁土層断面図 (センターラインから東へ3.196m)



③トレンチ 南壁土層断面図 (S4ラインから南へ0.5m)

第10図 前山 A58 号墳 工事立会土層断面図 (S=1/40)

第3節 埴輪レプリカ等の製作及び設置

(1) 埴輪レプリカ等の製作・設置の方針

レプリカは、樹立状況の判明した後円部テラス及び前方部墳頂平坦面に円筒埴輪及び石見型埴輪、馬形埴輪レプリカを、東側くびれ部に須恵器大甕レプリカを設置することとした。その配置は、発掘調査トレンチで確認された円筒埴輪及び石見型埴輪の樹立位置と間隔から、くびれ部を除く後円部墳丘テラスでは円筒埴輪4基と石見型埴輪1基が交互に配置する復元案とし、前方部墳頂では平坦面を円筒埴輪と石見型埴輪が交互に配置して圍繞する復元案を採用した。

また、形象埴輪については、当初は巫女や馬曳きの可能性のある人物埴輪のレプリカ製作・設置も予定していたが、全体の形状を復元するうえで情報が不足しているため、本復元整備ではこれを見送ることとし、馬形埴輪のみレプリカを製作・設置する方針とした。

なお、樹立状況の明らかでない後円部墳頂の埴輪の復元についても行っていない。

レプリカのうち、埴輪レプリカは県立紀伊風土記の丘の教育普及事業である体験学習を開催して市民参加による製作とし、須恵器大甕レプリカのみ専門業者に製作を委託した。

(2) 業者委託による須恵器大甕レプリカの製作

東側くびれ部より出土した須恵器大甕のレプリカを、平成28年度に専門業者に委託して製作した。設計寸法は高さ80cm、胴部最大径65cmである(第12図)。レプリカの素材は陶磁器で、吸水率5パーセント以下とした。製作にあたっては、設計図面を製作してこれに基づいた成形を行うとともに、実物と同様の調整痕や波状文などの文様が表現されるよう留意した。また、調整痕や色調についてはテストピースと原品を比較して決定した。素材の耐久性については、使用する素材と同等のものによる吸水率実験と凍害試験を実施した試験結果の提出を受け、確認をおこなった。焼成後は、県立紀伊風土記の丘資料館へ搬入して検査を実施した。

(3) 市民参加による埴輪レプリカの製作

体験学習の開催 円筒埴輪や石見型埴輪レプリカは、教育普及事業において一般市民参加により製作した。レプリカは、発掘調査で出土し復元された埴輪をモデルとして設計図を作成した(第12・13図)。レプリカの設計高は円筒埴輪が43cm、石見型埴輪が126cm、馬形埴輪が高さ92cm・長さ100cmである。製作にあたり平成27年度から30年度に体験学習「前山A58号墳の実物大の埴輪をつくろう」を計13回開催した。体験学習への参加者は延べ146人で、このうち実物大の埴輪レプリカの製作者は延べ95人である。製作にあたっては陶芸家の指導を受け、出土した埴輪の観察所見に基づいて製作技術や調整、形態を再現することに留意した。以上により製作したレプリカ総数は、製作途中の破損品等を除いて、円筒埴輪55基、石見型埴輪19基、馬形埴輪1基である。このうち円筒埴輪レプリカ10基を予備として保管したほかは、現地に設置した。

埴輪レプリカの材質 レプリカ製作には陶芸用粘土または和歌山県内で入手した良質な地山土を使用して、土練機にて砂とシャモット、水を加えながら混ぜ合わせて整えた。地山土と砂の割合は4:1程度とした。シャモットの使用目的は、レプリカの胎土中にシャモットの白色粒子が肉眼で確認できることで、仮にレプリカが復元整備古墳上で破損した場合にも、実物の埴輪と現代品であるレプリカの破片を識別可能にするためである。

埴輪レプリカの焼成 レプリカは一定期間の乾燥を経て焼成した。円筒埴輪レプリカは陶芸用電

電気窯を使用し700℃ないし800℃の設定温度で焼成した。大型の石見型埴輪や馬形埴輪レプリカは電気窯の焼成室には納まらないことから、埴輪焼成用のレンガ製窯を県立紀伊風土記の丘園内に新規に製作・設置して焼成した。レンガ製窯における焼成は、平成27年度から30年度までの合計15回実施し、焼成温度は約600～800℃である。

補修・補強 石見型埴輪レプリカは、焼成時に各所に亀裂が生じることがあり、さらに基部の突帯が外れるなどの破損が頻繁に生じた。破損部の修復や、亀裂への接着剤の充填には、エポキシ系樹脂の接着剤（㈱コニシ製ボンドクイックメンダー30）を使用し、破損品などをすりつぶした粉末を、充填した接着剤の表面にまぶした。さらに石見型埴輪レプリカはレンガ製窯による焼成であるため焼成温度が低いものがあり、現地設置時に雨水の吸水による破損が懸念されることから、バインダー（10%希釈）を表面に塗布するなどの強化処理を実施した。

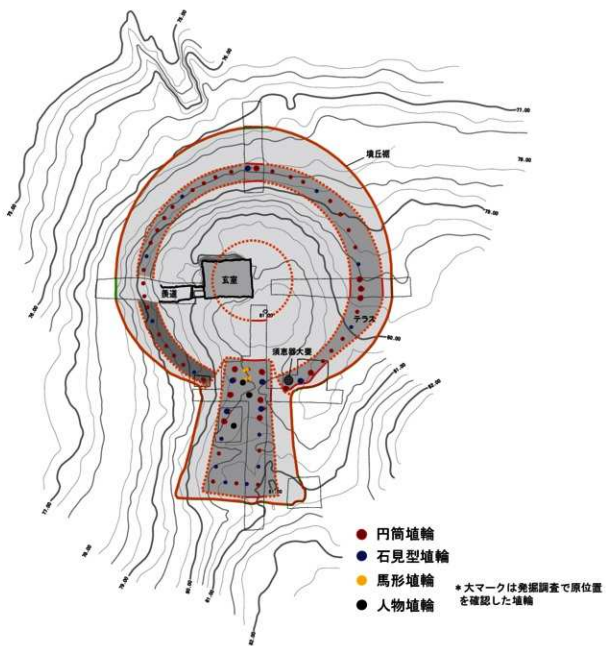
（4）レプリカの設置

①レプリカの搬出・設置

県立紀伊風土記の丘資料館から前山A58号墳へのレプリカの搬出及び設置を平成30年度に専門業者に委託して実施した。石見型埴輪・馬形埴輪レプリカと須恵器大甍レプリカは専門業者が運搬・設置を行い、円筒埴輪レプリカ35基は県立紀伊風土記の丘が搬出を行い、このうち18基を専門業者が設置した。なお、石見型埴輪、須恵器大甍レプリカはコンクリート製の設置用基礎に固定し、その他のレプリカは素掘り穴に埋め込み固定を行っている。

②市民参加による円筒埴輪レプリカの運搬・設置

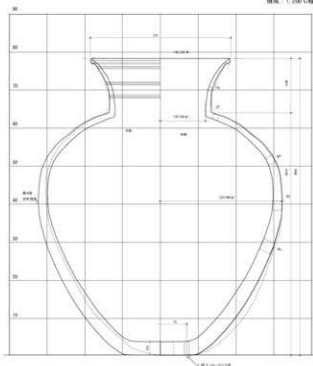
古墳の復元整備事業と教育普及事業を一体化させた取り組みとして、円筒埴輪レプリカ27基を製作した市民が自身の手で前山A58号墳に設置する「埴輪設置式」及び「復元整備完成記念セレモニー」を平成31年3月10日に開催し、平成27年度から30年度にレプリカを製作した市民と関係者61人が参加した。また、レプリカ製作者のうち希望者は古墳時代人の装いで円筒埴輪レプリカ10基を資料館から運搬し、鍬や鋤を使って設置したほか、発掘調査成果等を参考に古墳時代の飲食物供献儀礼を再現し、首長・巫女などを演じた。当該イベントには、小学生、中学生、高校生、30代から80代までの幅広い年齢層の市民やボランティアが参加しており、地域に根差した特色ある古墳の復元整備事業を実施することができた。



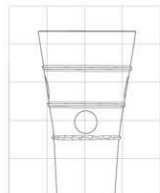
第11図 前山 A58 号墳 埴輪樹立状況復元図 (S=1/200)

実測図寸法 785H ~ 780H × 630W
 制作寸法 785H × 646W

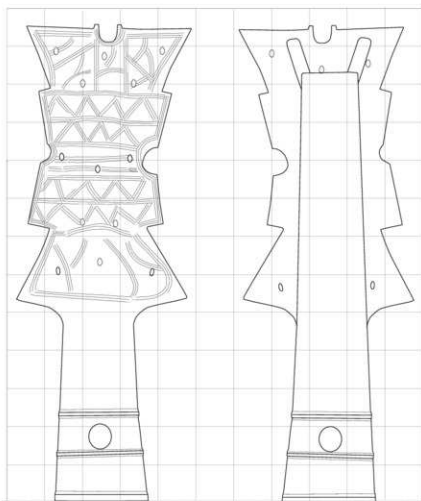
製作仕様 原料：粉原料（O-0221）有色原料
 着色：陶器用の原料による表面着色焼付
 絵柄：木目コウタン及び磁器による埋飾
 焼成：1,200℃程度の酸欠焼成



須恵器大甕レプリカ設計図 (専門業者委託製作)

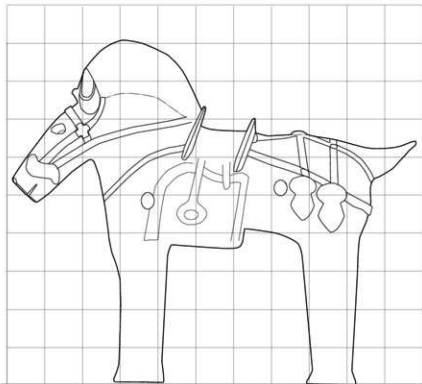


円筒壺輪レプリカ設計図 (市民参加製作)



石見型壺輪レプリカ設計図 (市民参加製作)

第12図 前山 A58 号墳墳丘復元整備用レプリカ設計図 (1) (S=1/10)



馬形埴輪レプリカ設計図（市民参加製作用）

第13図 前山 A58 号墳埴丘復元整備用レプリカ設計図（2）（S=1/10）

第4節 説明板製作・設置

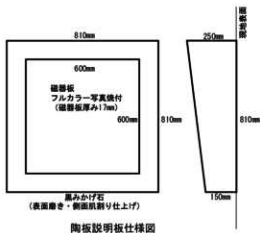
（1）陶板説明板の製作・設置

復元整備された前山 A58 号墳の概要を解説した説明板の製作・設置を平成 30 年度に専門業者へ委託した（第 14 図）。陶板製で 60cm 四方盤面に解説文と図を焼き付けている。また台座は黒御影石製である。

大日山 35 号墳、將軍塚古墳、前山 A46 号墳などの岩橋千塚古墳群の主要古墳における説明板と同様の仕様とした。

（2）地区説明板の製作

主園路から前山 A58 号墳周辺へ誘導するための地区説明板 1 基の製作・設置を令和 2 年度に専門業者へ委託した（第 15 図）。岩橋千塚古墳群の各所に配置している既設の地区説明板と同様の仕様とした。



陶板説明版仕様図

前山 A58号墳

The Maeyama A Tomb No.58

마에야마A58호분

埴輪配置図



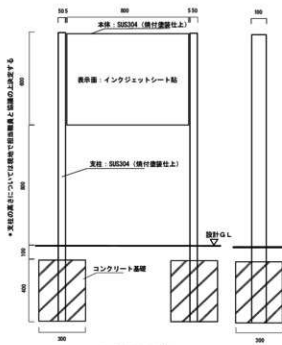
平成31(2019)年 和歌山県教育委員会

6世紀前半に築造された小型の前方後円墳です。全長は19.6mで、前方部1段、後円部2段の構造をもち、前方部が低く造られています。墳丘上には、円筒埴輪、朝顔形埴輪、石見型埴輪が立て並べられています。前方部頂上には馬形埴輪、人物埴輪が、東側のくびれ部付近には須恵系の土甕が置かれていました。

後円部には西に開口した、岩割型横穴式石室が造られています。石室からは須恵系、土師系のほかに、馬具、鉄刀、鉄鎌、刀子、玉類などの副葬品が出土しました。

古墳の立地や規模、副葬品からみて、大型の前方後円墳に葬られた首長層よりも、やや低い階級の人物が葬られていたと考えられます。

第14図 前山 A58号墳 陶板説明版仕様図及び版面



地区説明板仕様図

- 支柱・本体の角は取りを削る。
- 全体のデザイン、色彩、材料、細部の詳細は平成20年度以降設置の説明板仕様に基づき変更するものとし、詳細については担当職員と協議の上決定する。

前山A地区 前山A58号墳と周辺の古墳

前山A地区は、和歌山県から北へ進む和歌の尾根上に古墳が密集して造られています。ここでは、前山A地区の西側の尾根にあたり、小型の前方後円墳・前山A58号墳のほか、多数の古墳や円墳などより古くは6世紀頃に造られたさまざまな古墳を見学することができます。前山A58号墳は石室が横穴式石室を特徴とし、遺品には多数の埴輪が出土しています。現在は遺品の展示整備が完了し、市民により制作された埴輪のジオラマを設置しています。前山A58号墳は埴輪配置図の小型の横穴式石室をもつ円墳で、前山A11号墳・108号墳は横穴式石室を、前山A100号墳は横穴式石室をもつ円墳です。



第15図 前山 A58号墳周辺 地区説明版仕様図及び版面

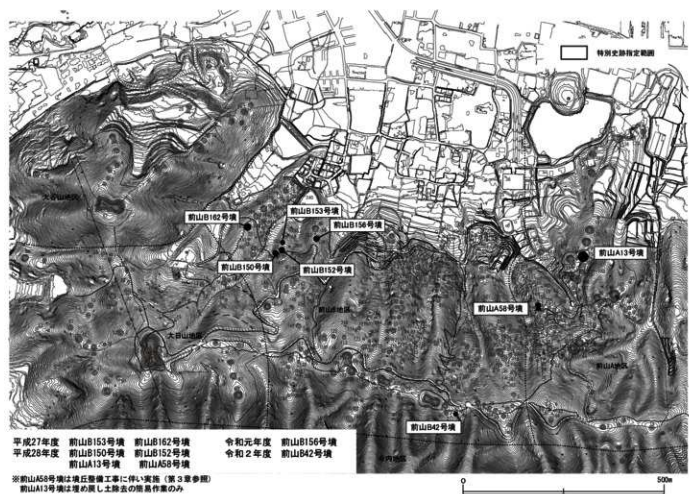
第4章 古墳修景工事及び石室実測調査

第1節 事業に至る経緯

和歌山県は、特別史跡岩橋子塚古墳群を対象に、平成17年度より古墳修景工事を実施している。これは、過去に盗掘などを受けて毀損し、崩壊の危険がある石室については、現状での記録作成後に砂による埋め戻しを実施して保護を図るとともに、墳丘上に盛土を施し修景を行うものである。

記録作成については、石室内部に堆積した腐葉土などを除去し清掃した後に写真撮影を実施し、視認できる範囲で平面図・立面図を作成して石室の現況を記録する。工事については、石室内部に砂を充填した後、上部に真砂土で盛土を施して墳丘の修景を行う。墳丘表面には種子ネットを貼ることにより緑化を図り、盛土の流出を防止する。また、盗掘を受けた際に生じた窪みや、経年変化による土砂の流出、イノシシ等による獣害などが認められる古墳についても、真砂土による埋戻しを施し修景を行うこととしている。

平成27年度から令和2年度までの6カ年度で、古墳修景工事を実施した古墳（第16図）は、前山B42号墳、同150号墳、同152号墳、同153号墳、同156号墳、同162号墳と、墳丘整備工事（本書第3章）に伴い石室の埋め戻しを実施した前山A58号墳の7古墳である。また、関



第16図 古墳修景工事対象古墳位置図（平成27年度～令和2年度）

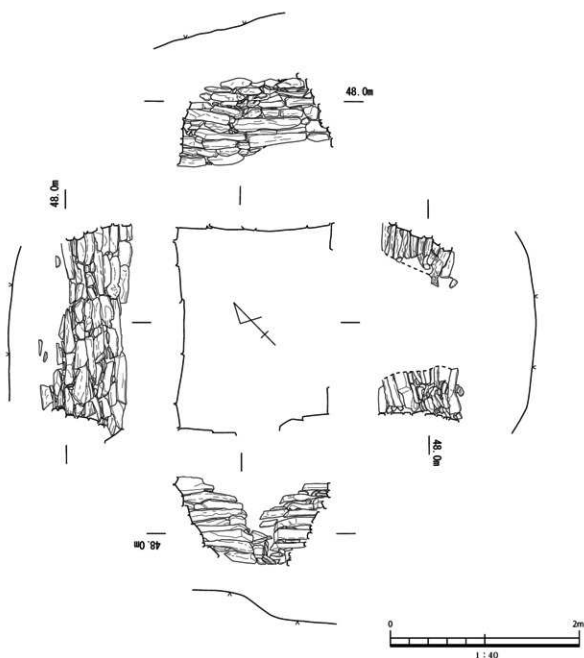
連して前山 A13 号墳石室への雨水の流入を防止する目的で、過去の発掘調査における埋め戻し土を掘削・除去して羨道部の傾斜を変更する簡易な作業も平成 28 年度に実施している。

このうち過年度に発掘調査成果を報告した前山 A58 号墳（和歌山県教育委員会 2015）を除く 6 古墳について、工事に伴い実施した石室実測調査の成果と、清掃作業時ないし事前の古墳踏査時に出土した出土遺物を報告する。

第 2 節 石室実測対象古墳の概要

(1) 前山 B153 号墳 (第 17 図)

平成 27 年度に保存修景工事を実施した。直径 10.5 m、高さ 1.5 m の円墳で、石室は南西方向に開口する両袖式の岩橋型横穴式石室である。視認できる範囲では玄室幅約 1.6 m、玄室長約 2.1



第17図 前山 B153 号墳 石室実測図 (S = 1/40)

mで、残存高は約0.8mである。

床面は検出しておらず、床面における石室規模はこれより大きくなると推測される。天井石は欠失しており、左側壁の石材の大部分も欠失している。

(2) 前山 B162 号墳 (第 18 図)

平成 27 年度に保存修景工事を実施した。直径 16.5 m、高さ 4.5 m の円墳で、墳丘斜面でテラスの可能性のある範囲では円筒埴輪列が原位置で巡ることが一部確認され、保護のため真砂土による埋め戻しを行った。また墳丘上部及び墳丘裾下の副園路より円筒埴輪及び形象埴輪の破片が複数採集されており、埴輪が樹立していた可能性が高い。

石室は、東北東方向に開口する岩橋型横穴式石室である。視認できる範囲での玄室幅は約 1.7 m で、残存高は約 1.7 m である。床面は検出しておらず、床面における石室規模はこれより大きくなると推測される。一部天井石が残存しており、玄室前道及び羨道は上部が欠失している。

奥壁には長さ約 1 m の石棚が付設されており、二枚の板状の石材を組み合わせている。

(3) 前山 B152 号墳 (第 19 図)

平成 28 年度に保存修景工事を実施した。直径 14 m、高さ 2 m の円墳で、石室は南西方向に開口する両袖式の岩橋型横穴式石室である。石室の平面形態が T 字形を呈する特徴をもつ。視認できる範囲では玄室幅約 1.6 m、玄室長約 0.9 m で、玄門幅は前壁側で約 0.5 m である。玄室前道の入口側には石材が確認され、閉塞石の可能性がある。玄室の残存高は約 0.7 m である。玄室下部に崩落土が厚く堆積しており床面は検出していない。天井石は欠失し、側壁の孕みも大きく状態は不安定である。また、墳丘南側の一部が副園路で削平を受けている。

(4) 前山 B150 号墳 (第 20 図)

平成 28 年度に保存修景工事を実施した。直径 14 m、高さ 2.5 m の円墳で、石室は北西方向に開口する右片袖傾向の強い両袖式の岩橋型横穴式石室である。視認できる範囲では玄室幅約 2.2 m、玄室長約 1.8 m で、玄門幅は前壁側で約 0.5 m である。玄室の残存高は約 1.0 m である。床面は検出しておらず、床面における石室規模はさらに大きくなると推測される。墳丘上より円筒埴輪の破片が複数採集されており、埴輪が樹立していた可能性が高い。

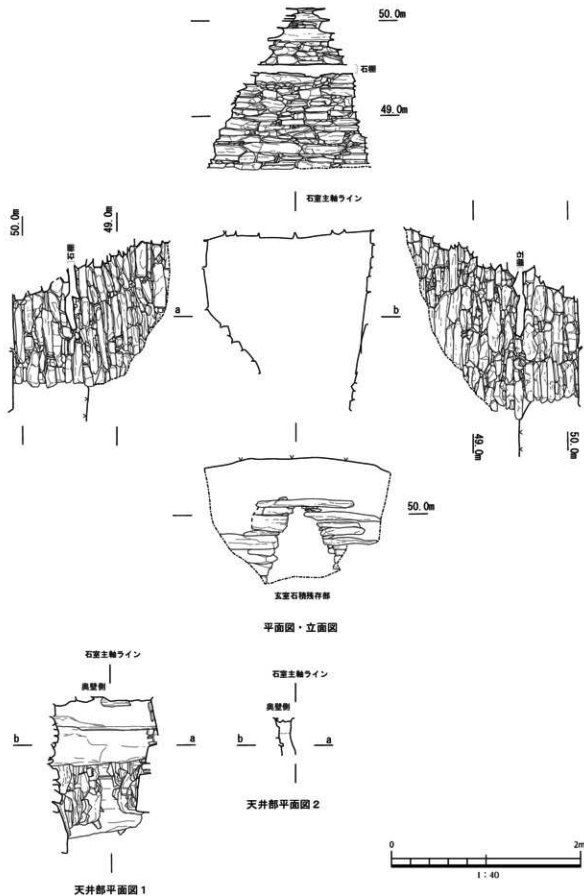
天井石は欠失し、石積みは細かな石材が多いため状態は不安定である。また、墳丘南側の一部が副園路で削平を受けている。

なお、副園路上で当該古墳に伴う埴輪列が樹立状態で確認されており、過年度に簡易な埋め戻しによる保護を行っているが、今後は園路位置を変更するなどしてさらなる保護を図る必要がある。

(5) 前山 B156 号墳 (第 21 図)

令和元年度に保存修景工事を実施した。直径 16 m、高さ 3 m の円墳で、石室は東方向に開口する両袖式の岩橋型横穴式石室である。視認できる範囲では玄室幅約 1.6 m、玄室長約 1.7 m で正方形に近い平面形態を呈する。また、右袖幅 0.64 m、左袖幅 0.5 m、玄門幅 0.54 m である。

玄室の残存高は、約 0.8 m である。床面は検出しておらず、床面における石室規模はさらに大きくなると推測される。



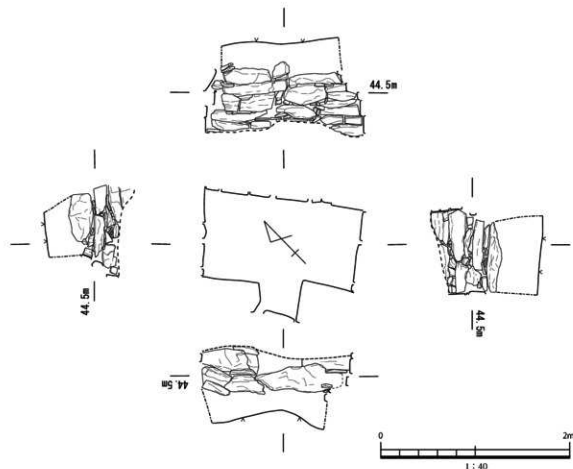
第18図 前山 B162 号墳 石室実測図 (S = 1/40)

天井石は欠失し、玄室下部には崩落土が厚く堆積し、側壁及び前壁の孕みも大きいため、状態は不安定である。

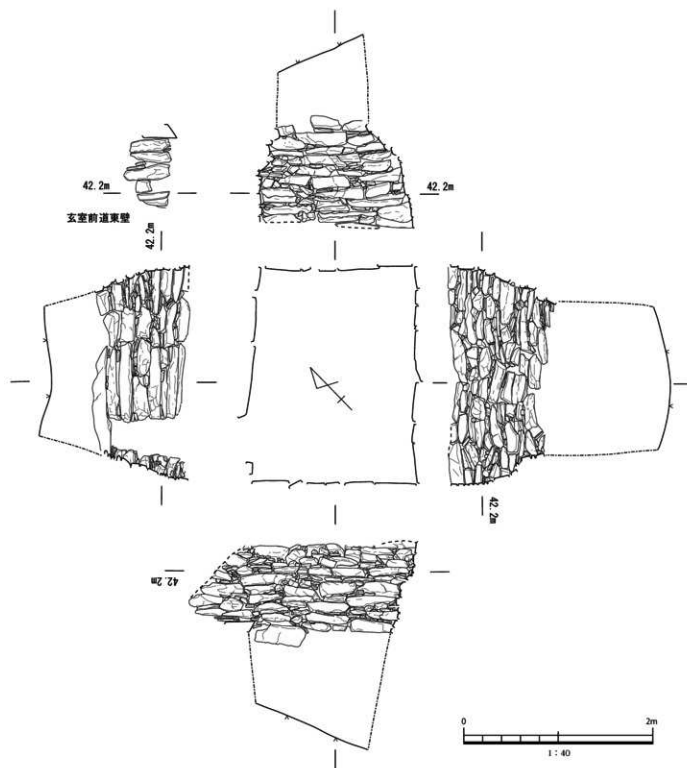
(6) 前山 B42 号墳 (第 22・23 図)

令和元年度に保存修景工事を実施した。直径約 15 m、高さ約 2 m の円墳で、石室は南東方向に開口する両袖式の岩橋型横穴式石室である。視認できる範囲では玄室幅が奥壁側で約 1.95 m、玄室長約 3.3 m である。また前壁は、現況では右袖幅約 0.55 m、左袖幅約 0.3 m、玄門幅 0.65 m であるが、両側壁の孕みが大きく傾斜しているために本来の前壁の形状を保っていない。玄室前道は、本来は前壁の中央付近に接続した可能性がある。奥壁に石棚に付設されており、厚さは最大 0.24 m、奥壁よりの長さは約 0.7 m である。石棚上には崩落度が堆積している。

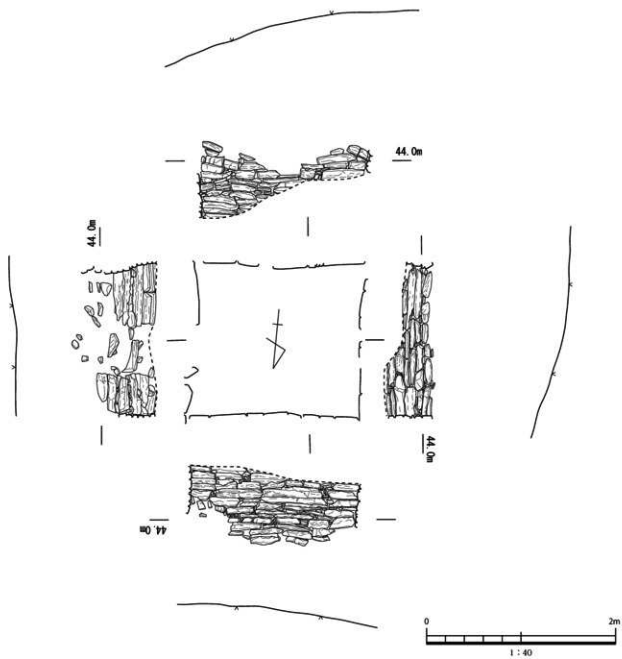
玄室の残存高は、最大で約 1.7 m である。床面は未検出であるが、奥壁側から約 0.7 m の範囲では円礫が複数分布しており、本来の床面に近い標高にあると考えられる。一方前壁側は、崩落土が厚く堆積していた。天井部は欠失しており、両側壁の孕みも非常に大きく状態は不安定である。



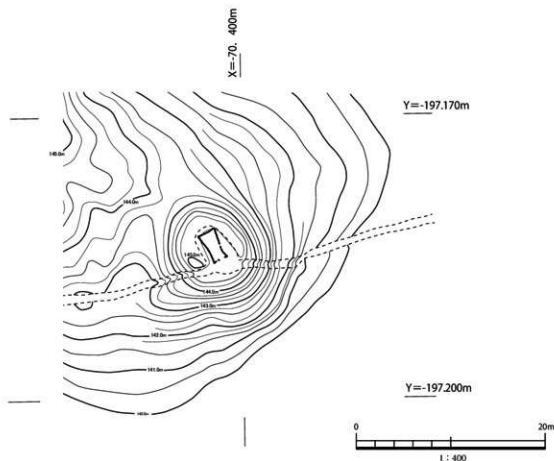
第19図 前山 B152 号墳 石室実測図 (S = 1/40)



第20图 前山B150号墳 石室実測図 (S = 1/40)



第21图 前山 B156 号墳 石室实测图 (S = 1/40)



第23図 前山 B42 号墳 墳丘測量図 (S = 1/400)

第3節 石室実測対象古墳の出土遺物

(1) 前山 B162 号墳採集遺物 (第 24 図)

円筒埴輪と形象埴輪の破片が採集されている。円筒埴輪 1・2 は、口縁部および体部で、口縁端部は肥厚せず、断面がやや凹む形状を呈する。体部は突帯の断面が台形状で、外面はタテハケないしナナメハケ後にナデ調整が施される。以上は V 群系の円筒埴輪の特徴を有する。形象埴輪は、5・6 は 3 条単位の沈線が施され、上方より穿孔が穿たれており、石見型埴輪の形象部の可能性が高い。

(2) 前山 B150 号墳採集遺物 (第 25 図)

円筒埴輪の破片が複数採集されている。9 は口縁部で、口縁端部の断面はごくわずかに凹む。体部 (10・11・13) は、外面にタテハケを施し、突帯が断面台形状を呈するものが多い。底部 (14・15) には板オサエが確認される。以上は V 群系の円筒埴輪の特徴を有する。底径は復元約 13cm、体部径は復元で約 14 ~ 20cm であり、概ね小型品である。

(3) 前山 B42 号墳採集遺物 (第 25 図)

16 は高杯の脚部の可能性がある。底端部は内側に肥厚する。内外面は回転ヨコナデで、外面に自然軸が付着する。

(4) その他(第25図)

17は前山B156号墳の周辺での表採だが、当該古墳に伴うかは不明である。家形埴輪の破片で、裾廻り部または破風と考えられ、前者の可能性が高い。

第4節 第1期整備事業の石室実測対象古墳・同周辺の出土遺物

(1) 概要

本節では、第1期整備事業の古墳修景工事に伴い墳丘や石室内部より採集した遺物の一部や、周辺より採集された遺物について報告する。なお、これらの古墳の石室実測図ないし簡易実測図は、既刊の各整備事業報告書を参照されたい。

また、遺物を報告する古墳は以下のとおりであるが、過去の整備事業報告書における古墳名称については、その後の保存活用計画(和歌山県教育委員会2019)における台帳整備に伴い名称を改訂したものが含まれている。このため該当する古墳について、ここでは「現在の古墳名称(旧古墳名称)」のように併記する。

第1期整備事業(平成15～20年度)(和歌山県教育委員会2010)

前山A130号墳

第1期整備事業(平成21～26年度)(和歌山県教育委員会2015)

前山B147号墳(旧前山B136号墳)、前山B164号墳、前山B167号墳、前山B170号墳、前山B172号墳、前山B174号墳、前山B176号墳、前山B249号墳(旧前山BX100号墳)、前山B250号墳(旧前山BX101号墳)、前山B240号墳、大日山12号墳、大日山14号墳、大日山68号墳(旧前山B201号墳)、大日山81号墳(旧前山BX9号墳)、大日山82号墳(旧前山BX10号墳)

(2) 出土遺物の概要(第26～29図)

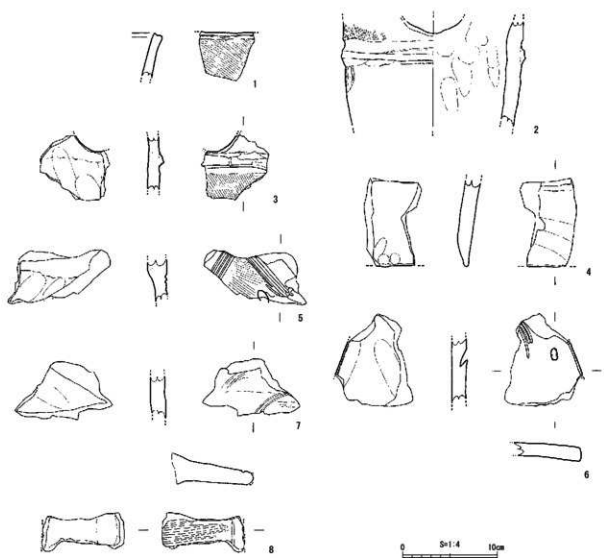
前山A130号墳は直径約16mの円墳で、石棚の架構された岩橋型横穴式石室を埋葬施設とする。墳丘上からは方形および三角形の透孔をもつ器台の脚部(1・2・4)及び杯部の破片(3)が採集されている。

前山B167号墳は直径約17.5mの円墳(造り出し付円墳)で右片袖傾向の両袖式の岩橋型横穴式石室を埋葬施設とする。円筒埴輪(6～8)及び馬形埴輪脚部(9)の可能性のある形象埴輪、須恵器甕(11)の破片などが墳丘より採集された。

前山B164号墳は直径15～18mの円墳で、墳丘より埴輪片が多数出土しており、須恵質を含むV群系の円筒埴輪(18～24)や石見型埴輪の形象部(25)が採集されたことから埴輪が樹立されていた可能性が想定される。

前山B170号墳は直径約15mの円墳で、古墳修景工事に先立つ清掃作業中に、墳頂で円筒埴輪が樹立している状態が確認され、盛土で保護を行っている。採集された資料には、下段突帯に断続ナデの施された円筒埴輪(26)や、馬形埴輪の頭部(31)、須恵器蓋杯(32・33)、有害高杯蓋(34)がある。蓋杯(32)はTK10型式期の帰属と考えられる。

前山B172号墳は直径12～16mの円墳で、左片袖式または左片袖傾向の両袖式の岩橋型横穴式石室と推測され、円筒埴輪(35)、形象埴輪基部(36)、不明形象埴輪(37)、須恵器(38～42)などが採集されている。無蓋高杯(40)は、脚部に3方向の透孔をもちTK43型式期の帰属

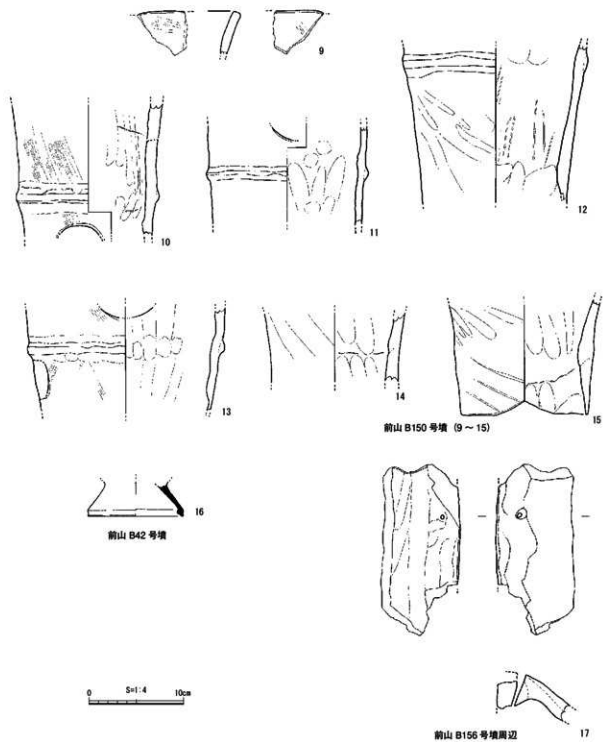


第24図 石室実測対象古墳出土遺物 (前山 B162 号墳)

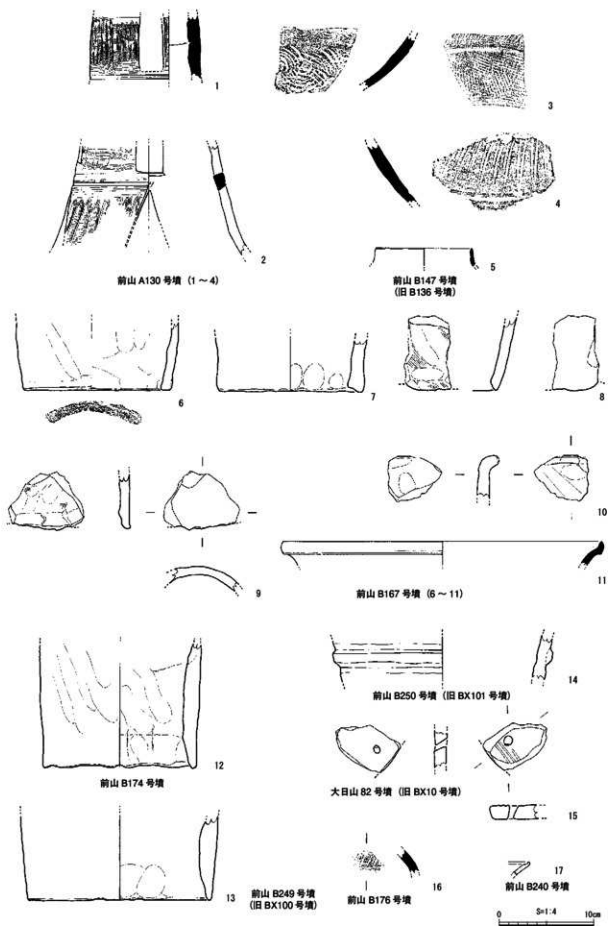
とみられる。

大日山 12 号墳は直径 7 m、14 号墳は直径 8 m の小型の円墳で、墳丘及び石室から複数の須恵器蓋杯 (43 ~ 48) が採集された。M T15 ~ TK10 型式期に帰属するものを主体とする。

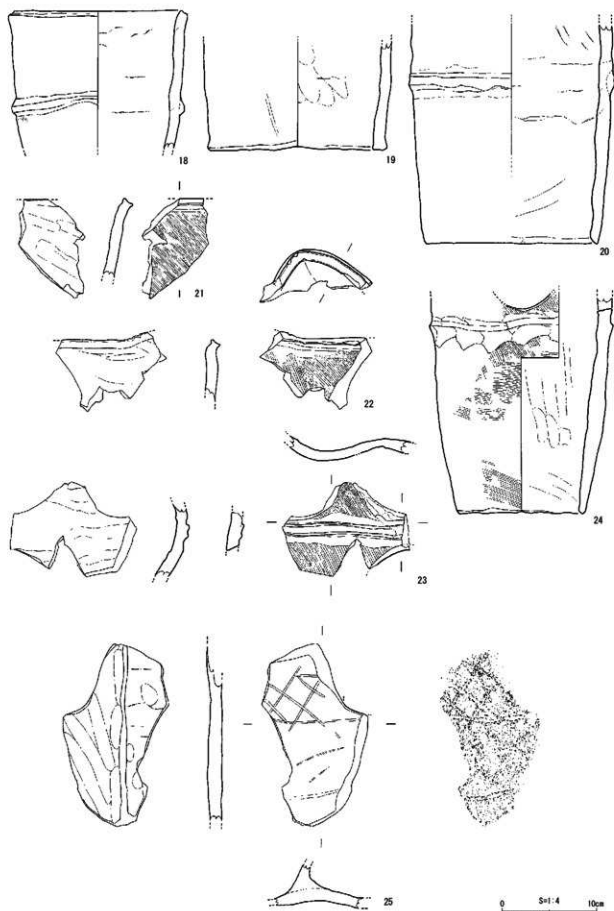
この他の各古墳より採集された遺物も含め、出土遺物の詳細は第 3 表に示した。



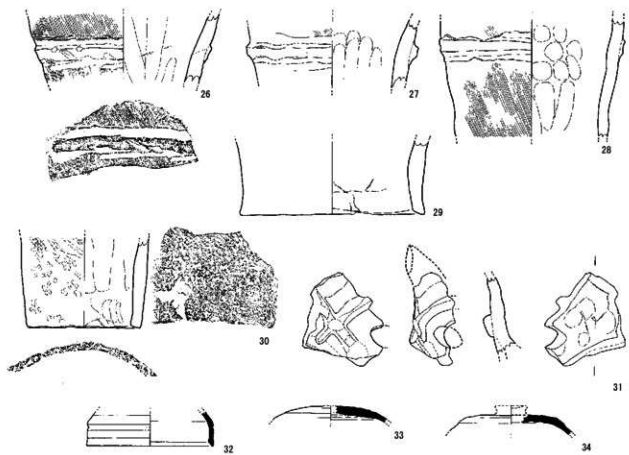
第25図 石室実測対象古墳出土遺物（前山 B150・42号墳及び前山 B156号墳周辺）



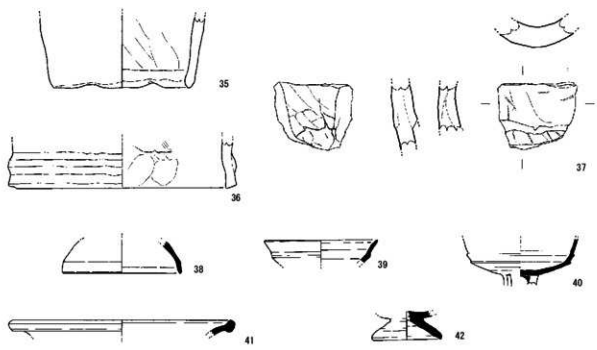
第26図 石室突測対象古墳(第1期整備)出土遺物
(前山 A130 号墳、前山 B147・167・174・176・240・249・250 号墳、大日山 82 号墳)



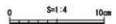
第27图 石室实例对象古墳(第1期整備)出土遺物(前山B164号墳)



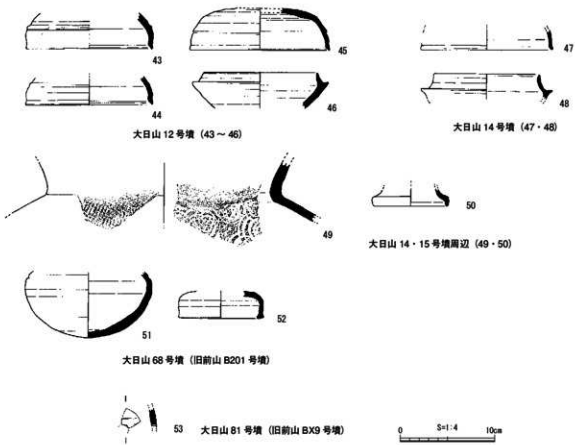
前山 B170 号墳 (26 ~ 34)



前山 B172 号墳 (35 ~ 42)



第28图 石室実測対象古墳(第1期整備)出土遺物 (前山 B170・172 号墳)



第29図 石室実測対象古墳(第1期整備)出土遺物
(大日山 12・14・68・81号墳及び大日山 14・15号墳周辺)

第2表 石室実測対象古墳出土遺物 観察表

NO	調査番号	古墳	器種	出土位置	法量	特徴	色調	胎土	焼成	残存率	取り上げ日時
1	Ⅷ阪19	山田1342号墳	円筒埴輪	埴輪下の胴上・表面	-	1段縁部はコナテテテ。縁部は細く凹む。内面はナメテテ。内面は横線なし、筋の跡ナシ。	外・内： 2338/4に ぶい-褐色	2mm以下の白色 微塵、砂粒を含む	良好	-	2010028
2	Ⅷ阪19	山田1342号墳	円筒埴輪	埴輪下の胴上・表面	残存部径 最大19.0cm (原尺)	器身中央、変形は断面台形状で、わずかに膨らみをもつ。変形より上部に浅い溝が穿たれる。外周はナメテテ。八分目以下、内面は筋ナシ及びコナテテ。	外・内： 1037/4に ぶい-黄褐色	5mm以下の白色微塵、1mm以下の灰色、褐色の砂粒を含む	良好	20%	2010030
3	Ⅷ阪19	山田1342号墳	円筒埴輪	埴輪下の胴上・表面	-	変形は断面台形状で、筋上に浅い溝が穿たれる。外周は変形より上部にナメテテ。内面は筋ナシ及びコナテテ。	外・内： 1037/6にぶい 黄褐色	2mm以下の灰色、白色の塵、砂粒を含む	良好	-	2016030
4	Ⅷ阪19	山田1342号墳	円筒埴輪	埴輪下の胴上・表面	-	外周はコナテテ。内面は底縁部付近に筋ナシ。	外・内： 2332/6褐色 内： 1032/6黄褐色	4mm以下の灰色、白色微塵、砂粒を含む	良好	-	2016032
5	Ⅷ阪19	山田1342号墳	不明形埴輪類 (石見型埴輪か)	埴輪上・表面	-	石見型埴輪の形跡部分か。3条単位の沈殿で山形状の文様が施される。変形あり。外周はナメテテの丸みナシ。内面は筋ナシ。	外・内： 1032/4にぶい 黄褐色	5mm以下の白色微塵、砂粒、片貝を含む	良好	-	2016031
6	Ⅷ阪19	山田1342号墳	不明形埴輪類 (石見型埴輪か)	埴輪下の胴上・表面	-	器身中央、石見型埴輪の形跡部分か。3条単位の沈殿あり。5条帯部から入の溝が穿たれるが浅い。内面は筋ナシ。	外・内： 1032/4にぶい 黄褐色	5mm以下の白色微塵、片貝、砂粒を含む	良好	-	2009114
7	Ⅷ阪19	山田1342号墳	不明形埴輪類	埴輪下の胴上・表面	-	2条単位の沈殿が施される。外周はナメテテのナシ。内面ナシ。	外・内： 2332/4に ぶい-褐色	5mm以下の白色微塵、砂粒を含む	良好	-	2012027
8	Ⅷ阪19	山田1342号墳	不明形埴輪類	埴輪下の胴上・表面	-	外周付近を縦筋の沈殿で区画し、内面に横筋の多量の文様を施す。内面は筋ナシ。	外・内： 2332/6褐色	2mm以下の灰色、白色の塵、砂粒を含む	良好	-	2016019
9	Ⅷ阪19	山田1343号墳	円筒埴輪	表面	-	器身中央、1段縁部の文様はナメテテに凸む。外周及び内面はナメテテ。	外・内： 1037/4に ぶい-黄褐色	5mm以下の灰色の塵と1mm以下の褐色砂粒を含む	良好	-	2017025
10	Ⅷ阪19	山田1343号墳	円筒埴輪	埴輪上・表面	残存部径 20.0cm (原尺)	変形は断面台形状。変形より上部に浅い溝が穿たれる。外周は筋ナシ及びコナテテ。内面は筋ナシ及びコナテテ。	外・内： 2332/8褐色 内： 2332/6褐色	5mm以下の片貝、白色微塵、砂粒を含む	良好	20%	2014385
11	Ⅷ阪19	山田1343号墳	円筒埴輪	埴輪上・表面	残存部径 22.0cm	器身中央、変形は断面台形状。変形より上部に浅い溝が穿たれる。外周は筋ナシ及びコナテテ。内面は筋ナシ及びコナテテ。	外・内： 2332/6褐色	2mm以下の白色微塵、砂粒を含む	良好	30%	2014385
12	Ⅷ阪19	山田1343号墳	円筒埴輪	埴輪上・表面	残存部径 20.0cm (原尺)	器身中央、底面中央は断面台形状。外周は筋ナシ及びコナテテ。内面は筋ナシ及びコナテテ。	外・内： 1037/4にぶい 黄褐色	5mm以下の白色・褐色の塵、砂粒を少量含む	良好	10%	2014061
13	Ⅷ阪19	山田1343号墳	円筒埴輪	埴輪上・表面	残存部径 20.0cm (原尺)	器身中央、変形は断面台形状。変形より上部に浅い溝が穿たれる。外周は筋ナシ及びコナテテ。内面は筋ナシ及びコナテテ。	外・内： 2332/6褐色 内： 2536/4にぶい-黄褐色	5mm以下の白色微塵を含む	良好	10%	2014385
14	Ⅷ阪19	山田1343号墳	円筒埴輪	埴輪上・表面	残存部径 14.0cm (原尺)	器身中央、外周は筋ナシ及びコナテテ。内面は筋ナシ。	外・内： 1037/6にぶい 黄褐色	3mm以下の白色微塵を含む	良好	30%	2014061
15	Ⅷ阪19	山田1343号墳	円筒埴輪	埴輪上・表面	残存部径 12.0cm (原尺)	内外面中央。外周は筋ナシ。底縁部付近に筋ナシ。	外・内： 2332/6褐色	5mm以下の白色微塵、片貝を含む	良好	20%	2014305
16	Ⅷ阪19	山田1342号墳	埴輪類 （断面不全）	瓦葺 敷土層	底縁 12.0cm (原尺)	底縁の断面が、底縁部は内側に凹むナシ。外周は筋ナシ。外周は自然丸みあり。	外・内： 2536/2黄褐色 内： 3376/4黄褐色	1mm以下の白色砂粒を少量含む	良好	20%	2020045
17	Ⅷ阪20	山田1346号墳 調査区	家形埴輪 （断面不全）	埴輪15号号型より断面付近	-	山田56号埴輪型で高径だが、当該位置に付くかは不明。家形埴輪の断面がほぼ縁部のみ残存あり。器身中央、溝が穿たれる。内面は筋ナシ。	外・内： 2332/6褐色 内： 1037/3にぶい 黄褐色	1cm以下の灰色、白色微塵、片貝を含む	良好	-	2014389

第3表 石室実測対象古墳(第1期整備)出土遺物 観察表

NO	調査番号	古墳	器種	出土位置	法量	特徴	色調	胎土	焼成	残存率	取り上げ日時
1	Ⅷ阪20	山田1343号墳	家形埴輪	埴輪上・表面	残存部径 14.0cm	器身の断面、変形により凹みがあり、1/2以下は変形より膨らみをもつ。変形より上部に浅い溝が穿たれる。外周は筋ナシ及びコナテテ。内面は筋ナシ及びコナテテ。	外・内： 2535/4黄褐色	2mm以下の灰色、白色の塵、砂粒を含む	良好	20%	2006087
2	Ⅷ阪20	山田1343号墳	家形埴輪	埴輪上・表面	残存部径 18.0cm	器身の断面、1条の沈殿より区画される。各段には浅い溝が穿たれる。外周は筋ナシ及びコナテテ。内面は筋ナシ及びコナテテ。	外・内： 2335/3灰色	2mm以下の白色の塵・砂粒を含む	良好	30%	2006087
3	Ⅷ阪20	山田1343号墳	家形埴輪	埴輪上・表面	-	器身の断面、1条の沈殿で区画され、上部に浅い溝が穿たれる。1・2と同一形状。	外・内： 2536/2黄褐色 内： 2536/4黄褐色	3mm以下の白色微塵、砂粒を含む	良好	-	2006087
4	Ⅷ阪20	山田1343号墳	家形埴輪	埴輪上・表面	-	器身の断面、変形により凹みがあり、変形より上部に浅い溝が穿たれる。外周は筋ナシ及びコナテテ。内面は筋ナシ及びコナテテ。	外・内： 2376/2黄褐色	1mm以下の白色砂粒を含む	良好	-	2006087
5	Ⅷ阪20	山田1347号墳 (山田36号墳)	家形埴輪	瓦葺 敷土層	11号 13.0cm (原尺)	断面部は11号型。内外面は筋ナシナシ。	外・内： 1035/1灰色	1mm以下の白色砂粒を少量含む	良好	10%以下	2010025
6	Ⅷ阪21	山田1347号墳	円筒埴輪	埴輪裏面	底縁 15.0cm (原尺)	器身中央、外周は筋ナシ。内面は筋ナシ。底縁部付近に筋ナシ。底縁部は筋ナシ。	外・内： 2332/6褐色 内： 1037/6にぶい 黄褐色	5mm以下の片貝、灰色微塵、1mm以下の白色砂粒を含む	良好	20%	2009114
7	Ⅷ阪21	山田1347号墳	円筒埴輪	埴輪裏面	底縁 12.0cm (原尺)	器身中央、内面は底縁付近に筋ナシ。底縁部は筋ナシ。	外・内： 2332/6褐色	3mm以下の白色微塵、砂粒を含む	良好	20%	2006029
8	Ⅷ阪21	山田1347号墳	円筒埴輪	埴輪裏面	-	器身中央、内面は筋ナシ及びコナテテ。底縁部は筋ナシ。	外・内： 2536/4にぶい 黄褐色	2mm以下の灰色、灰色の塵、砂粒を含む	良好	-	2009114
9	Ⅷ阪21	山田1347号墳	動物埴輪 （断面不全）	埴輪上・表面	-	動物埴輪の断面が、器身中央、内面は筋ナシ及びコナテテ。	外・内： 2336/6褐色 内： 2536/4にぶい 黄褐色	3mm以下の灰色微塵を含む	良好	20%	2009114

NO.	国産番号	古 種	品 種	志土位置	注 意	特 徴	色 調	粉 土	構成	残存率	取り上げ日付
10	30021	崩山 1847号墳	不明形埴輪類	期定古墳部の 遺物	-	埴輪破片。外面はナメ方方向の軟 テラットの浅彫痕あり。	外) 2Y36-4Lに赤い褐色 内) 2Y36-6褐色	3mm以下の白色・ 灰色の礫・砂粒を含む	良好	-	2012024
11	30021	崩山 1847号墳	埴輪器 蓋	埴輪 表面	1径 13.0cm (原尺)	裏の1層部。内外面は回転ナメ 方向に自然肌。	外) 2Y5G11-10赤土 7-6灰色 内) 2Y36-4Lに赤い 褐色 内) 2Y36-3Lに赤い 褐色 内) 2Y36-6褐色	2mm以下の白色の 礫を少量含む	良好	10% 以下	2009114
12	30021	崩山 1874号墳	円筒埴輪	墳直上南側 溝 表面	底径 12.0cm (原尺)	外側ナメテラツテ。内面は粗ナメ。 底面は浅彫痕あり。	外) 2Y36-4Lに赤い 褐色 内) 2Y36-6褐色	1cm以下の白色の 礫。少量の赤・砂粒 を含む	良好	25%	2012081
13	30021	崩山 1879号墳 (即 1830号墳)	円筒埴輪	石室北東側の 礎石上敷土	底径 19.4cm (原尺)	埴輪破片。内面基部付近はナメテ ラツテ。	外・内) 2Y36-6褐色	5mm以下の白色・ 灰色の礫。少量 の砂粒を含む	良好	10%	2010022
14	30021	崩山 1820号墳 (即 18311号墳)	円筒埴輪	石室南側 敷土層	残存部径 12.0cm (原尺)	埴輪破片。表面は自然肌形状。	外・内) 2Y37-6褐色	3mm以下の礫(長 径1.0cm程度)を含む	良好	10%	2010026
15	30021	大目山 82号墳 (即 18329号墳)	不明形埴輪類	石室北壁付近	-	埴輪破片。3条の浅彫痕みられる。 上向きに成立する。	外) 10Y36-4L淡褐色 内) 2Y32-6褐色	3mm以下の灰色・ 褐色。少量の赤・砂粒 を含む	良好	-	2011002
16	30021	崩山 1876号墳	埴輪器 環蓋土層	石室 敷土層	-	内面部分では磨滅工具による粗面 が之彫痕みられる。内面は回転ナメ。	外・内) 2Y36-2灰黄 赤色	1mm以下の白色砂 粒を少量含む	良好	10% 以下	2013015
17	30021	崩山 1824号墳	土師器 環蓋土層	石室 敷土層	-	土師器の磨いた表面。彫痕は上方へ 向けて成立する。	外・内) 2Y36-6明赤 褐色	1mm以下の白色砂 粒を少量含む	良好	10% 以下	2012028
18	30021	崩山 1864号墳	円筒埴輪	埴輪 敷土層	1径 18.0cm (原尺)	埴輪破片。表面の断面は凹凸。尖 鋭な角が自然肌。1層部のみ。外 側の断面は10.5cm。	外・内) 2Y36-6褐色	5-10mm大の片岩 土。1mm以下の白 色・灰色の礫・砂粒。 少量を含む	良好	20%	2012027
19	30021	崩山 1864号墳	円筒埴輪	埴輪 敷土層	底径 18.0cm (原尺)	埴輪破片。外面基部付近はナメテ ラツテ。内面は粗ナメ。底面は浅 彫痕みられる。断面は10.5cm。	外・内) 2Y36-6褐色	5mm以下の白色・ 灰色の礫。少量 の砂粒を含む	良好	30%	2012027
20	30021	崩山 1864号墳	円筒埴輪	埴輪 敷土層	底径 17.0cm (原尺)	埴輪破片。下段中央は解砕内形で 一部が扁平状に凸出。内面は底面 付近は粗ナメの粗面。下段中央 の底面からの高さ27.0cm。ナメ の断面は6.6-7.0cm。	外・内) 10Y37-4Lに 赤い黄褐色	1cm大の片岩を含む。 5mm以下の白色・ 灰色の礫。1mm以 下の白色・灰色の 砂粒も含まれる	良好	30%	2012027
21	30021	崩山 1864号墳	円筒埴輪	墳直中央-西 側溝	-	埴輪器の内面輪郭の1層部。1径 18.0cm程度をもち、磨いたコテ により表面凹凸が顕著に凸出。外 側はナメテラツテ。内面は粗ナメ。 ハツテの断面は7.6-7.8cm。	外) 2Y36-2灰黄赤 内) 2Y36-1灰赤	2mm以下の白色・ 灰色の礫・砂粒を含む	良好	-	2009114
22	30021	崩山 1864号墳	円筒埴輪	埴輪 敷土層	-	埴輪器の内面輪郭の1層部。1径 18.0cm程度をもち、磨いたコテ により表面凹凸が顕著に凸出。外 側はナメテラツテ。内面は粗ナメ。 ハツテの断面は7.6-7.8cm。	外) 2Y37-2淡黄赤 内) 2Y36-1灰赤	1mm以下の白色・ 灰色の砂粒を含む	良好	-	2012027
23	30021	崩山 1864号墳	円筒埴輪	埴輪 敷土層	-	埴輪器の内面輪郭で、構成時の焼 け具合が著しい。外面はナメテ ラツテ。底面は粗ナメ状に凸出。外 内面は浅彫痕あり。ハツテの断面 は6.6-7.0cm。	外) 2Y37-2灰黄赤 内) 2Y36-2灰黄赤	2cm大の灰白色の 礫と1mm以下の 白色・灰色の砂粒 を含む	良好	-	2012027
24	30021	崩山 1864号墳	円筒埴輪	墳直北東部 溝底	底径 17.0cm (原尺)	埴輪器の内面輪郭。下段中央は解 砕ナメ。下段中央より上部に磨 き込み。内面は粗ナメ。外側は淡 褐色に磨滅ナメ。上部はナメテ ラツテ。ハツテの断面は6.6-7.0cm。下段 中央の底面からの高さ20.0cm。	外・内) 10Y36-2灰 黄褐色	3mm以下の灰白色 の礫と1mm以下 の白色・灰色の砂 粒を含む	良好	20%	2009114
25	30021	崩山 1864号墳	石室型埴輪	埴輪 敷土層	-	石室型埴輪の破片。中央部から 下段帯付の磨滅。中央部より上 下を次第で反照した内面に磨滅 をもち、下段帯付近は粗ナメの粗 面を露出させる。上部は埴輪器成 形の粗面が顕著に凸出。断面は 約10cm程度をもち、磨いたコテ により表面凹凸が顕著に凸出。外 側は粗ナメ。ハツテの断面は 6.6-7.0cm。	外・内) 2Y36-6褐色	3mm以下の赤・ 褐色を含む	良好	20%	2012027
26	30021-23-24	崩山 1870号墳	円筒埴輪	墳直北東 側溝	残存部径 20.0cm (原尺)	下段中央は解砕ナメが顕著。磨 滅がやや扁平状に凸出。外側は ナメテラツテ。内面は粗ナメ。 ハツテの断面は7.6-7.8cm。	外) 2Y36-3Lに赤い 褐色 内) 10Y36-3Lに赤 い黄褐色	3mm以下の白色礫 と白色砂粒を含む	良好	20%	2009029
27	30021	崩山 1870号墳	円筒埴輪	墳直北東 側溝	残存部径 18.0cm (原尺)	中央部は解砕ナメが顕著。外側は ナメテラツテ。内面は粗ナメ。 ハツテの断面は7.6-7.8cm。	外) 10Y36-4Lに赤 い黄褐色 内) 2Y32-6褐色	4mm以下の白色・ 灰色の礫と1mm 以下の白色砂粒を 含む	良好	20%	2009114
28	30021	崩山 1870号墳	円筒埴輪	墳直(石室南 側) 敷土層	残存部径 12.0cm (原尺)	中央部は解砕ナメが顕著。外側は ナメテラツテ。内面は粗ナメ。 ハツテの断面は7.6-7.8cm。	外・内) 2Y37-6褐色	1mm以下の白色砂 粒を含む	良好	20%	2012087
29	30021	崩山 1870号墳	円筒埴輪	墳直北東部 溝底	底径 19.0cm (原尺)	埴輪破片。底面部分をもち、中 内径する。	外・内) 10Y37-4Lに 赤い黄褐色	4mm以下の白色・ 灰色の礫と1mm 以下の白色砂粒を 含む	良好	10% 以下	2009029
30	30021-23-24	崩山 1870号墳	円筒埴輪	墳直北東 側溝	底径 12.0cm (原尺)	円筒埴輪の底面小。底面部分はや や扁平状に凸出。外側は粗ナメの 粗面が顕著に凸出。断面は約 10cm程度をもち、磨いたコテ により表面凹凸が顕著に凸出。外 側は粗ナメ。ハツテの断面は 6.6-7.0cm。	外) 10Y36-2灰黄赤 内) 10Y36-4Lに赤 い黄褐色	3mm以下の白色砂 粒を含む	良好	40%	2009029
31	30021	崩山 1870号墳	石室型埴輪 (環蓋)	墳直北東 側溝	-	石室型埴輪の破片で、右側の底面 から目立つ凸出の磨滅。中央部 は粗ナメ。上部は粗ナメ。ハツ テの断面は約10cm程度をもち、 磨いたコテにより表面凹凸が 顕著に凸出。外側は粗ナメ。ハ ツテの断面は6.6-7.0cm。	外・内) 2Y37-4Lに 赤い黄褐色	3mm以下の白色礫 と砂粒を含む	良好	-	2009114
32	30021	崩山 1870号墳	埴輪器 環蓋	石室 敷土層	1径 13.2cm (原尺)	1層部が表面磨滅に著しく磨滅 は浅彫痕みられる。内面は粗 ナメ。ハツテの断面は7.6-7.8cm。	外・内) 2Y37-2灰黄 赤色	1mm以下の灰色砂 粒を含む	良好	10% 以下	2012086
33	30021	崩山 1870号墳	埴輪器 環蓋	墳直北東 側溝	-	天部帯外側縁部3号分の2を回転ハ ツテ。断面は粗ナメ。	外) 5Y5-1灰赤 内) 10Y6-1灰赤	2mm以下の白色 礫。砂粒を主体に 含む	良好	20%	2009114

NO	国産 車種	古 種	器 種	出止位置	注 意	特 徴	色 調	船 上	機 能	機音中	取り上げ日時
34	国産 23	山出 1170 号	燃費器 有害長燃器	噴止装置 表側	-	天井部内側固定部分の2本回転へ ラツスリ、巻上げ回転ナツスリ、ロツリ 回転方向は右、天井部に組みの船 外は右向き。	外-内) 2376/2黄白色 2376/3に、白 黄色	1mm 以下の白色、 黄色の砂粒を少量 含む	良好	30%	2012087
35	国産 24	山出 1172 号	円筒形機 機油	噴止装置 表側上層	表層 14.6cm (黄白色)	器油噴霧、内面はナツスリ方向の船 外は右向き。	外-内) 1978/4に 白-黄白色	2mm 以下の白色 機油、砂粒を少量 含む	良好	10% 以下	2012094
36	国産 24	山出 1172 号	船機機油 機油	噴止装置 表側上層	表層 20.0cm (黄白色)	器油噴霧、噴霧機の器油で、器 油部の中や1方側面の積戻を見 るも器油が船外に付される、内面 はナツスリ方向。	外-内) 2376/8機油 内) 2376/4に、白 黄色	6mm 以下の白色、 灰色の機油、砂粒を 含む	良好	30%	2012094
37	国産 24	山出 1172 号	不明船機機油	噴止装置 表側上層	-	不明機油で、船機機油の円筒部か、 大刀の潤滑部を以てし、人物機油の 機油の可能性もある、外側に器油 噴霧あり。	外- 2376/3に、白- 黄色	5mm 以下の白色機 油をわずかに含む	良好	-	2012094
38	国産 24	山出 1172 号	燃費器 有害長燃器	噴止装置 表側	1層 12.6cm (黄白色)	天井部は回転へラツスリのナツスリ、 口縁部および内面は回転ナツスリ、	外) 2375/2黄白色 内) 2375/1黄白色	1mm 以下の白色砂 粒を含む	良好	10% 以下	2012094
39	国産 24	山出 1172 号	燃費器 有害長燃器	噴止装置 表側	1層 11.8cm (黄白色)	外層は1層部より装置の側面に近く 噴霧する、内層は回転ナツスリ、	外-内) 376/1黄白 色	1mm 以下の白色、 機油の砂粒を含む	良好	30%	2012096
40	国産 24	山出 1172 号	燃費器 有害長燃器	右室 噴止装置	-	外層は1層部より装置の側面に近く 噴霧する、内層は回転ナツスリ、機油は長 方形の噴霧が主方向。	外) 375/1黄白色 内) 2377/1黄白色	1mm 以下の白色、 機油の砂粒を少量 含む	良好	30%	2012094
41	国産 24	山出 1172 号	燃費器 有害長燃器	噴止装置 表側上層	1層 14.6cm (黄白色)	器の1層部、器油は器壁より厚くも つ、内外層は回転ナツスリ。	外-内) 2375/2機油 黄白色	1mm 以下の白色機 油をわずかに含む	良好	10% 以下	2012094
42	国産 24	山出 1172 号	燃費器 有害長燃器	右室 噴止装置	表層 (黄白 色) 7.1cm	円筒部の器壁から、器油は丸くお よそ5mm、器壁内外面は回転ナツスリ、 器油はナツスリ。	外) 374/1黄白色 内) 2376/3に、白- 黄色	2mm 以下の白色 機油、砂粒を少量 含む	良好	30%	2012094
43	国産 25	大目山 12 号	燃費器 有害長燃器	噴止装置 表側	1層 12.2cm (黄白色)	天井部より上部の積戻不明確、口 縁部は右室機油に立ち上がり、口 縁部器壁は内側して流す方向、内 層は回転ナツスリ。	外-内) 2376/2黄白 色	1mm 以下の白色、 黄色の砂粒を含む	良好	30%	2011017
44	国産 25	大目山 12 号	燃費器 有害長燃器	噴止装置 表側	1層 11.4cm (黄白色)	積戻はよく噴霧する、口縁部が噴 霧気味に立ち上がり、口縁部器壁は 内側して流す方向、内外層は回転 ナツスリ、て流す方向、内外層は回転 ナツスリ。	外) 2376/1黄白色 内) 2376/2黄白色	1mm 以下の白色砂 粒を少量含む	良好	30%	2011017
45	国産 25	大目山 12 号	燃費器 有害長燃器	噴止装置 表側	1層 14.8cm (黄白色)	天井部が平らで、積戻はよく噴霧。 口縁部器壁は内側して流す方向、 天井部外層は固定部分の器壁へラツ スリ、巻上げ回転ナツスリ、ロツリ 回転方向は右。	外) 2375/1黄白色 内) 2376/1黄白色	2mm 以下の白色機 油、砂粒を少量 含む	良好	20%	2011037
46	国産 25	大目山 12 号	燃費器 有害長燃器	噴止装置 表側	1層 12.0cm (黄白色)	1層部は内側して流す方向、器 壁は丸くおよそ5mm、内外層は回転 ナツスリ。	外-内) 2376/2黄白 色	1mm 以下の白色砂 粒を少量含む	良好	30%	2011037
47	国産 25	大目山 14 号	燃費器 有害長燃器	右室 噴止装置	1層 12.5cm (黄白色)	1層部器壁は内側して流す方向、内 外層は回転ナツスリ。	外-内) 376/1黄白 色	1mm 以下の白色砂 粒を少量含む	良好	10% 以下	2011011
48	国産 25	大目山 14 号	燃費器 有害長燃器	右室 噴止装置	1層 11.4cm (黄白色)	1層部器壁は内側して流す方向、器 壁は丸くおよそ5mm、内外層は回 転ナツスリ。	外-内) 2377/1黄白 色	1mm 以下の白色、 黄色の砂粒を少量 含む	良好	10% 以下	2011013
49	国産 25	大目山 14 - 15 号機油	燃費器 有害長燃器	右室部器 壁	表層 5cm (黄白色)	器の1層部から器壁の噴霧、1層 部は内外層ナツスリ、器壁は器壁平 行ナツスリ、内層は同心円状。	外-内) 376/1黄白 色	2mm 以下の白色砂 粒を少量含む	全々 無	10% 以下	2011028
50	国産 25	大目山 14 - 15 号機油	高圧機 機油	大目山 14 - 15 号機油の器壁 表側	表層 8.0cm (黄白色)	高圧の器壁、器壁は右室気味で、 丸くおよそ5mm、内外層は回転ナツ スリ。	外-内) 2376/3に、 白-黄色	1mm 以下の黄色砂 粒を少量含む	良好	10% 以下	2011017
51	国産 25	大目山 16 号機 油(山出 1303 号 機)	燃費器 有害長燃器	表側	噴止装置 15.4cm (黄白色)	器または器の器壁、器壁は右室機 油味も、器壁に1本の装置をも つ、器壁は器壁平平行ナツスリ、内 面は回転ナツスリ。	外) 2377/2黄白色 内) 2376/1黄白色	2mm 以下の白色 機油、砂粒を少量 含む	良好	20%	2010020
52	国産 25	大目山 16 号機 油(山出 1304 号 機)	燃費器 有害長燃器	表側	1層 8.0cm (黄白色)	口縁部は右室の内側気味に立ち上 がり、器壁は器壁平平行ナツスリ、 器壁は器壁平平行ナツスリ、外 面は回転ナツスリ。	外-内) 350/1黄白 色	2mm 以下の白色 機油、砂粒を少量 含む	良好	20%	2010020
53	国産 25	大目山 16 号機 油(山出 1305 号 機)	燃費器 有害長燃器	表側	-	器の再噴霧機、円筒を巻き上り部 に1本の装置が取り付けられる、機 油味も	外-内) 2378/2黄白 色	1mm 以下の黄色の 砂粒を少量含む	不良	-	2010018

第5章 危険木伐採

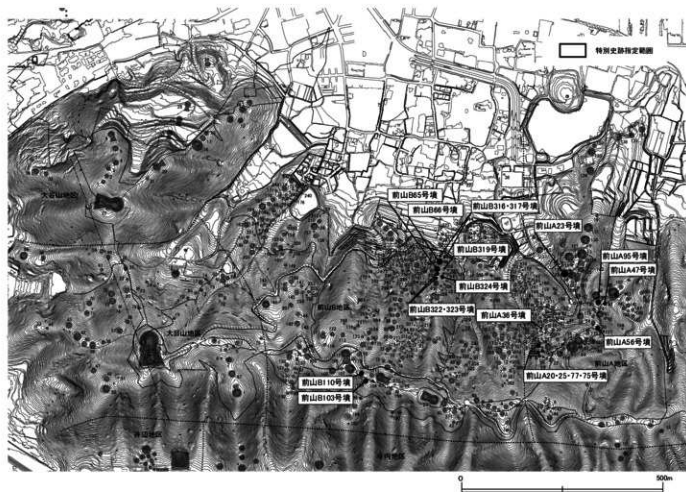
第1節 事業の概要

特別史跡岩橋千塚古墳群は指定地が森林に覆われており、古墳の墳丘上にも樹木が繁茂している。樹木は根の成長により墳丘盛土や石室が毀損する要因となっていることから、整備事業では、古墳の墳丘上の樹木及び古墳の保存に影響を及ぼす恐れのある樹木は原則として伐採する方針としている。

第2期整備事業では、平成27年度及び令和元年度に危険木伐採業務を委託により実施し、前山A地区及びB地区の古墳の墳丘上に生育するコナラ、ヤマモモ、サクラを主体とする樹木を伐採し、1m程度に切断した上で、紀伊風土記の丘の園路へ搬出した。これらの樹木の樹高は15～20mを主体とし、胸高直径は約20～60cmである。

平成27年度は和海森林組合へ委託し、前山A地区及び前山B地区における古墳墳丘上の樹木34本を伐採した。また、令和元年度は和紀森林組合へ委託し、前山B地区の古墳墳丘上の樹木38本を伐採し、さらに一部は園外へ搬出して処分を行った。特にコナラについては、破砕または焼却処分としている。

事業の対象とした古墳は、第30図に示すとおりである。



第30図 危険木伐採対象古墳位置図（平成27年度・令和元年度）

第6章 便益施設及び県指定文化財展示・ 収蔵施設の設置等工事

第1節 便益施設設置工事

トイレは、園内に4箇所あるが、設置から約50年が経過し老朽化が激しく、利用者からも環境改善の要望が多数あることから、平成29年度にうち3箇所の撤去及び2箇所の新設工事を実施した。旧小早川家住宅の南側にあるトイレについては、体験広場東のトイレから近く他のトイレに比べ有効性が低いことから撤去することとした。資料館から徒歩約30分程度の距離にある山頂西側と東側のトイレ及び休憩施設については、撤去後新たにトイレ及び休憩施設を設置した。

これら2箇所のトイレ及び休憩施設は、地下遺構に影響がないよう同規模、同位置に景観に配慮した形態及び意匠として設置した。

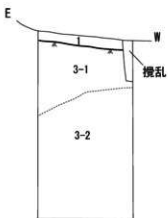
また、工事に際し専門職員が立会を行った結果、工事掘削範囲が既設トイレ設置時の削平面又は整地土内に収まることが確認できたため、史跡への影響は軽微であると判断した。

第2節 県指定文化財「日高地域の地引網漁用具」 展示・収蔵施設設置工事

重要文化財旧柳川家住宅と旧谷山家住宅の間に、県指定文化財である和船が露出展示されていたが、風雨による劣化が激しいため、平成30年度に同位置に展示・収蔵施設を新設した。設置工事に際し工事立会を行った結果、住宅の移築時又はそれ以前に地山を平坦に削った整地面であることが明らかとなったことから、史跡への影響は軽微であると判断した。



第31図 便益施設及び県指定文化財展示・収蔵施設設置等工事 位置図



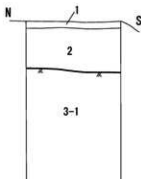
- 1: 雑灰黄色 (2.574/2) 雑多く含む (表土)
 3-1: 明褐色 (7.5795/6) 雑、少量の石灰含む、
 やや風化 (遊離)
 3-2: 明オリーブ灰色 (2.5677/1) (遊離)

便槽土層断面 (S=1/40)



外観 (西から)

前山A地区



- 1: 雑灰黄色 (2.574/2) 雑多く含む (表土)
 2: 褐色 (10794/4) やや軟質、雑多い
 3-1: 明褐色 (7.5795/6) 雑、少量の石灰含む、
 やや風化 (遊離)

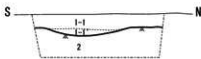
便槽土層断面 (S=1/40)



外観 (北西から)

大日山地区

第32図 トイレ・休憩施設建替え工事 工事立会図及び写真



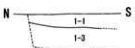
①西壁南西隅 (S=1/40)



②東壁中央付近 (S=1/40)



③断面北側 (S=1/40)



④東壁北隅 (S=1/40)

- 1層: 雑土 (表地土)
 1-1: 雑褐色 細砂
 灰・近代瓦・雑・白・黄色粒含む
 1-1': 地山土塊に含む
 1-2: 黄褐色 シルト～粘土 締まる
 1-3: 2層に似、白・黄・灰色粒含む
 2層: 地山
 2: 黄灰褐色 風化

※排水設備位置については、配管設置高さである地表面から、1mまで第1層が埋積していることを確認。

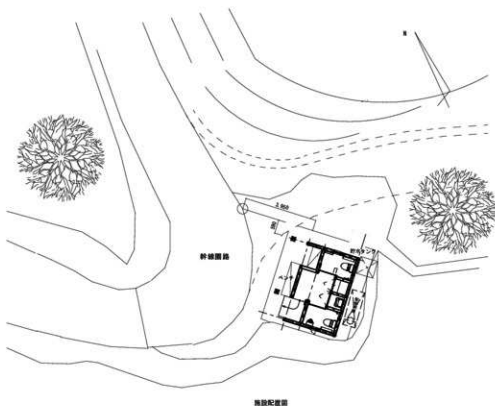


外観 (北西から)

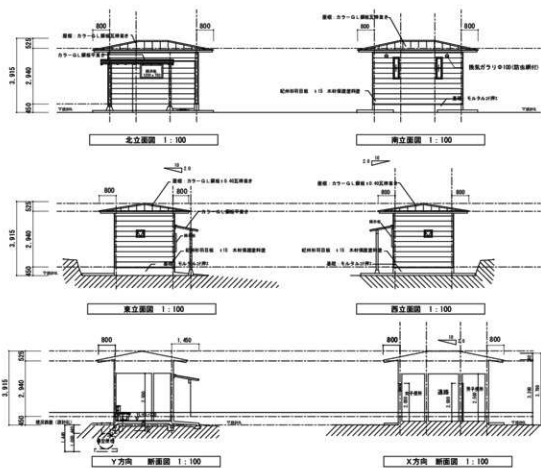


展示・収蔵状況

第33図 県指定文化財展示・収蔵施設 工事立会図及び写真

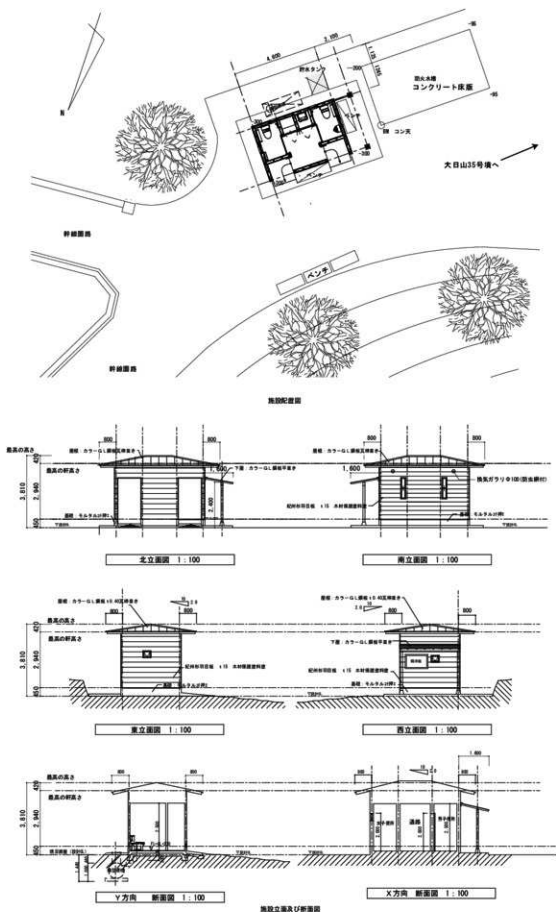


施設配置図

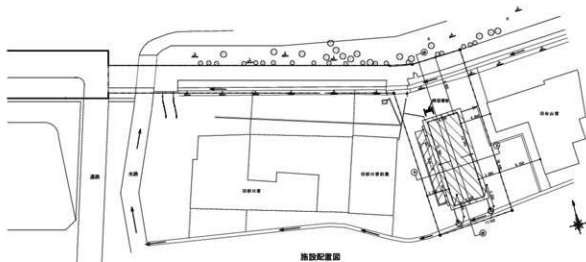


施設立面及び断面図

第34図 前山A地区 トイレ及び休憩施設設置図面

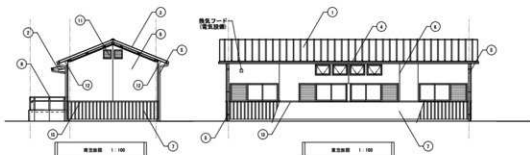


第35図 大日山地区 トイレ及び休憩施設設置図面

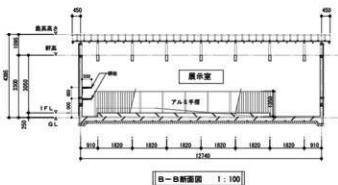


施設配置図

外 部 仕 上 裏					
1	装 束	アルミバウム断熱及透湿許容 60mm厚	8 外 装	アルミバウム断熱 透湿許容 60mm厚 外壁に付いた凹型部 構造用合板に付いた凹型部 構造用合板に付いた凹型部	
2	外壁面	アルミバウム断熱及透湿許容 60mm厚	9	瓦 葺	
3	屋根面	木質断熱構造体	10	瓦 葺	
4	軒 端	屋根角部 40mm厚 (透湿許容 透湿許容)	11	窓 枠	アルミサッシ
5	扉 枠	窓枠角部 40mm厚 (透湿許容 透湿許容)	12	扉 枠	アルミサッシ
6	外 装	アルミバウム断熱 透湿許容 60mm厚	13	扉 枠	アルミサッシ
7	装 束	透湿許容 40mm厚			



A-A断面図 1:100



B-B断面図 1:100

施設立面及び断面図

第36図 県指定文化財 展示収蔵施設設置図面

第7章 排水路改修工事

第1節 事業に至る経緯

特別史跡岩橋千塚古墳群が所在する県立紀伊風土記の丘では、昭和46年度の開園に伴い園内に排水路を設置している。しかしながら、平成21年11月及び24年6月の豪雨により基幹水路の一部に砂礫・枯木が堆積して埋没し、通水に支障をきたすことにより、資料館の冠水や園路の一部崩落の要因となり、さらに県有地外への土砂の流入によって周辺住民に重大な影響を及ぼした。このため、対策として園内の排水路の改修工事を実施することとなった。

まず、特別史跡岩橋千塚古墳群および周辺地における用排水路の現状を把握するために、平成22年度に現況調査（平成22年度岩橋千塚古墳群用排水路調査業務）を実施した。調査内容は、主要地点簡易水準測量、周辺水路現況図、流域図及び用排水系統図の作成と、水路現況断面排水能力の検討及び水理計算である。このとき、基準降雨量は50年に1回程度の出水規模とした。

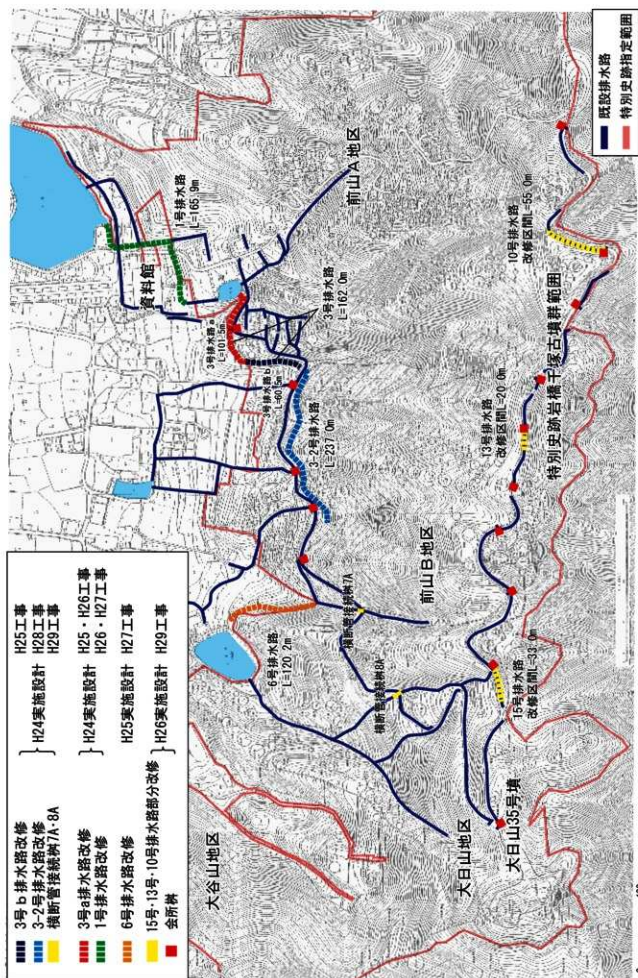
調査の結果、水路断面の流下能力の検討から、1号、3号、3-2号、6号排水路を大きく改修する必要が認められ、さらに小規模なU字溝、会所・合流枡などの改修をあわせて実施することとなった。

第2節 事業の概要

以上の経緯に基づいて、排水路改修の実施設計及び工事を平成24年度から平成29年度に実施した。事業の概要は以下のとおりである。なお、各工事にあたり専門職員が立会を行った結果、史跡への影響は軽微であると判断した。

第4表 特別史跡岩橋千塚古墳群 排水路改修工事事業一覧

年度	内容	業務名	契約金額	受託業者
平成22年度	用排水路調査	平成22年度岩橋千塚古墳群用排水路調査	4,483,500	㈱近代技研
平成24年度	3号b・3-2号排水路実施設計	平成24年度第5号特別史跡岩橋千塚古墳群排水路測量設計業務	1,993,950	㈱近代技研
	1号・3号a排水路実施設計	平成24年度第6号特別史跡岩橋千塚古墳群排水路測量設計業務	1,617,000	㈱近代技研
平成25年度	3号b排水路工事 60.5m	平成25年度第1号紀伊風土記の丘排水路改修工事	7,044,450	㈱三田設備工業
	3号a排水路工事 41.5m	平成25年度第2号紀伊風土記の丘排水路改修(その2)工事	6,814,500	㈱三田設備工業
	6号排水路実施設計	平成25年度第4号特別史跡岩橋千塚古墳群排水路測量設計業務	945,000	㈱近代技研
平成26年度	3号a排水路工事 60.0m	平成26年度第1号紀伊風土記の丘排水路改修工事	20,260,800	㈱中村設備工業
	1号排水路工事 22.5m			
平成27年度	15号・13号・10号排水路(部分改修)・会所興実施設計	平成26年度第1号特別史跡岩橋千塚古墳群排水路測量設計業務	950,400	㈱近代技研
	1号排水路工事 143.4m	平成27年度第2号紀伊風土記の丘6号排水路改修工事	13,700,400	㈱中村設備工業
平成28年度	6号排水路工事 120.2m	平成27年度第1号紀伊風土記の丘6号排水路改修工事	13,296,320	㈱藍山組
	3-2排水路工事 237m	平成28年度第1号紀伊風土記の丘排水路改修工事	25,693,200	㈱一陽建設
平成29年度	15号・13号・10号排水路工事(部分改修)・会所棟(15箇所)・橋断館接続枡(7A・8A)工事	平成29年度第2号紀伊風土記の丘排水路改修工事	11,226,600	㈱三田設備工業



第37図 排水路改修工事全体図

A3折ページ

A3 折ページ

A3折ページ

A3 折ページ

A3折ページ

A3 折ページ

A3折ページ

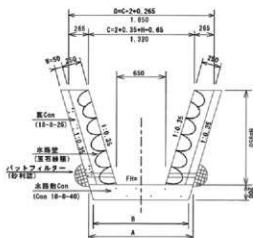
A3 折ページ

A3折ページ

A3 折ページ

3号b 水路壁・底巾650 2型標準図

S=1:25

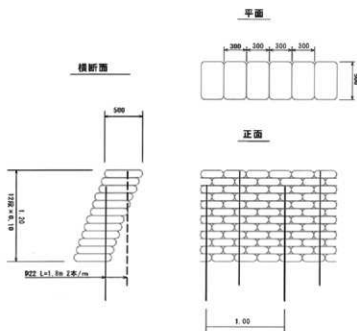


型	高	A	B	厚(水平)
2 (高コン)	0.95~0.95	1.50	1.10	0.08(0.03)

(高厚はφ200~250とする。)
バットフィルター=12×2=24個

土留工(植生土の小口積み)

S=1:25



第43図 3号b排水路 標準断面図

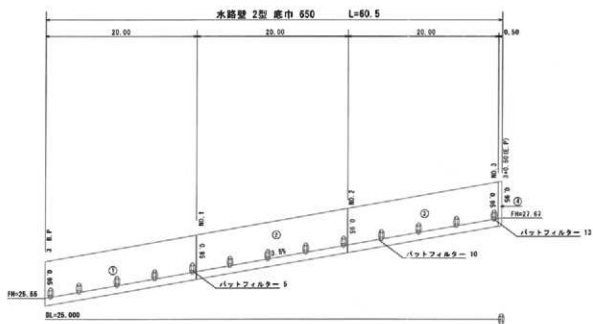
3号 b 水路壁・水路敷展開図

H=1:250
V=1:50

水路敷平面図 L=水路壁 60.5



水路壁側面図 L=水路壁 60.5



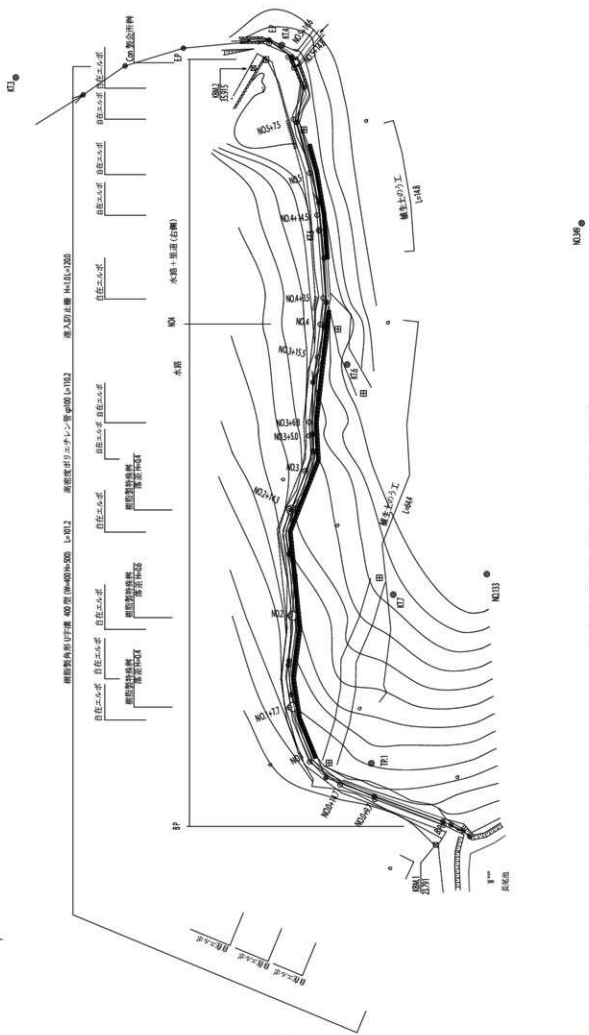
第44図 3号 b 排水路 展開図他

A3折ページ

A3 折ページ

6号排水路計画平面図

1:500



第46図 6号排水路 平面図 (S=1/500)

A3折ページ

A3 折ページ

A3折ページ

A3 折ページ

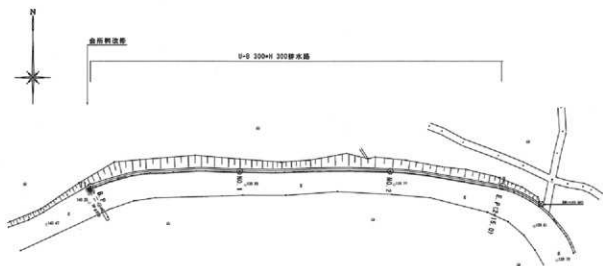
A3折ページ

A3 折ページ

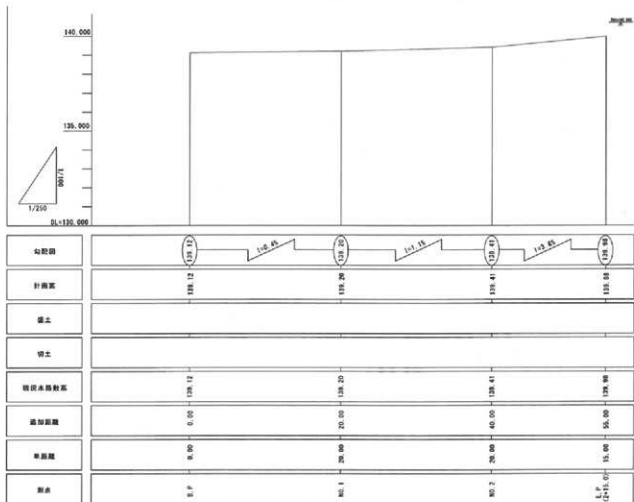
10号排水路計画図

計画平面図

S=1/250



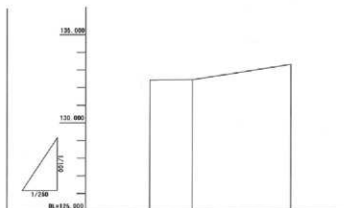
計画縦断面



第50図 10号排水路 平面図・断面図

13号排水路計画図

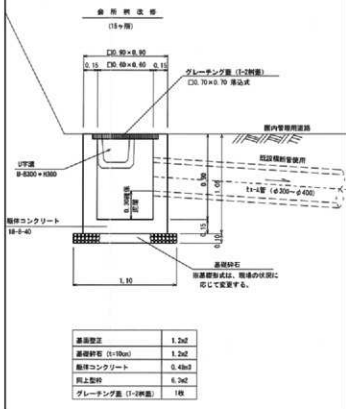
計面縦断面



勾配角			
計断面	132.42	132.42	132.42
盛土			
切土			
観測点位置	132.42	132.42	132.42
溝幅	0.00	0.00	0.00
溝深	0.00	0.00	14.00
断面	R.P.	R+4.0	L+99.0

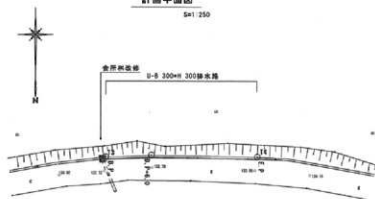
その他改修構造

Scale 1/20



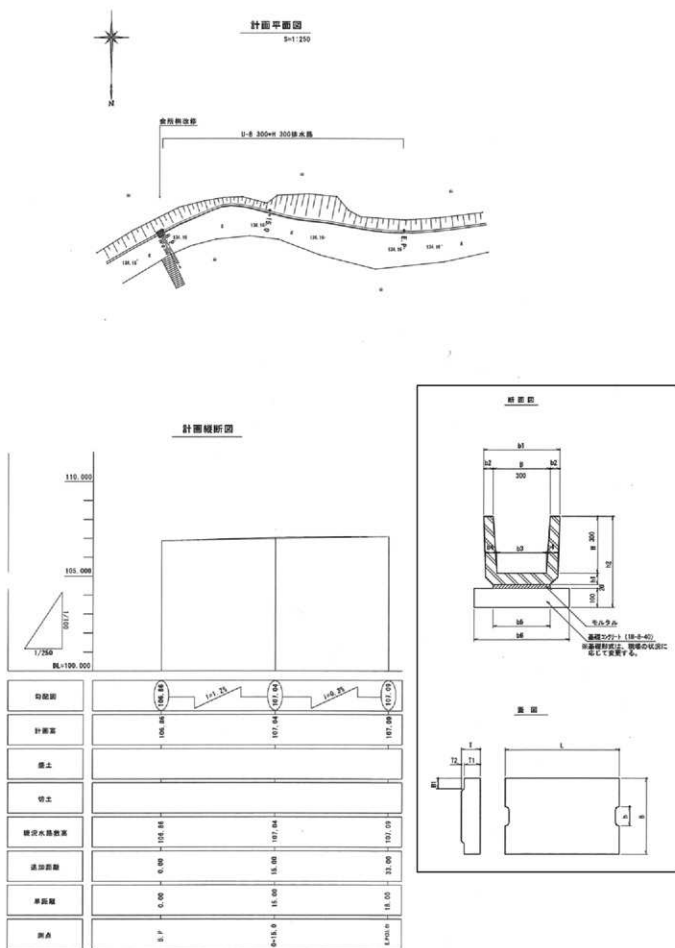
計画平面図

Scale 1/250



第51図 13号排水路 平面図・断面図 / 各水路 改修会所横断面図

15号排水路 計画図



第52図 15号排水路 平面図・断面図 / 10・13・15号排水路標準断面図

第8章 特別史跡岩橋千塚古墳群のモニタリング

第1節 事業に至る経緯

特別史跡地内の古墳については、『特別史跡岩橋千塚古墳群保存活用計画』第9章第4節の「経過観察」に従ってその保存状況を適切に把握するために必要なモニタリングを行うこととしている。

ただし、古墳ごとに保存状態は様々であり重要視するモニタリング項目も異なることから、以下のとおり具体的な内容とその方法を定めて実施しているところである。これらの成果については、毎年刊行する『和歌山県立紀伊風土記の丘 年報』等に掲載していくものとする。なお、ここで定める内容と方法については、古墳の保存状況に応じて適宜修正し運用していくものとする。

第2節 モニタリングの種別と内容

(1) 種別

個々の古墳に応じてモニタリング項目を以下のとおり5区分し、古墳全体の保存状況を把握する。古墳カルテ（保存活用計画掲載の「特別史跡岩橋千塚古墳群古墳一覧」）の更新時に史跡地内全体の状況を把握したうえで、個別にモニタリングすべき古墳を以下の2から5に分類して抽出した。

1. 古墳カルテの更新
2. 安全管理が必要な横穴式石室のモニタリング
3. 安全管理が特に必要な横穴式石室のモニタリング
4. 石室滞水古墳のモニタリング
5. 埴輪復元古墳のモニタリング

(2) 内容

古墳カルテの更新

- ① 対象古墳：特別史跡内のすべての古墳を対象とする。
- ② 実施間隔：2年毎（半数（約250基）/年）
- ③ モニタリング項目：『特別史跡岩橋千塚古墳群 保存活用計画』記載事項の更新。
 - ・石室の欠損等状況
 - ・盗掘坑など墳丘の状況
 - ・墳丘上の樹木の直径、本数
 - ・修景対象古墳ランク、樹木伐採対象古墳ランク 等

今回は大谷山・大日山・前山A地区の古墳カルテの更新を行っており、更新後の古墳一覧は第5表に示すとおりである。

安全管理が必要な横穴式石室のモニタリング

- ① 対象古墳：天井石まで残る横穴式石室のうち来園者が内部に入る可能性がある以下の古墳を対象とする。
 - 前山A 13号墳、前山A 23号墳、前山A 24号墳、前山A 32号墳、
 - 前山A 46号墳、前山A 56号墳、前山A 99号墳、將軍塚古墳、郡長塚古墳、

大谷山 16 号墳、前山 A 2 号墳

- ② 実施間隔：1 年毎
- ③ モニタリング項目：石室の孕み、石材の割れ、結露、盛土の流出など。
詳細は別途定めるモニタリングシートによる。

安全管理が特に必要な横穴式石室のモニタリング

- ① 対象古墳：天井石まで残る横穴式石室のうち来園者が内部に入る可能性がある古墳で、石室石積みの孕みや割れ等が大きく、石材の落下など安全性が危惧される古墳を対象とする。
大日山 35 号墳、前山 A67 号墳、天王塚古墳、大谷山 22 号墳
- ② 実施間隔：3 ヶ月毎
- ③ モニタリング項目：石室の孕み、石材の割れ、結露、盛土の流出及びモニタリングポイントの計測など。
天王塚古墳は温湿度データについても計測を行う。
詳細は別途定めるモニタリングシートによる。

石室滞水古墳のモニタリング

- ① 対象古墳：雨水等の影響により横穴式石室内に滞水する古墳を対象とする。
大日山 35 号墳、前山 A13 号墳
- ② 実施間隔：降雨状況に応じて行う。
- ③ モニタリング項目：羨道及び玄室の最大滞水深度の計測など。
- ④ その他：実施内容の詳細については「前山 A 13 号墳及び大日山 35 号墳石室のモニタリング方針について」による。

埴輪復元古墳のモニタリング

- ① 対象古墳：大日山 35 号墳、前山 A58 号墳
- ② 実施間隔：3 ヶ月毎
- ③ モニタリング項目：埴輪レプリカの設置状況、ヒビ割れや劣化など。

第 3 節 横穴式石室のモニタリング

横穴式石室のモニタリングは、天井石の残存する 15 基の横穴式石室を対象に石室の孕み、石材の割れ、結露、盛土の流出及びカビや苔の状況などを記録する。写真記録は孕みや割れの変化を追跡調査する上で重要であることから、床面、天井、羨道を含め詳細に撮影する。

なお、このうち「安全管理が特に必要な横穴式石室のモニタリング」として 3 ヶ月毎に実施する 4 基の古墳について、以下に記載する。

(1) 大日山 35 号墳

玄室前道天井石の割れと羨道側壁の孕みが顕著であるため、これらの値を計測している。現在のところ変化は認められない。

入口を鉄扉で閉塞していることもあり、石



羨道右側壁の孕み



玄室前道天井石の割れ

室内は湿度が高く、石棚より上の結露が顕著で、白いカビ状の物質も多く付着する。壁面・床面には盛土が流出した灰色系の細粒土が付着・堆積しており、注視する必要がある。

(2) 天王塚古墳

玄室前道天井石の割れ、袖石の割れ、羨道側壁の孕み及び羨道天井石上の空隙が顕著であるため、これらの値を計測している。この他、適切な保存と石室公開時期を決定するため、玄室、羨道、外部等の温湿度を計測している。盗掘孔等からの盛土の流出や割れ幅の大きい玄門部の変化に特に注視する必要がある。



玄室前道袖石の割れ



玄室前道天井石の割れ

(3) 前山 A67 号墳

羨道側壁の孕みが大きいため、入口から内部をのぞき込む方法で公開している。現在のところ大きな変化はないが、羨道幅を計測していく必要がある。



羨道側壁の孕み

(4) 大谷山 22 号墳

保存地区に位置するため、石室の公開はしていないが、イベントで限定公開する場合がある。現在は石室内への立ち入りを禁止している。

玄室前道天井石の割れが大きく、玄室側と羨道側で割れ幅を計測している。これ以外にも玄門右袖石の割れも大きいことから玄門部付近の変化を注視していく必要がある。



玄室前道天井石の割れ



玄室前道袖石の割れ

第 4 節 石室滞水古墳のモニタリング

(1) 前山 A13 号墳

滞水が始まった時期ははっきりしない。平成 18 年度及び 20 年度の発掘調査時にはすでに認識されていた。雨量の少ない冬場はほとんど滞水しないが、夏場は多く、排水・蒸発するのに 1 週間程度かかる。墳丘上にシートを設置して水量をモニタリングしたが全面を覆っても一定量滞水

することから、周辺からの流れ込みもあるものと考えられる。令和2年度の調査後、整備予定であるが、整備までの期間、雨量と滯水量の関係を記録していく。

(2) 大日山35号墳

平成15年度の発掘調査以降、滯水するようになった。石室上にシートを設置して水量をモニタリングしたが、周辺からの流入のため大きな効果はなかった。鉄扉で密閉されていることもあり、蒸発量は小さく排水もほとんどないため、ポンプ等で排水しない限り長期間滯水している。雨水の侵入とともに墳丘盛土が石室内部に流入していることから、保存の観点からも対策を講じる必要がある。令和2年度の調査後、整備予定であるが、整備までの間、雨量と滯水量の関係を記録していく。



石室滯水状況



羨道・玄室滯水状況

第5節 埴輪復元古墳のモニタリング

(1) 大日山35号墳

平成27年3月に設置した東造り出しの埴輪レプリカを3か月毎に確認している。現在のところ、円筒埴輪レプリカの突帯の剥離や苔の付着は認められるが、他の割れなどは確認されていない。突帯の剥離と苔の付着は、市民参加で制作した埴輪レプリカに顕著である。焼成温度が低いため水分を吸収し収縮と膨張を繰り返した結果生じたものと考えられる。



東造り出し埴輪等設置状況



円筒埴輪突帯剥離状態

(2) 前山A58号墳

平成31年3月に設置した。市民参加で制作した円筒埴輪と石見型埴輪及び馬形埴輪の各レプリカは、大日山35号墳と同様、苔の付着が認められる。また、石見型埴輪レプリカに一部破損が確認されたが、補修後は再び破損することなく樹立している。



埴輪等設置状況



石見型埴輪破損状況

第5表 特別史跡岩橋干塚古墳群古墳一覽

No.	古墳名	墳丘形状	墳形	埋葬時期	内寸(縦×横)	埋葬施設		構造		埋葬施設		土質	出土品	調査年度	調査機関	調査者	
						埋葬施設	内寸(縦×横)	形状・土質	構造	埋葬施設	土質						
1	大塚山5号墳	円墳	7	不明	-	-	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	大塚山5号墳	大塚山5号墳	大塚山5号墳	大塚山5号墳
2	大塚山2号墳	円墳	10	不明	-	-	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	大塚山2号墳	大塚山2号墳	大塚山2号墳	大塚山2号墳
3	大塚山4号墳	円墳	14	不明	2.0×1.9	-	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	大塚山4号墳	大塚山4号墳	大塚山4号墳	大塚山4号墳
4	大塚山6号墳	円墳	18	不明	1.9×1.6	-	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	大塚山6号墳	大塚山6号墳	大塚山6号墳	大塚山6号墳
5	大塚山8号墳	円墳	19 × 15	不明	2.1×2.8	-	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	大塚山8号墳	大塚山8号墳	大塚山8号墳	大塚山8号墳
6	大塚山9号墳	横長円墳	25	不明	3.6×2.2	-	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	大塚山9号墳	大塚山9号墳	大塚山9号墳	大塚山9号墳
7	大塚山12号墳	円墳	12	不明	-	-	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	大塚山12号墳	大塚山12号墳	大塚山12号墳	大塚山12号墳
8	大塚山13号墳	円墳	13	不明	2.4×1.3	-	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	大塚山13号墳	大塚山13号墳	大塚山13号墳	大塚山13号墳
9	大塚山14号墳	円墳	15	不明	2.1×1.9	-	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	大塚山14号墳	大塚山14号墳	大塚山14号墳	大塚山14号墳
10	大塚山15号墳	円墳	15	不明	2.3×1.9	-	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	大塚山15号墳	大塚山15号墳	大塚山15号墳	大塚山15号墳
11	大塚山16号墳	円墳	20	不明	3.6×2.6	-	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	大塚山16号墳	大塚山16号墳	大塚山16号墳	大塚山16号墳
12	大塚山17号墳	円墳	13	不明	3.1×2.8	-	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	大塚山17号墳	大塚山17号墳	大塚山17号墳	大塚山17号墳
13	大塚山20号墳	横長円墳	25	不明	-	-	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	大塚山20号墳	大塚山20号墳	大塚山20号墳	大塚山20号墳
14	大塚山21号墳	円墳	7	不明	2.5×1.5	-	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	大塚山21号墳	大塚山21号墳	大塚山21号墳	大塚山21号墳
15	大塚山22号墳	横長円墳	68	不明	4.1×2.5	-	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	大塚山22号墳	大塚山22号墳	大塚山22号墳	大塚山22号墳
16	大塚山25号墳	横長円墳	-	不明	-	-	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	石室、土室等	大塚山25号墳	大塚山25号墳	大塚山25号墳	大塚山25号墳

No.	小冊子名	編者名	編者職	発行年	発行形態	原簿記載		現況		整備進捗状況		整備進捗率		整備完了年度	整備完了年度	整備完了年度	備考
						発行年	発行形態	現行・取扱い	取扱い	取扱い	取扱い	取扱い	取扱い				
	大谷山27号	藤原義興	22	縦式活字	21.7.24	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	大谷山27号	大谷山27号	大谷山27号	縦式活字
	大谷山28号	藤原義興	27	縦式活字	2.29.21.4	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	大谷山28号	大谷山28号	大谷山28号	縦式活字
	大谷山29号	丹阿彌	11	縦式活字	58.3.25	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	大谷山29号	大谷山29号	大谷山29号	縦式活字
	大谷山30号	丹阿彌	12	縦式活字	-/-	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	大谷山30号	大谷山30号	大谷山30号	縦式活字
	大谷山31号	丹阿彌	9	縦式活字	-/-	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	大谷山31号	大谷山31号	大谷山31号	縦式活字
	大谷山32号	丹阿彌	10	縦式活字	2.25.9.6	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	大谷山32号	大谷山32号	大谷山32号	縦式活字
	大谷山33号	丹阿彌	30以上	縦式活字	79.2	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	大谷山33号	大谷山33号	大谷山33号	縦式活字
1	大谷山34号	藤原義興	21	縦式活字	-/-	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	大谷山34号	大谷山34号	大谷山34号	縦式活字
2	大谷山35号	丹阿彌	16	縦式活字	2.25.1.16	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	大谷山35号	大谷山35号	大谷山35号	縦式活字
3	大谷山36号	丹阿彌	8	縦式活字	2.19.11.1	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	大谷山36号	大谷山36号	大谷山36号	縦式活字
4	大谷山37号	丹阿彌	8	縦式活字	2.5.1.6	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	大谷山37号	大谷山37号	大谷山37号	縦式活字
5	大谷山38号	丹阿彌	10	縦式活字	11.11.1	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	大谷山38号	大谷山38号	大谷山38号	縦式活字
6	大谷山39号	丹阿彌	7.5	縦式活字	2.3.19	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	大谷山39号	大谷山39号	大谷山39号	縦式活字
7	大谷山40号	丹阿彌	17	縦式活字	29.2	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	大谷山40号	大谷山40号	大谷山40号	縦式活字
8	大谷山41号	丹阿彌	15	縦式活字	2.6.6	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	大谷山41号	大谷山41号	大谷山41号	縦式活字
9	大谷山42号	丹阿彌	7	縦式活字	-/-	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	大谷山42号	大谷山42号	大谷山42号	縦式活字
10	大谷山43号	丹阿彌	5	縦式活字	-/-	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	大谷山43号	大谷山43号	大谷山43号	縦式活字
11	大谷山44号	丹阿彌	7	縦式活字	1.17.17	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	縦式活字	大谷山44号	大谷山44号	大谷山44号	縦式活字

No.	古墳名	墳丘形状	墳丘長さ	墳丘幅	埋葬施設	構造			埋葬施設			調査経緯				備考			
						築成年代	築成時期	築成方法	墳形	構造	築成時期	調査年度	調査内容	調査年度	調査内容		調査年度	調査内容	
12	大谷山14号墳	円筒	8	小形式石室	石室1室、石室18室 に環状溝、土間周 子石室(石室1)	2.9x3	17-18	石室1室、石室18室 に環状溝、土間周 子石室(石室1)	20x10x6	石室1室、石室18室 に環状溝、土間周 子石室(石室1)	石室1室、石室18室 に環状溝、土間周 子石室(石室1)	-	D	-	大谷山14号墳	大谷山14号墳	大谷山14号墳	大谷山14号墳	石室1室、石室18室 に環状溝、土間周 子石室(石室1)
13	大谷山15号墳	円筒	5	小形式石室	石室1室、土間周 子石室(石室1)	1.7x-	17-	石室1室、土間周 子石室(石室1)	石室1室、土間周 子石室(石室1)	石室1室、土間周 子石室(石室1)	-	-	-	大谷山15号墳	大谷山15号墳	大谷山15号墳	大谷山15号墳	石室1室、土間周 子石室(石室1)	
14	大谷山17号墳	円筒	10	小形式石室	石室1室、土間周 子石室(石室1)	2.1x-	21-	石室1室、土間周 子石室(石室1)	石室1室、土間周 子石室(石室1)	石室1室、土間周 子石室(石室1)	-	C	-	大谷山17号墳	大谷山17号墳	大谷山17号墳	大谷山17号墳	石室1室、土間周 子石室(石室1)	
15	大谷山19号墳	円筒	20	小形式石室	石室1室、土間周 子石室(石室1)	2.2x18	22-18	石室1室、土間周 子石室(石室1)	石室1室、土間周 子石室(石室1)	石室1室、土間周 子石室(石室1)	E	C	-	大谷山19号墳	大谷山19号墳	大谷山19号墳	大谷山19号墳	石室1室、土間周 子石室(石室1)	
16	大谷山20号墳	円筒	12	-	-	-	-	-	-	-	E	B	-	大谷山20号墳	大谷山20号墳	大谷山20号墳	大谷山20号墳	-	
17	大谷山22号墳	円筒	9	-	-	-	-	-	-	-	A	B	-	大谷山22号墳	大谷山22号墳	大谷山22号墳	大谷山22号墳	-	
17	大谷山23号墳	円筒	6.5	-	-	-	-	-	-	-	E	C	-	大谷山23号墳	大谷山23号墳	大谷山23号墳	大谷山23号墳	-	
18	大谷山24号墳	円筒	11.5	-	-	-	-	-	-	-	C	C	-	大谷山24号墳	大谷山24号墳	大谷山24号墳	大谷山24号墳	-	
19	大谷山25号墳	円筒	13	小形式石室	石室1室、土間周 子石室(石室1)	3.17x2.07	-	石室1室、土間周 子石室(石室1)	石室1室、土間周 子石室(石室1)	石室1室、土間周 子石室(石室1)	C	C	-	大谷山25号墳	大谷山25号墳	大谷山25号墳	大谷山25号墳	-	
19	大谷山26号墳	円筒	11.5	-	-	-	-	-	-	-	E	D	-	大谷山26号墳	大谷山26号墳	大谷山26号墳	大谷山26号墳	-	
20	大谷山35号墳	長方形石室	16	小形式石室	石室1室、土間周 子石室(石室1)	4.35x2.42	-	石室1室、土間周 子石室(石室1)	石室1室、土間周 子石室(石室1)	石室1室、土間周 子石室(石室1)	-	-	O	大谷山35号墳	大谷山35号墳	大谷山35号墳	大谷山35号墳	-	
20	大谷山36号墳	円筒	13.5	-	-	-	-	-	-	-	E	D	-	大谷山36号墳	大谷山36号墳	大谷山36号墳	大谷山36号墳	-	
20	大谷山37号墳	円筒	17	小形式石室	石室1室、土間周 子石室(石室1)	2.16	-	石室1室、土間周 子石室(石室1)	石室1室、土間周 子石室(石室1)	石室1室、土間周 子石室(石室1)	C	A	-	大谷山37号墳	大谷山37号墳	大谷山37号墳	大谷山37号墳	-	
20	大谷山38号墳	円筒	16	小形式石室	石室1室、土間周 子石室(石室1)	-/1.8	-	石室1室、土間周 子石室(石室1)	石室1室、土間周 子石室(石室1)	石室1室、土間周 子石室(石室1)	E	-	-	大谷山38号墳	大谷山38号墳	大谷山38号墳	大谷山38号墳	-	
20	大谷山39号墳	円筒	14	小形式石室	石室1室、土間周 子石室(石室1)	-/1	-	石室1室、土間周 子石室(石室1)	石室1室、土間周 子石室(石室1)	石室1室、土間周 子石室(石室1)	E	B	-	大谷山39号墳	大谷山39号墳	大谷山39号墳	大谷山39号墳	-	
20	大谷山40号墳	円筒	14.5	-	-	-	-	-	-	-	E	C	-	大谷山40号墳	大谷山40号墳	大谷山40号墳	大谷山40号墳	-	
20	大谷山42号墳	円筒	21	小形式石室	石室1室、土間周 子石室(石室1)	-/1.2	-	石室1室、土間周 子石室(石室1)	石室1室、土間周 子石室(石室1)	石室1室、土間周 子石室(石室1)	C	C	-	大谷山42号墳	大谷山42号墳	大谷山42号墳	大谷山42号墳	-	
20	大谷山43号墳	円筒	15	小形式石室	石室1室、土間周 子石室(石室1)	2.2x1.9	-	石室1室、土間周 子石室(石室1)	石室1室、土間周 子石室(石室1)	石室1室、土間周 子石室(石室1)	E	C	-	大谷山43号墳	大谷山43号墳	大谷山43号墳	大谷山43号墳	-	
20	大谷山44号墳	円筒	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	大谷山44号墳	大谷山44号墳	大谷山44号墳	大谷山44号墳	-	

No.	店舗名	所在地	面積	開業時期	備考	商品		備考
						品名	数量	
16	大石山45号	大石山45号	14	-	日付販売	中央に浅い深掘り	大石山45号	大石山45号
17	大石山47号	大石山47号	18	-	-	中央に浅い深掘り	大石山47号	大石山47号
18	大石山48号	大石山48号	17	-	-	中央に浅い深掘り	大石山48号	大石山48号
19	大石山49号	大石山49号	22	2.4.15	開業日	中央に浅い深掘り	大石山49号	大石山49号
20	大石山50号	大石山50号	14	-	-	中央に浅い深掘り	大石山50号	大石山50号
21	大石山51号	大石山51号	14	-	-	中央に浅い深掘り	大石山51号	大石山51号
22	大石山52号	大石山52号	14	-	-	中央に浅い深掘り	大石山52号	大石山52号
23	大石山53号	大石山53号	16	1.9.18	開業日	中央に浅い深掘り	大石山53号	大石山53号
24	大石山54号	大石山54号	9	1.9.17	開業日	中央に浅い深掘り	大石山54号	大石山54号
25	大石山55号	大石山55号	10	-	-	中央に浅い深掘り	大石山55号	大石山55号
26	大石山56号	大石山56号	8	-	-	中央に浅い深掘り	大石山56号	大石山56号
27	大石山57号	大石山57号	8.5	-	-	中央に浅い深掘り	大石山57号	大石山57号
28	大石山58号	大石山58号	7.5	1.9.18	開業日	中央に浅い深掘り	大石山58号	大石山58号
29	大石山59号	大石山59号	19	20.1.17	開業日	中央に浅い深掘り	大石山59号	大石山59号
30	大石山60号	大石山60号	7	-	-	中央に浅い深掘り	大石山60号	大石山60号
31	大石山61号	大石山61号	14	1.9.13	開業日	中央に浅い深掘り	大石山61号	大石山61号
32	大石山62号	大石山62号	14	2.2.9.05	開業日	中央に浅い深掘り	大石山62号	大石山62号
33	大石山63号	大石山63号	15	1.7.17	開業日	中央に浅い深掘り	大石山63号	大石山63号
34	大石山64号	大石山64号	14	1.7.14	開業日	中央に浅い深掘り	大石山64号	大石山64号
35	大石山65号	大石山65号	5	1.8.4.05	開業日	中央に浅い深掘り	大石山65号	大石山65号
36	大石山66号	大石山66号	9	-	-	中央に浅い深掘り	大石山66号	大石山66号
37	大石山67号	大石山67号	10	-	-	中央に浅い深掘り	大石山67号	大石山67号
38	大石山68号	大石山68号	10	-	-	中央に浅い深掘り	大石山68号	大石山68号
39	大石山69号	大石山69号	10	-	-	中央に浅い深掘り	大石山69号	大石山69号
40	大石山70号	大石山70号	10	-	-	中央に浅い深掘り	大石山70号	大石山70号
41	大石山71号	大石山71号	10	-	-	中央に浅い深掘り	大石山71号	大石山71号
42	大石山72号	大石山72号	10	-	-	中央に浅い深掘り	大石山72号	大石山72号
43	大石山73号	大石山73号	10	-	-	中央に浅い深掘り	大石山73号	大石山73号
44	大石山74号	大石山74号	10	-	-	中央に浅い深掘り	大石山74号	大石山74号
45	大石山75号	大石山75号	10	-	-	中央に浅い深掘り	大石山75号	大石山75号
46	大石山76号	大石山76号	10	-	-	中央に浅い深掘り	大石山76号	大石山76号
47	大石山77号	大石山77号	10	-	-	中央に浅い深掘り	大石山77号	大石山77号
48	大石山78号	大石山78号	10	-	-	中央に浅い深掘り	大石山78号	大石山78号
49	大石山79号	大石山79号	10	-	-	中央に浅い深掘り	大石山79号	大石山79号
50	大石山80号	大石山80号	10	-	-	中央に浅い深掘り	大石山80号	大石山80号
51	大石山81号	大石山81号	10	-	-	中央に浅い深掘り	大石山81号	大石山81号
52	大石山82号	大石山82号	10	-	-	中央に浅い深掘り	大石山82号	大石山82号

A3折ページ

A3 折ページ

第9章 総括

第1節 岩橋千塚古墳群における小規模古墳の特色について

第1期及び第2期整備事業では、古墳修景工事に伴い複数の古墳の石室実測調査を実施した。対象古墳の多くは小型の円墳や方墳であり、過去に損壊を受けて天井石などが失われた石室の実測図面を作成することにより、断片的な情報ではあるが小規模古墳の石室形態や採集遺物からその帰属時期について推定できる事例が蓄積されつつある。本節ではこれらの成果のうち、第2期整備事業で対象とした前山B地区北西部周辺に分布する古墳の特色についての若干の考察を加えたい。

直径16.5mの小型円墳である前山B162号墳は、横穴式石室の玄室の一部が残存するのみであるが、2枚の板石より構成される石棚や、奥壁の大部分を小口積みする特徴からTK10型式期前後の築造とみられ、複数の円筒埴輪等の採集から墳丘上に埴輪が樹立する可能性が高い。当該古墳の立地する尾根上には、さらに前山B164・167・170・172・174号墳などの同規模の円墳が立地し、玄室が片袖傾向の強い両袖式の平面形態を呈するものを主体とする可能性があることから、これに比較的近い時期の築造とみられる。以上の古墳は墳丘上から円筒埴輪等が採集されておりその樹立が推測されるものが多く、さらに岩橋千塚古墳群で造墓活動が活発化する期間のうち、6世紀前半という比較的早い段階に築造された古墳を多く含むという特色がある。一方、前山B173号墳(旧BX16号墳)は玄室前道幅が広い平面形態を呈しこれらに後続する時期の構築である可能性があり、小支群内で一定期間の継続的な造墓活動があったことを示唆する。

これらの古墳は、TK10型式期に築造された大型前方後円墳である大日山35号墳が立地する大日山山頂より北西に大きく延びる尾根上に立地していることから、大日山地区における首長墓と各支群の小規模古墳の展開過程を把握する中で、両者の関係性を評価していく必要があるだろう。

一方、谷を隔てた東側に位置する尾根上に立地する古墳を確認すると、前山B150号墳が岩橋型横穴式石室のうちT字形石室と呼ばれる形態であり、墳丘には円筒埴輪の樹立が想定される。著しく左片袖傾向の強い平面形態を有し、玄室の石積みは小口積みを主体としつつも右袖部は平積みと小口積みを併用しており、6世紀前半のTK10型式期前後の築造とみられる。隣接する前山B153号墳及びさらに東側の尾根上に立地する同156号墳は、前壁の中央付近やや左寄りに幅狭の玄室前道が接続する両袖式石室であり、詳細な時期比定は困難だが前山B150号墳と同時期か、これに後続する可能性がある。小型のT字型石室である前山B152号墳も6世紀中葉以降の築造とみられる。以上は直径約10～16mの円墳である。

以上より、検討対象とした古墳は6世紀前半に帰属するものが多く、かつ中葉以降に帰属する可能性のある古墳も含んでおり、前山B地区北西部周辺の尾根上に立地する小支群の特徴を示している可能性がある。また小型円墳に構築された岩橋型横穴式石室の特徴として、玄室規模が短辺0.9～1.7m、長辺1.6～2.2mの小型石室が多く、極めて小型の石室も一部に含むこと、平面形態はT字形石室を含め多様であること、6世紀前半代に帰属する古墳は墳丘上に円筒埴輪等が樹立するものが多く可能性が高いことが指摘できる。

今後は、岩橋千塚古墳群の小規模古墳を対象とした同様の石室実測調査の継続によって、発掘調査が未実施の個々の古墳においても石室構造や外表施設の有無、帰属時期などの基礎データがさらに蓄積され、小支群ごとの古墳の展開過程や、中・大型前方後円墳の消長との有機的な関係

性の把握につながるができると考えられる。

第2節 第2期整備事業の成果と課題

和歌山県では、我が国有数の古墳群である特別史跡岩橋千塚古墳群の保存と活用をはかるべく、昭和43年に策定された「紀伊風土記の丘基本計画」に基づき、特別史跡岩橋千塚古墳群の初期整備を行い、昭和46年に県立紀伊風土記の丘を開園した。その後、本格的な整備は行われていなかったが、平成15年に「特別史跡岩橋千塚古墳群整備計画」（以下、「整備計画」という。）を定め、5期、約30年間に及ぶ整備事業を計画した。また、平成31年3月には、特別史跡を適切に保存・活用し、次世代へ確実に継承していくため「特別史跡岩橋千塚古墳群保存活用計画」（以下、「保存活用計画」という。）を策定し、特別史跡の保存・活用のために必要な整備及び管理の方針を定めたところである。

整備の全体計画は、保存活用計画で定義する特別史跡岩橋千塚古墳群の本質的価値を保存するための整備を計画的に進めるとともに、見学者に本質的価値の理解を促すための整備を行い、学校教育、生涯学習等の学習面における公開活用をはじめ、県民等の文化的活動及び憩いの場としての公開活用を行うことを基本方針としている。

第1期整備は平成15年度から平成26年度までの12年間で、首長墓である大日山35号墳をはじめとした古墳の活用整備や崩壊危険古墳の埋め戻し等の保存整備を中心に行った。特に大日山35号墳については、発掘調査で県内最大級の前方後円墳であることや独特な埴輪群像の存在などが明らかになり、これらの新たな価値を整備に反映することで、より多くの人々に岩橋千塚古墳群の魅力を伝えることができたと考えている。

ただし、第1期整備の終了時点で多くの課題も残されていた。崩壊危険古墳の埋め戻しや古墳に支障を与える樹木の伐採については対象古墳数が多く、第1期整備で完了した数量はわずかで、豪雨対策のため工事を行ってきた排水施設の設置についても整備半ばであった。また、大日山35号墳など首長層の前方後円墳の整備は完了したが、同時期の中間層が葬られた前方後円墳

第6表 第2期整備事業

	H27	H28	H29	H30	R1 (H31)	R2
前山 A58 号墳	・整備実施設計	・石室埋め戻し ・須磨器 レプリカ作製	・墳丘整備工事	・周溝等整備 ・説明板設置 ・埴輪設置		・説明板設置
前山 A13 号墳 大日山 35 号墳				・モニタリング	・モニタリング	・排水溝発掘調査 ・報告書作成
各地区	・古墳修景工事 前山 B153 号墳 前山 B162 号墳	・古墳修景工事 前山 B150 号墳 前山 B152 号墳			・古墳修景工事 前山 B156 号墳	・古墳修景工事 前山 B142 号墳
	・危険木伐採			・危険木伐採	・危険木伐採	
	・排水路工事	・排水路工事	・排水路工事			
天王塚古墳	・墳丘内容 確認調査		・発掘調査 ・石室測量	・追加発掘調査	・出土遺物等整理	・発掘調査報告書
		・連絡道路 実施設計		・連絡道路建設	・連絡道路建設	・連絡道路建設
					・整備基本計画	・整備基本設計
便益施設			・トイレ・休憩所 設計・撤去・設置			
整備報告書						・整備報告書

の整備事例はなく、特別史跡の価値づけがなされた墳形等の多様性が十分に示されていない状況にあった。これらを主要な課題とし、平成27年度から6年間（令和2年度まで）の期間で第2期整備事業を実施した。

一方、和歌山県教育委員会では、特別史跡周辺に分布する古墳の追加指定を目指した事業を実施しているところであるが、平成26年度から岩橋千塚古墳群最大の前方後円墳である天王塚古墳及び大谷山22号墳の一部の特別史跡追加指定作業が進められ、平成28年10月に追加指定、平成30・31年度に公有地化が完了した。天王塚古墳は6世紀中頃の前方後円墳であるが、前の首長墓とされる大日山35号墳とは立地、埴輪の有無、基壇の有無などの差異がある。この間に首長の位置づけや埴丘構造、葬送儀礼に大きな変化があったと考えられることから、両者を公開、比較し、岩橋千塚古墳群の価値の理解をより深めるため、活用のための整備対象とした。平成29年度に第2期整備計画を変更して天王塚古墳までの連絡道路建設工事及び発掘調査など天王塚古墳整備事業の一部を開始した。

第2期整備のうち保存のための整備は、崩壊危険古墳の埋め戻しを前山B地区や前山A地区などで計6基実施し、古墳に支障のある樹木を計24基の古墳について伐採した。また、平成21年度の豪雨に伴う土砂流出に対処するため実施していた排水溝の設置工事を平成30年度に完了した。排水溝の設置は概ね予定通り実施することができたが、崩壊危険古墳の埋め戻しについては、図面等記録の作成の充実化や予算の関係もあり、第1期よりも大幅に実施数量が減少した。保存活用計画で指定地内の全古墳について埋め戻し優先度を定め、優先順位の高いAランクの古墳から埋め戻しを行っているが、未だAランクの古墳が30基以上残されており、第3期整備ではより柔軟な対応により実施数量を増やしていく必要がある。支障木については、細い樹木でも石室に影響を与えるものが新たに確認されることがあるため、モニタリングを十分に行い、早期に発見・伐採を行っていく必要がある。その他、古墳の横穴式石室に雨水が滯水する前山A13号墳と大日山35号墳について、水位の変化等モニタリングを行い、排水溝の現状を確認するため発掘調査を実施した。整備事業は第3期整備で実施予定である。

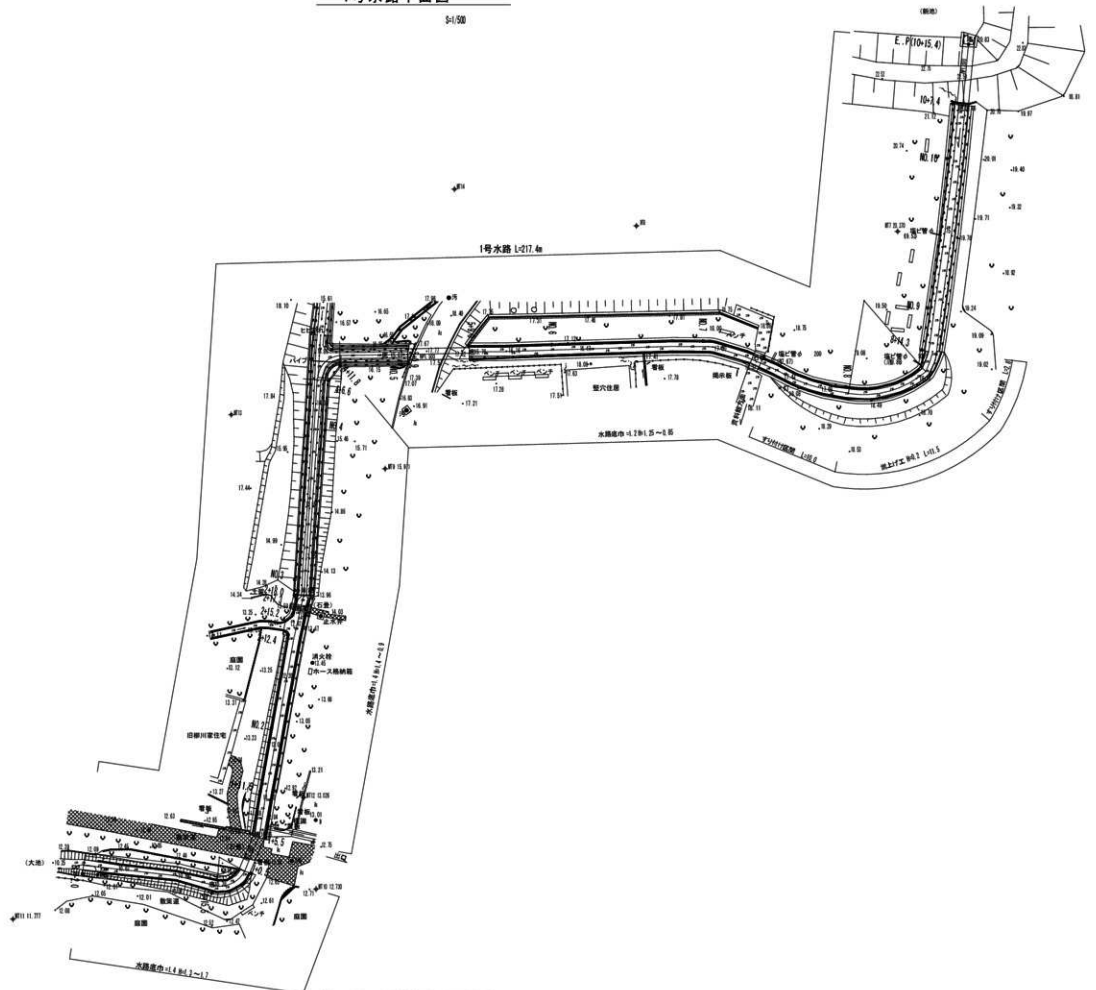
また、指定地外を含む岩橋千塚古墳群全体の航空レーザー測量を実施することにより古墳分布の状況や遺存状況を把握し、追加指定など保護を図るために必要となる基礎資料を収集した。

活用のための整備は、前山A58号墳の整備を中心に行った。発掘調査において小型の前方後円墳であることが新たに判明し、前方部に馬形埴輪や人物埴輪、石見型埴輪が据えられるなど、首長層とは異なる埴丘祭祀の様相が認められたことから、岩橋千塚古墳群の多様性を示す上で有効と考え整備を行った。詳細は本文に譲るが、埴輪レプリカは第1期整備の大日山35号墳と同様、市民参加により制作、設置した。今回はこれに加え埴輪工人や巫女に扮した市民が埴輪レプリカの運搬、古墳での葬送儀礼の再現を行うなど、市民と一体となった整備を新たに試み、完成後だけでなく整備そのものを一体で作り上げる手法によって岩橋千塚古墳群の価値を共有できるとともに、その魅力の情報発信において予想以上に有効性が高いことが確認できた。

今後は、優先順位の高い天王塚古墳の本格整備、大日山35号墳の埴丘整備といった活用のための整備と不具合箇所の再整備及び崩壊危険古墳の埋め戻し等保存のための整備に加え、県立考古民俗博物館（仮称）の整備を適切なバランスで行うとともに、各古墳の現状を把握するためモニタリングを定期的に行い、保存はいうまでもなく、安全に活用できる環境を整えていく必要がある。

1号水路平面图

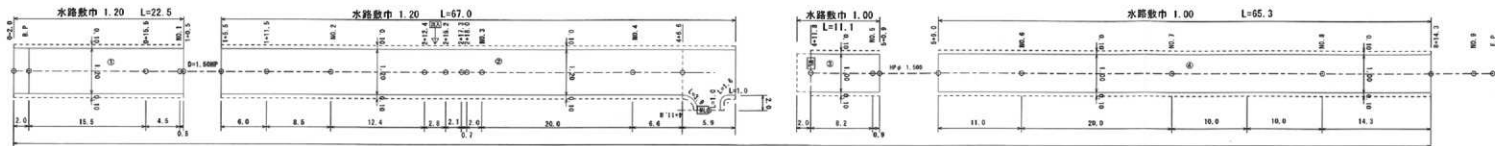
S=1/500



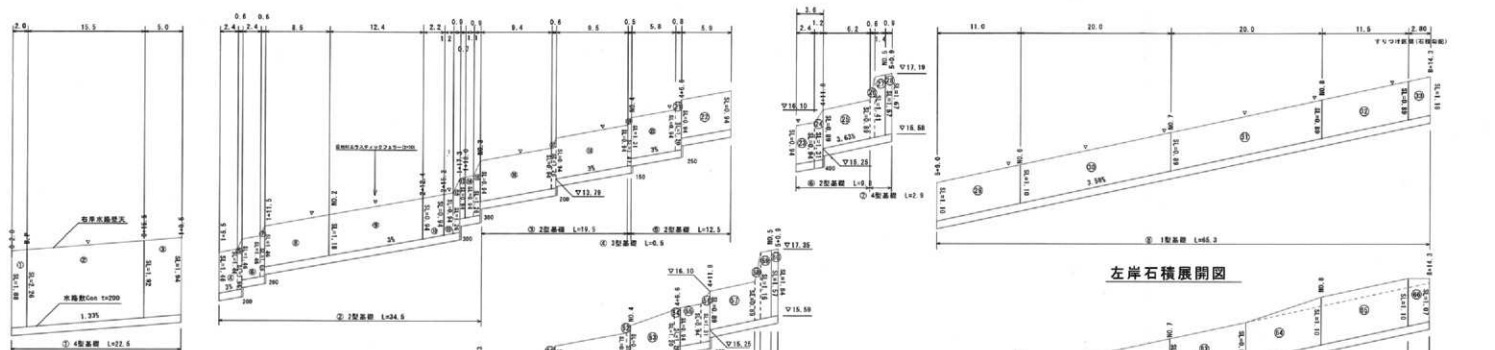
第38图 1号排水路 平面图 (S=1/500)

1号水路 石積・水路敷展開図

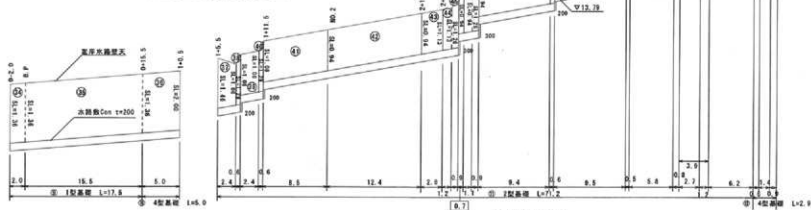
水路敷平面図



右岸石積展開図



左岸石積展開図



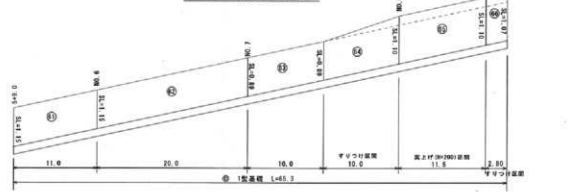
基礎詳細図



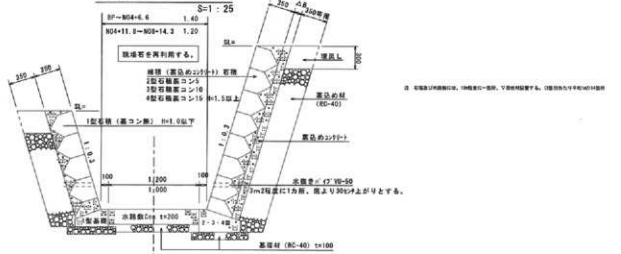
型枠基礎コンクリート仕様表

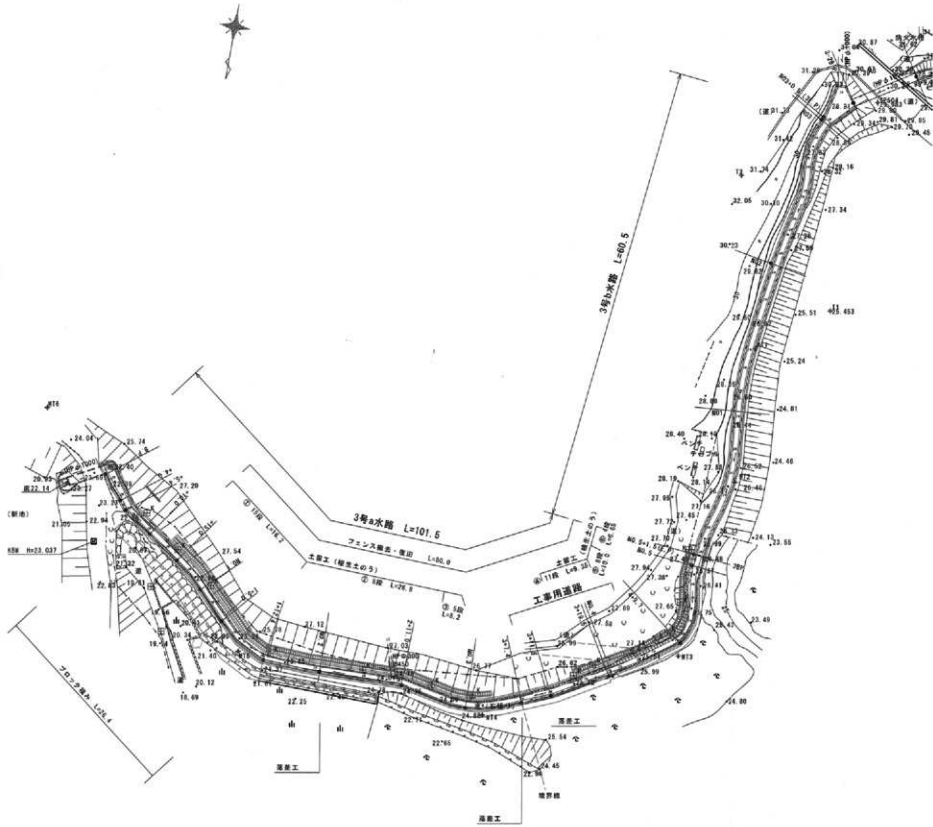
品	11	Δ	8	W	Gen	F
① 1.5m×1.5mコンクリート	0.25	0.0	0.45	0.45	0.70	0.4
② 1.7m×1.7mコンクリート	0.25	0.0	0.55	0.75	0.75	0.4
③ 1.5m×1.5mコンクリート	0.25	0.10	0.35	0.75	0.72	0.4
④ 1.7m×1.7mコンクリート	0.25	0.10	0.55	0.75	0.72	0.4

左岸石積展開図



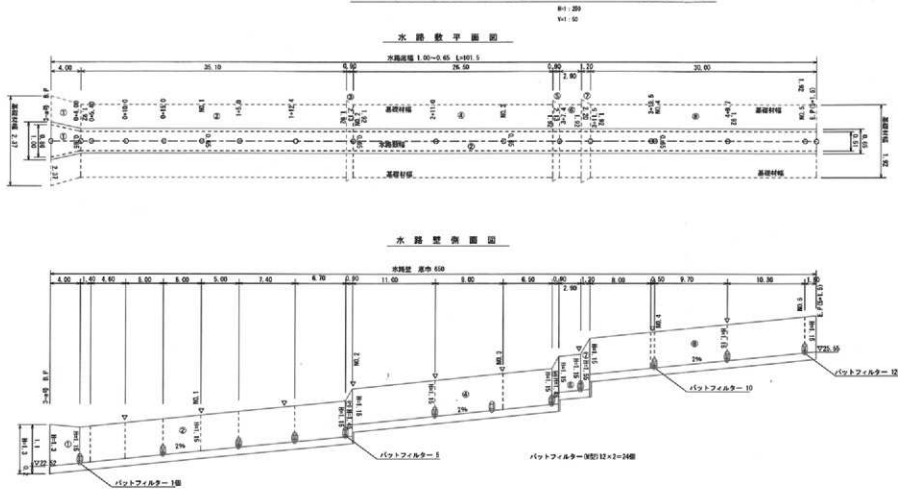
石積標準断面図



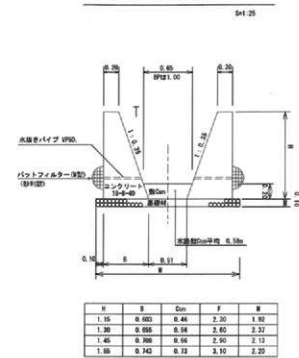


第40図 3号a排水路 平面図 (S=1/500)

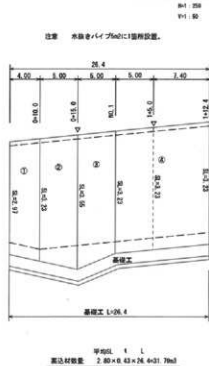
3-a号水路壁・水路敷・ブロック積展開図



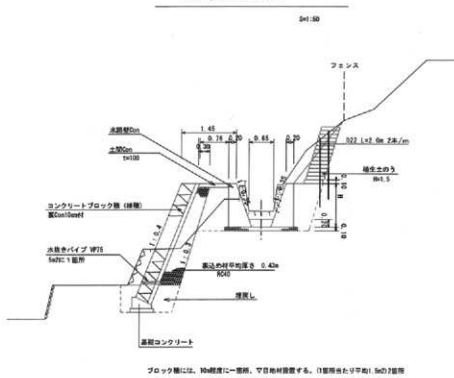
水路標準断面図



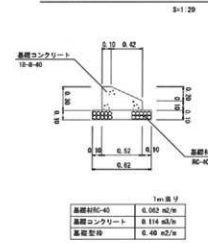
コンクリートブロック積側面図



標準断面図

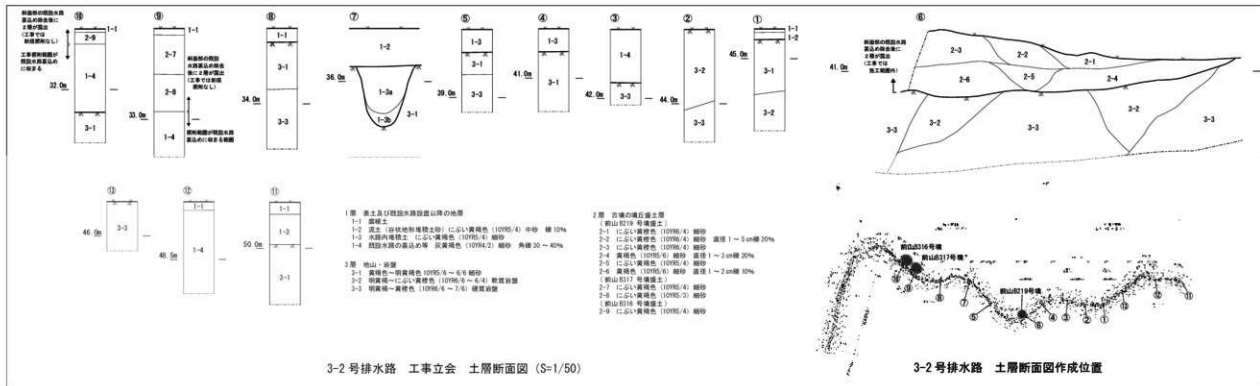
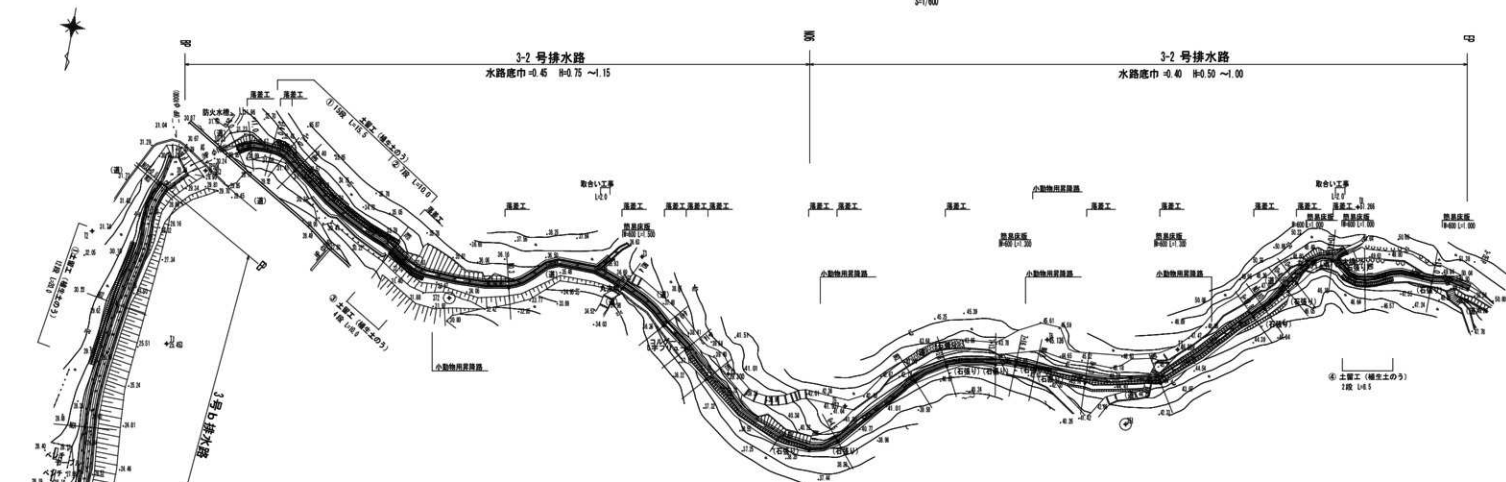


基礎コンクリート工



3号b水路・3-2号水路平面図

S=1/600

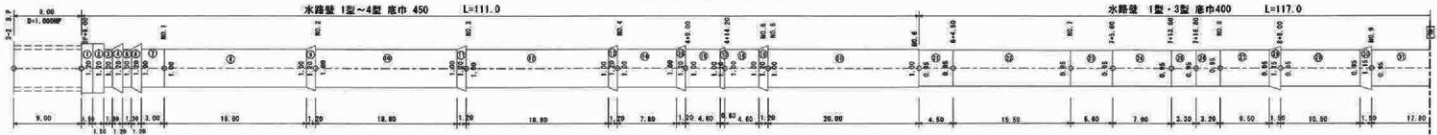


第42図 3号b水路・3-2号排水路 平面図 (S=1/600)・工事立会土層断面図

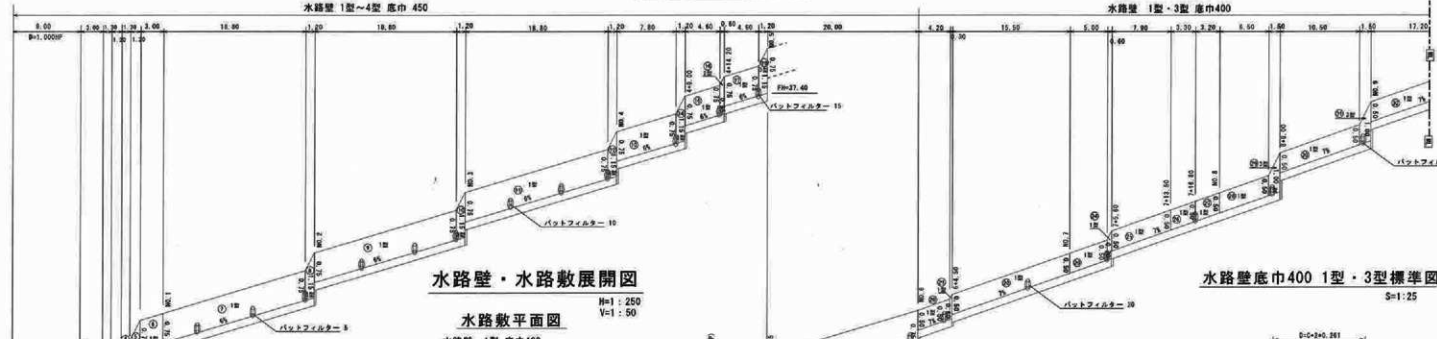
3-2号水路壁・水路敷展開図

H=1:250
V=1:50

水路敷平面図 L=水路壁 228.0



水路壁側面図 L=水路壁 228.0



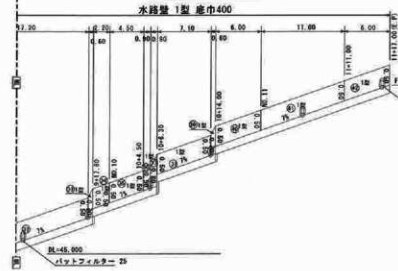
水路壁・水路敷展開図

水路敷平面図

H=1:250
V=1:50

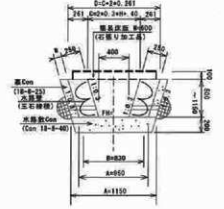


水路壁側面図



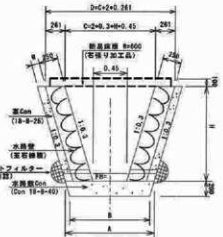
水路壁底巾400 1型・3型標準図

S=1:25



水路壁底巾450 1型~4型標準図

S=1:25

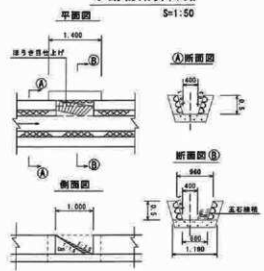


型	H	A	B	W(㎡)
1 壁高400	2.00	1.90	0.80	0.0
2 壁高500	2.50	1.10	0.80	0.010(0.005)
3 壁高600	3.00	1.10	1.00	0.10(0.10)

型	H	A	B	W(㎡)
1 壁高400	0.80	0.80	0.0	0.0
2 壁高500	1.00	1.10	1.00	0.10(0.10)

小動物用昇降路

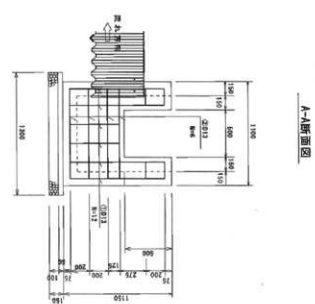
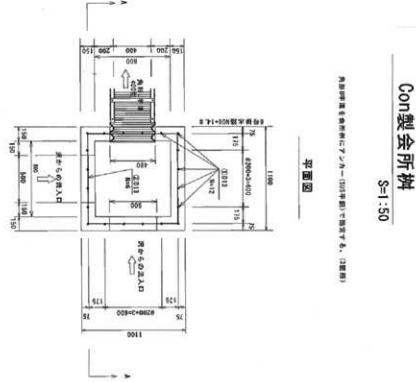
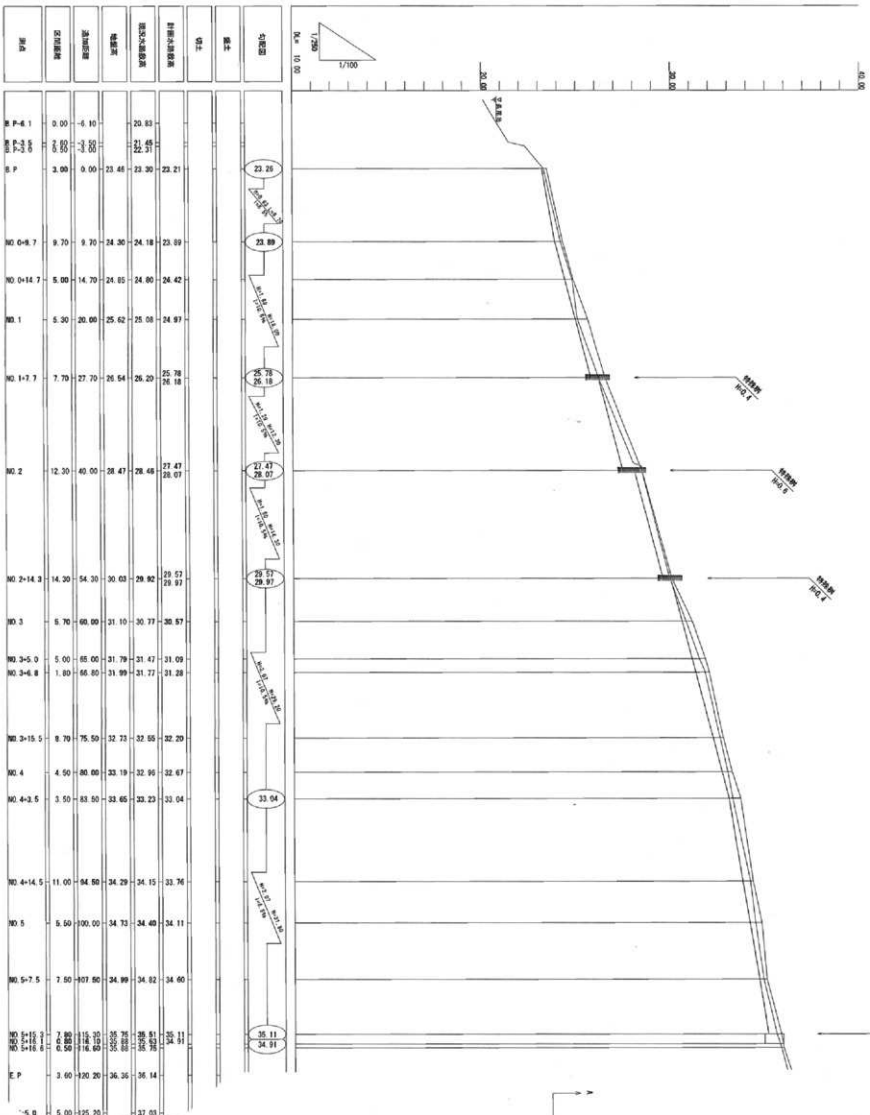
S=1:50



N04付近取合い工事水路展開図
N011付近取合い工事水路展開図



実寸法はφ200×202とする。(一部は実寸法異なる。)
バラストフィルター=30×30×60

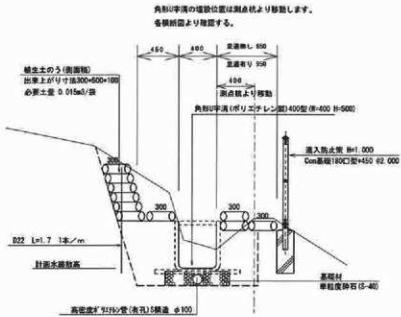


コンクリート製
S=1:50

第47図 6号供水路 縦断面図

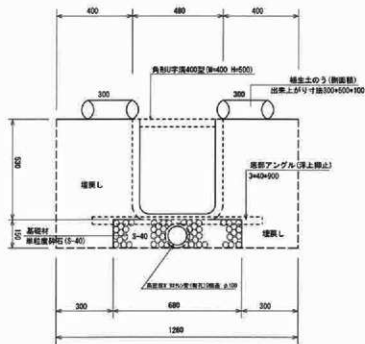
排水路標準断面図

S41.20



角形U字溝施工断面図

S41.10

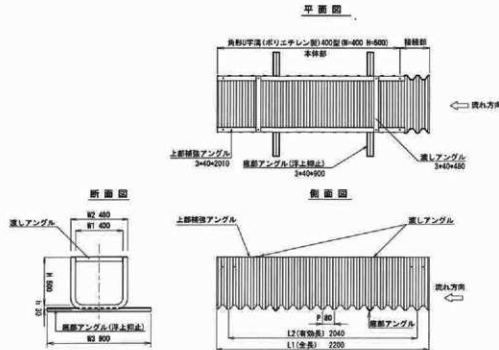


- 備考1 埋戻しは完成面、有電圧などを除いた自然土を用いて、角形U字溝の左右両側に埋戻し、20~30mm厚角形コンクリートなどの転圧器具を用いて仕掛(4層)以上を施して仕上げます。
- 備考2 埋戻しによっては、十分な初期剛性が取れない場合があります。こうした場合は角形U字溝の底における埋戻し土の固結は、足踏み、未だごなどによって十分におこなおまるとします。
- 備考3 U字溝の縁部は、予め決まった位置に、U字溝縁部の縁部に養生土のうを埋戻す。

基礎材(S-40)	厚100	幅600
-----------	------	------

角形U字溝 (ポリエチレン製)

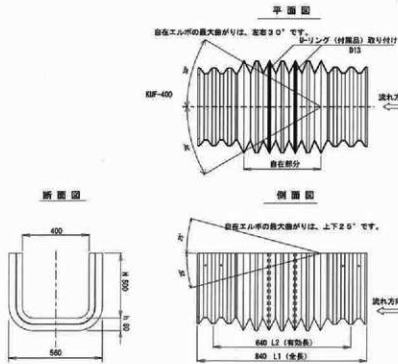
S41.30



- ＜寸法公差＞W1, H1:±4%, L2:±0.4%とし、その他は参考寸法です。
- 備考1 角形U字溝は環状と方形とで、排水量や埋戻しによる制圧層によって規格寸法に若干の誤差が生じます。
- 備考2 アンパングは必ずすべて「環状(断面図)のみ」で指定してください。
- 備考3 取り付け部には必ず転圧機をつかいます。
- 備考4 縁部以下の排水路の傾斜部は、上流側の溝を直線とします。(止水パッキンを使用します。)
- 備考5 転圧機(圧入機)には、アンパングの向きを定めてください。

角形U字溝 (ポリエチレン製)自在エルボ

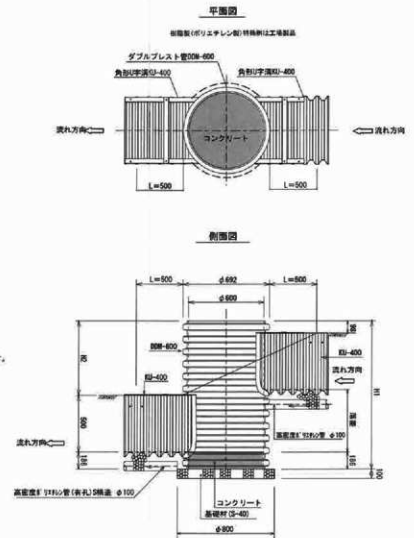
S41.10



- 備考1 自在エルボの最大曲がり角は、左右30°、上下25°です。
- 備考2 自在部分の曲率はサイズにより異なります。
- 備考3 自在エルボの取工に当たっては、Uーリングを取り付ける。取付の状況によって周囲をコンクリートで養生しとり、アンカーピン・転圧角度を増やすなどの作業が必要場合があります。(設計は仕様参照)

樹脂製(ポリエチレン製)特殊渠

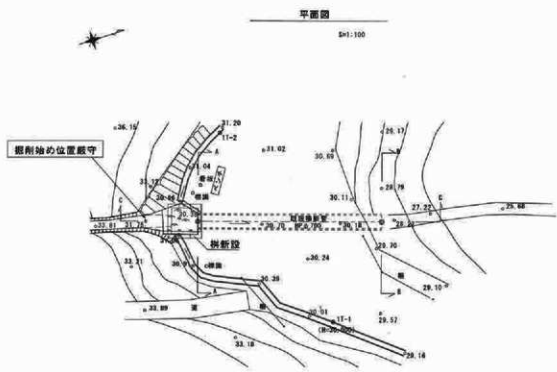
S41.20



- 併せ公差
次の内径は±3%、U字溝の幅・高さ等は±4%とし、それ以外の寸法は±4%とします。
- 備考1 埋戻しは完成面、有電圧などを除いた自然土を用いて、断面図に準じて埋戻し、20~30mm厚角形コンクリートなどの転圧器具を用いて仕掛(4層)以上を施して仕上げます。

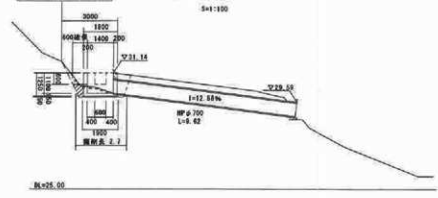
[mm]						
呼称	口径	壁厚	高さ	H	H2	L
K1-400 (H=400, H=500)	038-400 (φ400)	6(±1.7) 厚に15.3	400	1154	498	500
		厚に2.0	600	1324	698	
コンクリート L=100 0.3×0.3×1.1×0.125×3箇所=0.15m ³						
基礎材(S-40) L=100 0.4×0.4×1.4×3箇所=1.5m ³						

S41:100



掘削始め位置継守

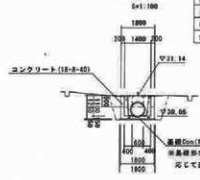
C-C横断面図 S41:100



A-A上流断面 S41:100

L=7.7

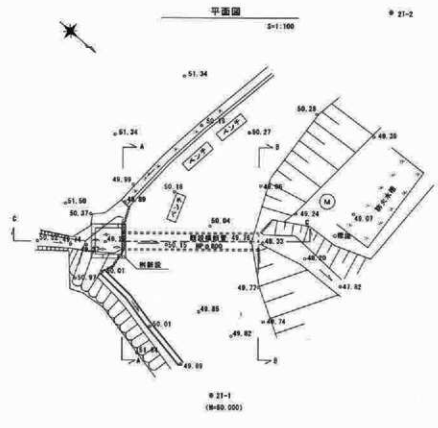
掘削(等速△)	1.1
掘削(等速△)	6.6
C/L掘削無し	6.7
掘削無し	1.4



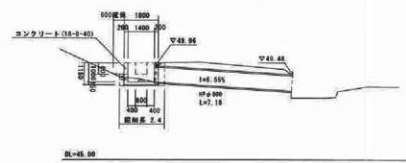
B-B下流断面 S41:100



S41:100



C-C横断面図 S41:100



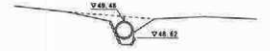
A-A上流断面 S41:100

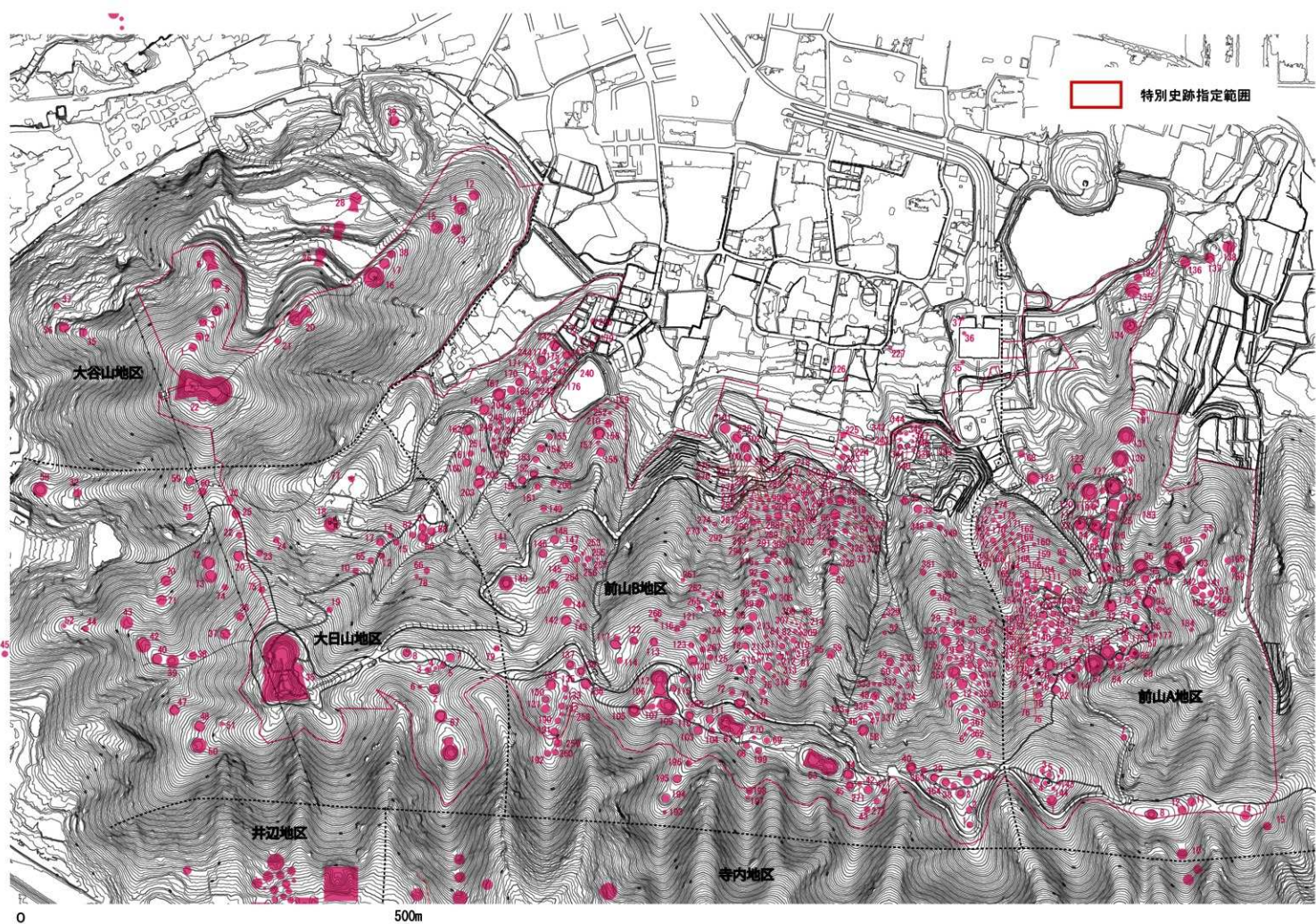
L=2.4

掘削(等速△)	1.6
C/L掘削無し	—
掘削無し	0.8



B-B下流断面 S41:100





*番号は古墳番号を示す。例：前山A地区の13番＝「前山A13号墳」。

20200429改

第53図 特別史跡岩橋千塚古墳群 古墳分布図（詳細図）



前山A58号墳整備 石室の埋め戻し状況



同 石室の埋め戻し完了



同 墳丘盛土状況（後円部）



同 墳丘盛土状況（前方部）



同 張芝状況



同 張芝状況



同 後円部テラス碎石敷設状況



同 前方部上面碎石敷設状況

前山A58号墳 墳丘復元整備状況

写真図版 2



前山A58号墳工事立会 N2ライトレンチ全景（北西から）



同 N2ライトレンチ全景（北から）



同 S2ライトレンチ全景（北東から）



同 S2ライトレンチ南壁（北から）



同 S4ライトレンチ掘削状況（北西から）



同 S4ライトレンチ掘削状況（北西から）



同 前方形前端トレンチ全景（北から）



同 前方形前端トレンチ全景（西から）



市民参加による
埴輪レプリカ製作



石見型埴輪
レプリカ製作状況



馬形埴輪レプリカ
製作状況

写真図版 4



円筒埴輪レプリカ製作状況



石見型埴輪レプリカの焼成（直営）



石見型埴輪レプリカの表面強化処理（直営）



専門業者による須恵器大甕レプリカ製作状況（委託）



石見型埴輪レプリカ
（市民参加製作）



石見型埴輪レプリカ
（市民参加製作）



円筒埴輪レプリカ
（市民参加製作）



馬形埴輪レプリカ
（市民参加製作）



レプリカ設置用基礎工事



レプリカ設置用基礎工事



レプリカ設置用基礎への水抜き穴の貫通作業 (委託)



専門業者によるレプリカの設置 (委託)



大甕レプリカ設置状況 (委託)



馬形埴輪レプリカ設置状況 (委託)



レプリカ設置状況 (委託)



円筒埴輪レプリカの現置への運搬 (直営)



市民参加による
円筒埴輪のレプリカ
運搬



市民参加による
円筒埴輪レプリカの設置



レプリカ製作者による
ワークショップ開催状況
(古墳時代の儀礼の再現)



市民参加による円筒
埴輪レプリカの設置



埴輪設置式の参加者



前山A58号墳
埴丘復元整備完了状況

写真図版 8



前山B153号墳 砂による石室の埋め戻し



前山B153号墳 真砂土による墳丘盛土



前山B153号墳 植生ネット敷設 (完了)



前山B162号墳 砂による石室の埋め戻し



前山B162号墳 真砂土による墳丘盛土



前山B162号墳 植生ネット敷設 (完了)



前山B150号墳 清掃後 (墳丘)



前山B150号墳 石室埋戻し・真砂土による墳丘盛土



前山B150号墳・植生ネット敷設 (完了)



前山B152号墳 清掃後 (墳丘)



前山B152号墳 石室埋戻し・真砂土による墳丘盛土



前山B152号墳・植生ネット敷設 (完了)



前山B153号墳 石室埋戻し・真砂土による墳丘盛土



前山B42号墳 清掃後 (墳丘)



前山B42号墳 石室の埋戻し状況



前山B42号墳・植生ネット敷設 (完了)



前山B153号墳
石室（右側壁）



前山B153号墳
石室（前壁）



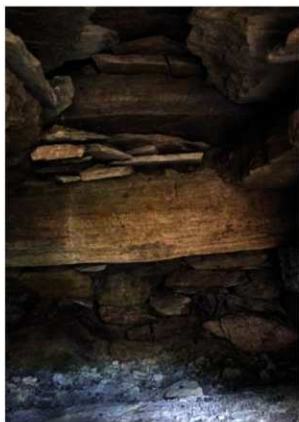
前山B153号墳
石室（奥壁）



前山B162号墳 石室



前山B162号墳 石室 (奥壁)



前山B162号墳 石室 (奥壁上部)



前山B162号墳 石室 (天井部)

前山B162号墳 石室



前山B162号墳 石室 (右側壁)



前山B162号墳 石室 (左側壁)



前山B150号墳 (前壁及び玄室前道)

前山B162号墳・150号墳 石室



前山B150号墳 石室



前山B150号墳 石室
(前壁)



前山B150号墳 石室
(右側壁)

前山B150号墳 石室



前山B150号墳 石室
(奥壁)



前山B150号墳 石室
(奥壁)



前山B150号墳 石室
(左側壁)



前山B152号墳 石室



前山B152号墳 石室
(前壁)



前山B152号墳 石室
(閉塞石か)

前山B152号墳 石室



前山B152号墳 石室
(奥壁)



前山B152号墳 石室
(左側壁)



前山B156号墳 石室



前山B156号墳 石室
(前壁)



前山B42号墳 石室



前山B42号墳 石室
(前壁)

前山B156号墳・42号墳 石室



前山B42号墳 石室
(奥壁及び石棚)

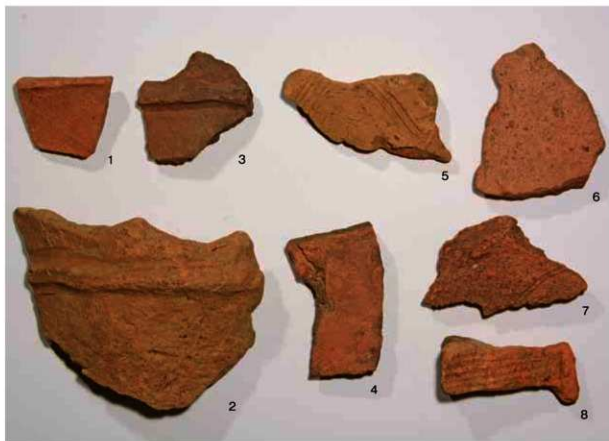


前山B42号墳 石室
(左側壁)

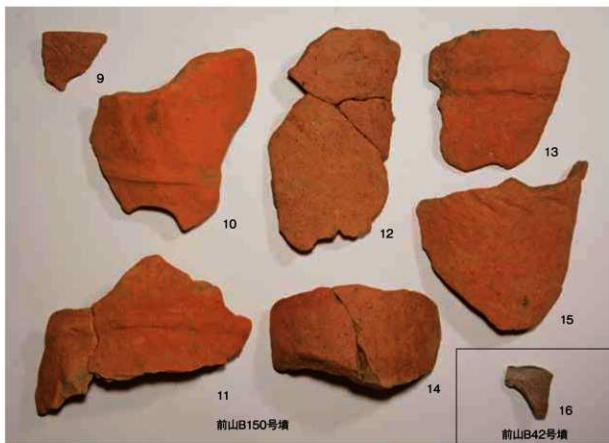


前山B42号墳 石室
(右側壁)

前山B42号墳 石室



石室実測対象古墳出土遺物（前山B162号墳）



石室実測対象古墳出土遺物（前山B150号墳・前山B42号墳）



石室実測対象古墳周辺出土遺物（前山B156号墳周辺）



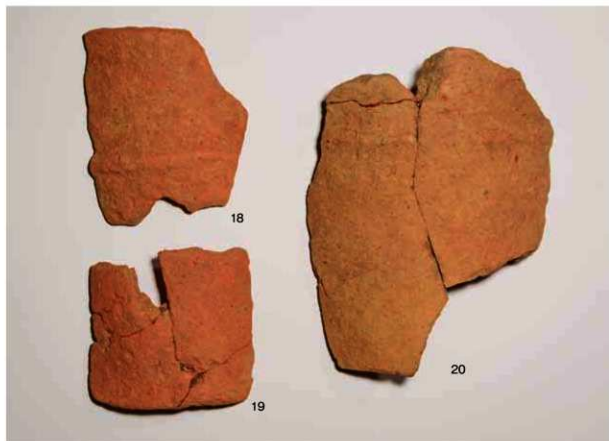
石室実測対象古墳（第1期整備）出土遺物（前山A130号墳・前山B147号墳）



石室実測対象古墳（第1期整備）出土遺物（前山B167号墳）



石室実測対象古墳（第1期整備）出土遺物（前山B174・176・240・249・250号墳・大日山82号墳）



石室実測対象古墳（第1期整備）出土遺物（前山B164号墳）



石室実測対象古墳（第1期整備）出土遺物（前山B164号墳）



石室実測対象古墳（第1期整備）出土遺物（前山B164号墳）



石室実測対象古墳（第1期整備）出土遺物（前山B170号墳）



石室実測対象古墳（第1期整備）出土遺物（前山B170号墳）



石室実測対象古墳（第1期整備）出土遺物（前山B172号墳）



石室実測対象古墳（第1期整備）出土遺物（大日山12・14号墳）



石室実測対象古墳（第1期整備）出土遺物（大日山68・81号墳及び大日山14・15号墳周辺）



1号排水路 (No.8+14.3) 完成



1号排水路 (No.8+14.3) 完成



1号排水路 (No.8) 完成



1号排水路 (No.8) 完成



1号排水路 (No.7) 完成



1号排水路 (No.5+9.0) 完成



1号排水路 (No.5+9.0) 完成



1号排水路 (No.4+6.6) 完成



1号排水路(No.2+12.4) 完成



1号排水路(No.1+5.5) 完成



1号排水路(No.1+0.5) 完成



1号排水路(B.P) 完成



3号a排水路(B.P) 完成



3号a排水路(B.P ~ No.1) 完成



3号a排水路(E.P) 完成



3号b排水路(No.1 ~ No.2) 完成

排水路改修工事 完成状況 (2)



3号b排水路(E.P ~ No.1) 完成



3号排水路(E.P) 完成



3-2号排水路(No.BP+9.0) 完成



3-2号排水路(No.2) 完成



3-2号排水路(No.3) 完成



3-2号排水路(No.5) 完成



3-2号排水路(No.6) 完成



3-2号排水路(No.8) 完成



3-2号排水路(No.9) 完成



3-2号排水路(No.11) 完成



6号排水路(B.P ~ No.1) 完成



6号排水路(No.2 ~ No.3) 完成



6号排水路(No.3 ~ No.4) 完成



6号排水路(No.4 ~ No.5) 完成



6号排水路(No.5 ~ E.P) 完成



6号排水路(B.P) 完成

排水路改修工事 完成状況 (4)



10号排水路 完成



10号排水路 完成



13号排水路 完成



13号排水路 完成



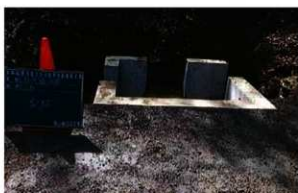
15号排水路 完成



15号排水路 完成



会所樹 完成



横断管接続樹 (7A) 完成

報告書抄録

ふりがな	とくべつしせきいわせせんづかふんぐん はつくつちようさ・ほぞんせいびじぎょうほうこくしよ4							
書名	特別史跡岩橋千塚古墳群 発掘調査・保存整備事業報告書4							
副書名								
編著者名	萩野谷正宏/佐々木宏治							
発行機関	和歌山県教育委員会							
所在地	〒640-8585 和歌山市小松原通一丁目1番地							
発行年月日	西暦2021年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
特別史跡 岩橋千塚古墳群	和歌山市岩橋	302015	185	34° 13' 20"	135° 13' 50"	1973.5 ～ 1973.8	—	史跡整備
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
前山A58号墳	古墳	古墳時代	前方後円墳 (横穴式石室)	円筒埴輪、形象埴輪、須恵器		墳丘復元整備に伴う工事立会		
前山B153号墳	古墳	古墳時代	円墳 (横穴式石室)			古墳修景工事に伴う石室実測		
前山B162号墳	古墳	古墳時代	円墳 (横穴式石室)	円筒埴輪、形象埴輪		古墳修景工事に伴う石室実測		
前山B150号墳	古墳	古墳時代	円墳 (横穴式石室)	円筒埴輪		古墳修景工事に伴う石室実測		
前山B152号墳	古墳	古墳時代	円墳 (横穴式石室)			古墳修景工事に伴う石室実測		
前山B156号墳	古墳	古墳時代	円墳 (横穴式石室)			古墳修景工事に伴う石室実測		
前山B42号墳	古墳	古墳時代	円墳 (横穴式石室)	須恵器		古墳修景工事に伴う石室実測		
要約	特別史跡岩橋千塚古墳群の第2期整備事業（平成27年度～令和2年度）に伴う報告書。前山A58号墳の墳丘復元整備（発掘調査成果は和歌山県教育委員会2015『特別史跡岩橋千塚古墳群発掘調査・整備事業報告書3』に収録）、古墳修景工事及び石室実測調査、危険木伐採、受益施設設置等、排水路改修工事、古墳群のモニタリングなどの成果を掲載した。							

特別史跡岩橋千塚古墳群
発掘調査・保存整備事業報告書 4

発行日 令和3年3月31日
発 行 和歌山県教育委員会
和歌山市小松原通1丁目1
編 集 和歌山県立紀伊風土記の丘
和歌山市岩橋 1411
印 刷 株式会社 協和
和歌山県海南市南坂 5-3